

inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

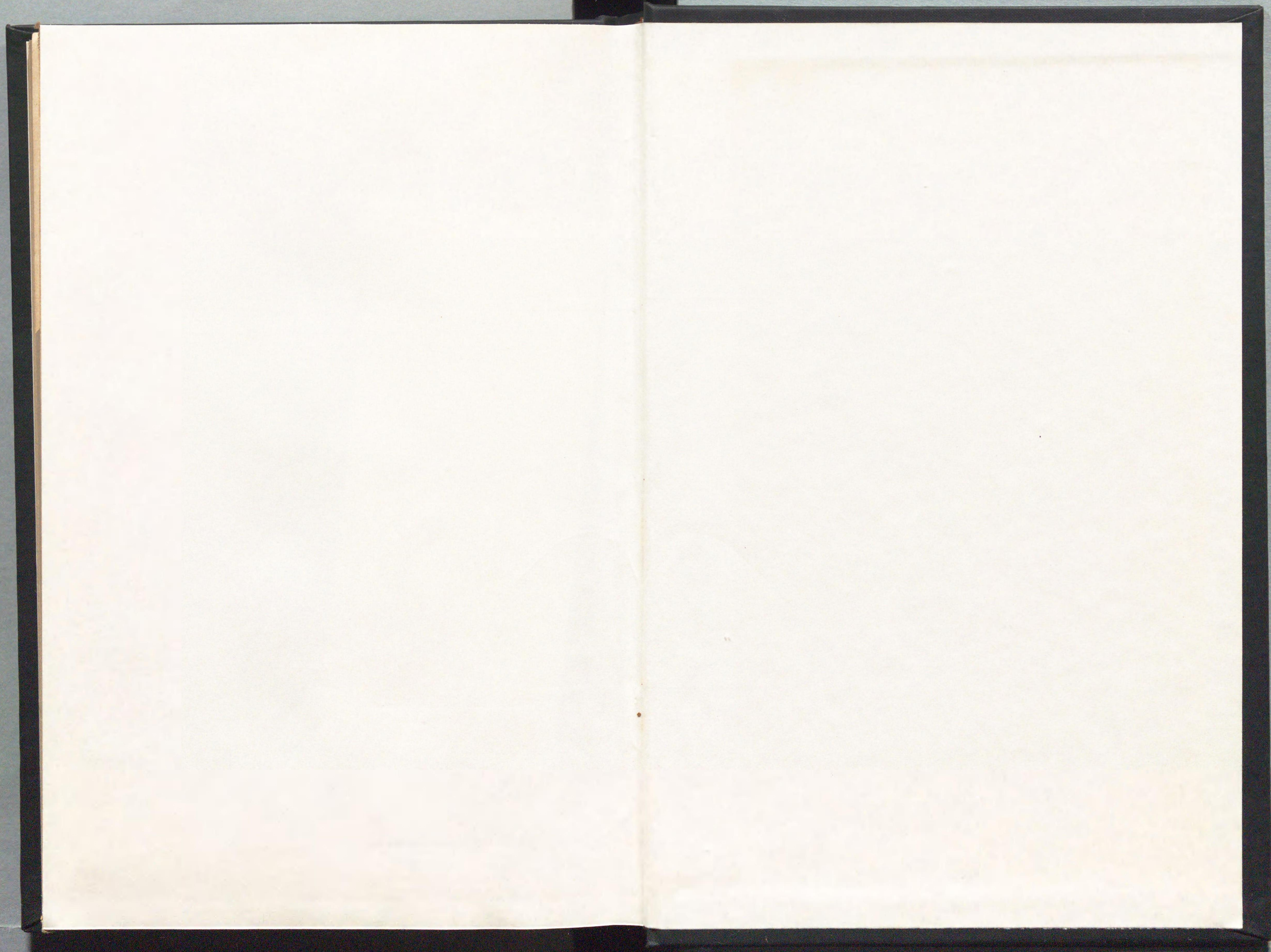
Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black

Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak



A	1	2	3	4	5	6	M	8	9	10	11	12	13	14	15	B	17	18	19



浦第百九十一號

今村信行著

民事訴訟法正解

強制執行
公示催告
仲裁手續

再版

東京法學院發行

壹四九壹

今村信行著

民事訴訟法正解

東京法學院發行

強制執行
公示催告
仲裁手續

再版

受 入 年 月 日	價 格	冊 數	壹 部	番 號
明治 廿七 年 四 月 廿 二 日		壹 冊		浦和第一四八一號



民事訴訟法正解後篇目次

第一編 強制執行

緒言

第一章 總則

第一節 強制執行ノ基本タル債務名義

第一款 判決ニ因ル債務名義

第二款 判決以外ノ債務名義

第三款 強制執行保全ノ債務名義

第二節 執行力アル正本(強制執行ノ要件ノ形)

第三節 執行着手ノ要件

第四節 執行機關

目次

一	七	七	五	五	四	七	同	六	同	一
	六	一	五	三	六			丁	丁	丁
	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



827615
57



民事訴訟法正解後篇目次

第一編 強制執行

緒言

第一章 總則

第一節 強制執行ノ基本タル債務名

義

第一款 判決ニ因ル債務名義

第二款 判決以外ノ債務名義

第三款 強制執行保全ノ債務名義

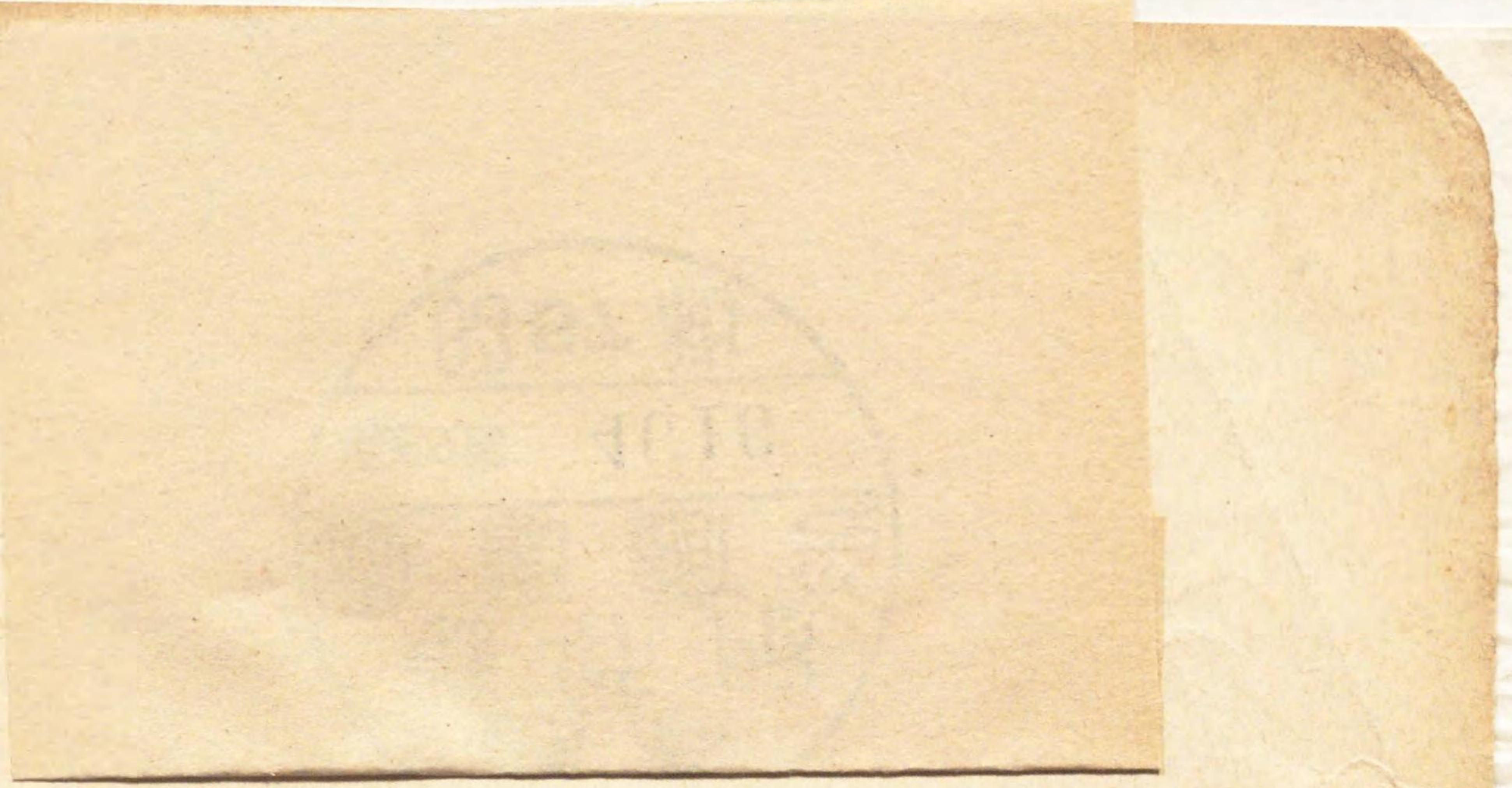
第二節 執行力アル正本(強制執行ノ要件ノ形)

第三節 執行着手ノ要件

第四節 執行機關

目次

一	七	七	五	五	四	七	同	六	同	一
	六	一	五	三	六			丁	丁	丁
	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



827615
57

目次

第一款	執達吏	七七丁
第二款	執行裁判所	八七丁
第三款	強制執行上他ノ機關ノ共助	九三丁
第五節	強制執行上ノ當事者	九四丁
第六節	強制執行ノ進行及ヒ其遮斷	九九丁
第七節	強制執行ノ費用	一〇六丁
第八節	強制執行ニ關スル異議	一〇七丁
第一款	執行文付與ニ關スル異議	一〇八丁
第二款	強制執行實施ニ關スル異議	一一二丁
第三款	債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議	一一五丁
第四款	第三者ノ異議	一二〇丁
第二章	金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	一二五丁
第一節	通則	一二七丁

第二節 動産ニ對スル強制執行

第一款 有體動産ニ對スル強制執行 同 丁

第二款 債權及ヒ其他ノ財産權ニ對スル強制執行 一七一丁

第三款 配當手續 二〇一丁

第三節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則 二一九丁

第二款 強制競賣 二二一丁

第三款 強制管理 二八〇丁

第四節 船舶ニ對スル強制執行

二九二丁

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行

三〇三丁

第四章 假差押及ヒ假處分

三一六丁

目次

三

目次

第一節 假差押

三一九丁

第一款 假差押裁判所ニ屬スル假差押ノ訴

訟手續

三二〇丁

第二款 執行機關ニ屬スル假差押命令ノ執

行行爲

三三七丁

第二節 假處分

三四八丁

第一款 假處分裁判所ニ屬スル訴訟手續

三四九丁

第二款 假處分命令ノ執行行爲

三五六丁

第二編 公示催告手續

三五八丁

第一章 一般ノ失權ヲ目的トスル公示

催告手續

三六〇丁

第二章 證書ノ無効宣言ヲ目的トスル

特別ノ公示催告手續

三七〇丁

第三編 仲裁手續

三七五丁

第一章 仲裁契約

三七六丁

第二章 仲裁機關ノ編成

三八二丁

第三章 仲裁判斷

三八六丁

第四章 仲裁判斷取消ノ訴

三九〇丁

民事訴訟法正解後篇目次終

目次

五

最高裁判所圖書印



民事訴訟法正解後篇

今村 信行 著

第一編 強制執行

緒言

強制執行

強制執行ハ公ノ威力ヲ以テ裁判所ノ裁判ニ因リ確定シタル私權ノ實行ヲ盡サシムルニ在リ凡ソ私權ノ侵反アレハ訴ヲ起シ裁判權ニ依頼シテ私權ノ保護ヲ受ク其執行ヲ法律上確定スルコトヲ得然レトモ其權利ハ債權者ノ意思ノミニ因リ實行シ得ヘキモノニ非ラス若シ其實行ニ故障アルトキハ之カ強制的實行ノ保護ヲ與ヘサル可カラス是ニ於テ乎裁判所ハ獨リ判定權アルノミナラス強制執行權ヲ有シ債權者ノ申立ニ因リ裁判上確定シタル私權實行ヲ爲サシム可キモノトセリ故ニ私權ヲ主張スルモノハ管ニ

民事訴訟法正解 強制執行 緒言

國家ノ裁判權ニ依頼シテ權利ノ確定ヲ受クルノミナラス其保護ニ因リ強
 制ノ實行ヲ求ムルコトヲ得
 其裁判權ノ保護ニ因リ權利ノ判定ヲ受クルヲ訴訟ト云ヒ其強制的實行ノ
 保護ヲ受クルヲ強制執行ト云フ蓋シ私權上ノ訴ニハ履行訴訟ト確認訴訟
 トノ別アリ確認訴訟ハ其法律關係ノ存否ヲ確定スルヲ以テ足レリトシ別
 ニ其執行ヲ要セスト雖モ履行訴訟ニ在リテハ單ニ其確定ヲ以テ足レリト
 セス必ス其權利ノ實行ヲ要ス若シ債務者ニシテ任意ノ履行ヲ爲サハルト
 キハ之ヲ強制シテ實行セシムルノ途ナカル可カラズ強制ニハ威力ノ行使
 ヲ要ス其威力ノ行使ハ公ノ秩序ノ爲メ特別ナル場合ヲ除ク外ハ之ヲ一個
 人ニ委ヌヘキモノニ非ラス必スヤ國家カ其任ニ當ラサル可カラズ故ニ裁
 判權ノ一部ニ此強制執行權ヲ與ヘ債權者ノ申立ニ因リ之カ保護ヲ爲スニ
 在リ此公ノ威力ニ依リ裁判所ノ確定シタル私權ノ實行ヲ強制スル法規ヲ
 強制執行法ト云フ
 強制執行ノ手續ハ訴訟手續ノ一部ニ屬スルヤ否ヤ訴訟手續ナル語ヲ狹義
 ニ解スルトキハ訴ノ提起ヨリ各種ノ手續ヲ經テ判決ヲ爲シ其確定ニ依リ

權利拘束ノ終ヲ告クルマテテ謂フモノナリ而シテ強制執行ノ手續ハ其訴
 訟手續完結後端ヲ改メ執行機關ニ依リ之ヲ開始ス可キモノニシテ其管轄
 モ訴訟ト同一ナラス之カ費用ニ至テモ訴訟費用ト執行費用トハ之ヲ區別
 シ其取立方法モ亦同一ナラス其行爲モ前者ハ訴訟行爲ト云ヒ後者ハ執行
 行爲ト稱シ兩者間ノ性質多少異ナル所アリ其訴訟行爲ト執行行爲トハ猶
 ホ刑事ニ於テ刑事訴訟法ニ依ル行爲ト刑事ノ判決ヲ執行スル監獄則其他
 ノ規定ニ依ル刑罰執行行爲ト差異アルカ如ク全然同一ナルモノニ非ラス
 而シテ刑事ニ在テハ其訴訟行爲ハ裁判權ノ行使トシ司法機關ニ屬セシム
 ルモ執行上ノ行爲ニ至テハ裁判權ノ行使中ニ屬セシメス此民事訴訟法實
 施以前ニ於ケル民事ノ裁判ノ執行ハ行政機關タル戶長役場ノ役員ニ委テ
 タリ蓋シ民事刑事ヲ問ハス裁判ノ執行ハ行政事務トシテ行政官ニ委ヌ可
 キヤハ舊來議論アル所ニシテ學說トシテモ裁判ノ執行ヲ以テ行政事務ト
 爲スモノアリ而シテ此裁判權ニシテ唯判定ヲ爲スノ權ヲ有スルニ止マリ
 之ヲ實行スル權ナクハ恐ラクハ裁判ノ實效ヲ奏スルコト難カル可シ殊
 ニ民事訴訟ノ如キハ私權ノ得喪ヲ裁判權ニ依頼スルモノナレハ強制ノ執

行權ヲシテ裁判權ノ一部ト爲サ、ル以上ハ完全ナル保護ヲ與フルコトヲ得ス故ニ此權ハ裁判權ニ屬セシメ其強制執行ハ司法事務ト爲スヲ妥當トス刑事ニ付テモ同様ノ說ヲ採ル者アリト雖モ事公法上ノ權利ノ實行ナレハ其費用ノ如キハ國庫若クハ府縣ノ負擔ト爲サ、ル可カラス此等ノ關係ヨリシテ單ニ理論ニ依リ其當否ヲ決スル能ハス其攻究ハ本法ニ關係ナキカ故ニ茲ニ深ク論セス民事ノ強制執行ハ私權保護ノ一部ニシテ訴訟手續トハ多少區別アレトモ訴訟手續ト相關聯ス可キ手續ニ係リ裁判權ノ行使ニ關スルモノナレハ司法事務ト爲ス可ク私權ノ實行ヲ保護スル爲メノ裁判權ノ行使ニ關スルモノナレハ廣義ニ謂ヘハ民事訴訟法ノ一部ニ屬ス故ニ本法中ニ之カ規定ヲ設ケタル所以ナリ之ヲ要スルニ強制執行ハ國家ノ裁判權カ公ノ威力ヲ以テ裁判上確定シタル私權ニ付キ債權者ノ申立ニ因リ強制的ニ其實行ヲ盡サシムルニ在リ然レトモ此法律中ニハ其執行ノ範圍ヲ擴張シ裁判ニ因リ確定シタル私權ニ非ラスシテ特ニ強制執行ヲ許スモノアリ例ヘハ公正證書ニ基ク執行和解ニ基ク執行ノ如キ是ナリ此等ハ眞ニ一ノ變例ニ屬ス又民事ノ裁判ニ非ラスシテ此強制執行法ヲ準用スル

民事ノ裁判ニ非ラスシテ強制執行法ヲ準用スル場合

- モノアリ是レ唯本法ノ規定ヲ準用スルニ過キスシテ之カ爲メ其執行ヲ民事訴訟法上ノ強制執行ナリト謂フヲ得ス此種ニ屬スルモノハ左ノ如シ
- (一) 行政裁判所ノ判決ニシテ其執行ノ囑託アリタル事件(明治二十三年法律第四十八號執行法第二條參看)
 - (二) 陸海軍々法會議ノ裁判ニシテ其執行ノ囑託アリタル事件(明治二十三年法律第六十七號陸海軍々法會議私訴裁判)
 - (三) 罰金、科料、過料ヲ徵收シ及ヒ沒收品ヲ取上ク若クハ之ヲ賣却シ又ハ訴訟費用若クハ追徵金ヲ沒收ス可キ裁判所ノ命令又ハ檢事ノ命令アリタル事件(明治二十三年法律第五十條參看)
 - (四) 法人ニ對スル罰金ノ裁判アリ檢事ノ命令ニ係ル債務名義(明治三十三年法律第五十二號參看)
 - (五) 破産ノ場合ニ於ケル動産又ハ不動産ヲ競賣ニ付スル事件(商法第八條參看)
- 強制執行ハ前述セルカ如ク裁判上確定シタル私權ヲ實行スルニ在レハ其私權ノ請求ノ種類ニ從ヒ同一ナル能ハス財産上ニ關スルモノアリ身分上ニ係ルモノアリ又財産上ノ訴件中ニモ金錢若クハ物品ノ給付ヲ目的トス

ルモノアリ行爲ヲ目的トスルモノアリ其種類ノ異ナルニ從ヒ強制執行ノ方法モ亦同一ナル能ハス又終局的ニ確定シタル私權ニ非ラスシテ其權利ノ強制執行ヲ保全スル爲メ一時ノ執行ヲ許ス可キモノアリ即チ假差押假處分ノ執行是ナリ本法ハ先ツ此等ニ通シテ適用ス可キ執行手續ノ總則ヲ定メ次ニ各種ノ執行方法ヲ規定セリ故ニ余ハ其編次ニ從ヒ一般ノ總則ヲ講述シテ次テ各種ノ執行方法ヲ攻究セントス

第一章 總則

本章ニ於テハ各種ノ強制執行ニ通シテ適用ス可キ法則及ヒ執行費用等ノ規定ヲ爲スノミナラス執行行爲ニ非ラサルモ一般執行上ニ於テ生スルコトアル可キ強制執行上ノ異議ニ關スル規定ヲモ設ケアルヲ以テ此等ヲ併セテ攻究シ尙ホ且各種ノ強制執行ノ保全處分タル假差押假處分ニ關スル特別訴訟手續及ヒ其執行行爲ヲ茲ニ加ヘテ攻究スヘシ

第一節 強制執行ノ基本タル債務名義

債務名義ノ意

抑モ強制執行ハ裁判ニ因リ確定シタル私權ノ實行ヲ爲サシムルモノナレハ其執行ヲ爲サシムルハ裁判上法律關係ヲ確定セラレタル執行ノ原因ナカシル可カラズ之ヲ稱シテ債務名義ト云フ此債務名義ハ即チ強制執行ノ基本タルモノニシテ執行ノ範圍モ亦之ニ依リテ定マル可キモノナリ蓋シ私權ヲ確定スルノ裁判ヲ爲スモノハ主トシテ判決ヲ以テス可キモノニシテ其債務名義ハ判決ニ依ルヲ常トシ判決ノ主文ニ包含スルモノハ即チ執行ノ範圍タル可キモノナリ然レトモ判決ニ非ラサル裁判ニシテ法律關係ヲ確定シ債務名義タル可キモノアリ依テ之ヲ區別シテ説明セン

第一款 判決ニ因ル債務名義

裁判ニ因リ私權ヲ確定スルハ主トシテ判決ヲ以テス可キコトハ前陳ノ如シ然レトモ判決中ニハ中間判決ノ如ク請求ニ付キ判決ヲ爲サルモノアリ之ニ依リ私權關係ヲ確定スルモノニ非ラス又終局判決ト雖モ形式上ノ判斷ニ止マリ強制執行ヲ爲ス可キ私權ヲ確定セサルモノアリ或ハ實體上ノ判定ヲ爲スモ原告ノ請求ヲ排斥シタルモノ、如キハ事實強制執行ヲ要セサルヤ論ヲ俟タス尤モ訴訟費用ニ付キ判決アリタルトキハ其費用ノミ

民事訴訟法正解 強制執行ノ總則 強制執行ノ基本タル債務名義

債務名義タル
ヲ得ヘキ判決

確定ノ終局判
決

終局判決

ハ執行ス可キ債務名義トナルヘシ故ニ判決ハ凡テ私權關係ヲ確定シタルノミニテハ執行シ得ヘキ債務名義タルニ非ラス其債務名義タル可キモノハ主トシテ權利ヲ認メ實體上ノ判斷ヲ爲シタルモノニ限ル斯ル判決ハ終局判決タルヲ常トス而シテ此終局判決ハ直チニ執行シ得ヘキモノニ非ラス其判決確定スルカ又ハ假執行ノ宣言アルヲ要ス故ニ判決ニ因ル債務名義モ其種類一ナラサレハ以下順次ニ之ヲ講述セントス

(第一) 確定ノ終局判決

終局判決ニシテ前ニ述フルカ如ク實體上ノ權利ヲ認メタル判決カ確定ニ依リ債務名義ト爲ル可キモノトス

(二) 終局判決 終局判決トハ中間判決ニ對シテ謂フ用語ニ係リ中間判決トハ訴訟進行ノ中間ニ於テ争ヲ生シ之カ裁判ヲ爲スニ非ラサレハ訴訟ヲ進行スル能ハサル場合ニ其争ヲ決スル判決ヲ謂フ此判決ハ通常本案ノ請求ニ付キ裁判ヲ爲スモノニ非ラサレハ債務名義トナラサルハ勿論獨立シテ確定力ヲ有シ得ヘキモノニ非ラス終局判決ハ本案ノ訴ニ付キ裁判ヲ爲ス可キモノニシテ此判決ニシテ實體上ノ權利ヲ

認メタルモノハ其判決確定スレハ闕席判決ナルト對席判決ナルトヲ問ハス一部ノ終局判決ナルト全部ノ終局判決ナルトヲ論セス債務名義タル可キモノナリ

又中間判決ト雖モ上訴及ヒ強制執行ニ關シテハ終局判決ト看做ス可キ規定ヲ設ケタルモノアリ即チ證書訴訟爲替訴訟ニ於テ被告カ敗訴シタルトキ留保ヲ掲ケタル判決(第四百九條)又ハ控訴審ニ於テ被告ノ防禦方法ヲ却下シテ其被告ニ敗訴ヲ言渡ス場合ノ留保ヲ掲ケタル判決(第四百二條)等はナリ此等ノ判決ハ尙ホ本案ノ訴訟ヲ續行スルコトアルカ故ニ中間判決ノ一ニ屬スト雖モ其性質ハ一種特別ナルモノニシテ現ニ本案ノ請求ニ付キ假リニ判決ヲ爲シアルモノナレハ其中間判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ終局判決ト同視ス故ニ形式上ノ確定力ヲ生シ其判決確定スルニ至レハ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ル可キモノナリ然レトモ單ニ上訴ニ關シテ終局判決ト看做ス可キ原因ノミニノ判決(第七條)ノ如キハ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ルノ限ニ在ラス上訴及ヒ強制執行ニ關シテ終局判決ト看做ス可キモノハ形式上ノ確

定カテ生シ執行上ノ債務名義タルコトハ以上ノ如シト雖モ其效力タルヤ條件附ニシテ其訴訟ノ續行ニ依リ右判決ヲ廢棄セラル、コトアリ此場合ニハ其效力ハ消滅シ若シ其債務名義ニ依リ執行ニ着手シタルモノナレハ其執行ハ停止セラレ、ニ至ル可シ(第五百五十一條第一號)

(二) 判決ノ確定 判決ノ確定ニ二個ノ效力アリ形式上ノ確定力及ヒ實體上ノ確定力是ナリ形式上ノ確定力トハ故障ノ申立又ハ上訴ノ提起ニ依リ原裁判ニ對シ不服ヲ主張スルコトヲ得サルノ效力ニシテ換言スレハ訴訟法上ノ效力ヲ生スルヲ謂フ從テ本法ノ規定ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキ效力ヲ有ス又實體上ノ確定力トハ當事者間ノ法律關係ヲ永遠ニ確定シ一事不再理ノ原則ヲ主張シ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ效力ニシテ即チ民法上ノ確定ノ效果ヲ謂フ所謂既判力ノ效力ヲ生スルモノナリ

終局判決ト看做ス可キ判決ノ如キハ形式上ノ確定力ヲ有スルニ過キスト雖モ實體上ノ判決ヲ爲シタル終局判決ハ形式上及ヒ實體上ノ效力ヲ併セテ生ス可シ蓋シ實體上ノ效力ノ問題ハ民法ト相俟テ攻究ス

可キモノニシテ一般ニ判決ノ效果ヲ攻究スル場合ニ論述ス可キモノナレハ之ヲ措キ茲ニハ唯強制執行ニ付キ其形式上ノ確定力ヲ生スル時期ヲ述フルニ止メントス

(甲) 判決確定ノ時期 終局判決又ハ上訴及ヒ強制執行ニ關シ終局判決ト看做ス可キ中間判決ハ左ノ時期ニ於テ確定ス

(イ) 各審級ニ於テ一般ニ故障ヲ許ス闕席判決ハ故障申立ニ付テノ十四日ノ不變期間内ニ其申立ナク之ヲ經過シタルトキ確定ス(第二百二十五條第二項)

(ロ) 第一審若クハ第二審ニ於テ故障ヲ許サル闕席判決ニ付テハ控訴若クハ上告ニ付テノ一个月ノ不變期間内ニ其上訴ノ提起ナク之ヲ經過シタルトキ確定ス(第三百七十九條第二項、第三百七十三條第一項、第三百七十七條第一項)

(ハ) 第一審若クハ第二審ニ於ケル對席判決ハ控訴若クハ上告ニ付テノ一个月ノ不變期間内ニ其上訴ノ提起ナク之ヲ經過シタルトキ確定ス(第四百三十七條第一項、第四百四十一條)

(三) 第三審即チ上告審ニ於ケル上告人ノ陳述ニ對スル判決及ヒ對

席判決並ニ故障ヲ許サ、ル闕席判決ハ其言渡アリタルトキ確定

ス(第四百三十九條、第四百五十條、第四百五十三條)

(ホ) 故障ノ取下又ハ上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟費用ノ

ミニ付キ言渡ヲ爲シタル判決ハ其言渡アリタルトキ確定ス(第四百四十五條、第四百四十九條、第四百五十二條)

(ハ) 故障ノ取下又ハ上訴ノ取下アリタルトキハ其取下ニ因リ確定

ス(第九條、第二百六十四條、第三百九十四條、第四百零四條)

(乙) 判決確定ノ證明書 判決ハ前ニ述ヘタル時期ニ於テ確定シ之ニ

依リテ執行ノ基本タル債務名義ト爲ル可キモノナリト雖モ之ヲ以

テ執行ヲ實行セシムルニハ形式上ノ要件タル執行文ヲ付セル判決ノ正

本即チ執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲スヲ通例トス(第五百條)而シテ其

執行文ヲ付與スルニハ判決ノ確定ヲ認メテ之ヲ付與セサル可カラ

ス(第五百條)其之ヲ認ムルニハ確定ノ證明書アルヲ要ス又此執行力ア

ル正本ヲ要セスシテ確定ノ證アルニ依リ強制執行上私權ノ實行ヲ

全フシ得ヘキ場合アリ即チ權利關係ノ成立ヲ認諾シ若クハ意思ノ

陳述ヲ爲シタルモノト看做ス判決ノ確定ニ依リ登記ヲ受ク可キ場

合ノ如キ是ナリ(第七百三十六條、明治三十二年法律第二百四號不船

第一條參看)斯ル場合ニハ即チ其判決確定ノ證明書アルヲ要ス又執

行上ノ配當異議ノ訴ニ付キ判決アルトキ其判決確定後ニ配當ヲ實

施セシムルハ該判決確定ノ證明ヲ要ス(第六百三十八條)故ニ此等ノ證明書ハ

執行上一ノ要件タルコト勿論ナリ然レトモ判決確定ノ證明書ハ獨

リ執行ニ關シテ必要ナルノミナラス他ノ事件ニ於ケル證明ノ具ト

シ又ハ保證ノ返還ヲ請求スル等ノ場合ニモ之カ必要ヲ見ルコトア

リ斯ノ如ク判決確定ノ證明書ヲ付與スル場合ハ單ニ執行ニ關スル

ニ止マラサレトモ本法ハ之ヲ強制執行編中ニ規定シタルヲ以テ茲

ニ其手續ヲ説明ス可シ

此證明書ハ當事者ノ申請ニ因リ裁判所書記カ其獨立ナル職務トシ

テ之ヲ付與ス可キモノニシテ其手續ハ左ノ如シ(第四百九條)

(イ) 第一審裁判所ノ書記ニ證明ノ申請ヲ爲スヲ通例トス訴訟記録

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

ハ通常第一審裁判所ノ書記課ニ保存セラル、カ故ニ同裁判所ノ書記ニ申請ヲ爲シ此申請アレハ書記ハ其記録ニ付キ調査ヲ爲シ判決ノ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス其確定シタル部分ノ證明書ヲ作り之ニ認證シテ付與ス可キモノトス

(ロ) 訴訟カ上級審ニ繫屬シタルトキ即チ第一審裁判所ノ書記カ其證明ヲ爲スコト能ハサルトキハ上級審ノ書記ニ證明ノ申請ヲ爲サ、ル可カラス元來判決確定ノ證明ハ獨リ訴訟記録ニ基テノミ之ヲ爲スモノナレハ上訴ノ提起アリタルトキハ其記録ハ總テ上級審ニ送付ス可キモノナルカ故ニ下級審ニ於テハ其證明書ヲ作ルコト能ハス斯ル場合ニハ上級審ノ書記ニ申請シ其證明ヲ受ク可キモノナリ蓋シ上訴ノ提起アレハ判決確定ノ進行ヲ遮斷スルカ故ニ證明書ヲ付與ス可キ場合ナキカ如シト雖モ彼ノ一分判決ハ既ニ確定シ他ノ部分ニ付キ上訴アリタルトキ又ハ本訴ノ判決ト反訴ノ判決トノ内其一方ノミノ上訴アリ他ノ一方ノ判決確定シタル場合ノ如キハ斯ル必要ヲ見ル可キモノナリ

上級審ニ繫屬中トハ嚴格ニ言ヘハ上訴ノ提起ヨリ判決ノ言渡マテヲ指スモノナルコトハ勿論ナレトモ上訴ノ提起ト共ニ訴訟記録ハ上級審ニ送付シ又判決言渡ト同時ニ記録ハ第一審ニ返還ス可キモノニ非ラサレハ其繫屬中トハ訴訟記録ノ存在中ト解釋シ上級審ニ記録存在中ハ第一審ニ於テ之ヲ付與セサルモノト解スルヲ相當ト信ス又判決ニシテ上訴シ得ヘキモノナルトキハ第一審裁判所ニ記録ヲ保存スルモ上訴ノ有無ヲ確ムルニ非ラサレハ其保存スル記録ノミニ依リ確定ノ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス縱令上訴ノ不變期間經過シ記録送付ノ求メナキモ其期間經過後直チニ確定シタルモノト認ムルコトヲ得ス何トナレハ上級審ト下級審トノ距離ニ依リ不變期間ノ外尙ホ猶豫期間アル可キモノナレハナリ斯ル場合ニハ當事者ハ上訴ヲ管轄ス可キ上級裁判所ノ書記ニ就キ上訴ノ不變期間内ニ上訴ノ提起ナカリシ證明書ヲ求ムルコトヲ得此證明書ハ判決確定ノ證明書ニ代用スルコトヲ得ヘキモノトス尤モ之ニ付テハ反對論ナキニ非ラス或ハ此證明

書ニ依リ尙ホ確定ノ證明書ヲ受ク可キモノナリトノ議論アレトモ余ハ此證明書ヲ以テ確定ノ證明書ニ代用ス可キモノト信ス而シテ此等ノ證明書ハ所謂公正ノ證明書ナル效力ヲ有ス(第四百九十九條)而シテ書記カ此確定ノ證明書ノ付與ヲ拒ミタルトキハ其裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得

假執行ノ宣言
ヲ付シタル終
局判決

(第二)

假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決
判決ニ假執行ノ宣言ヲ爲スハ未確定ノ判決ヲ確定前ニ強制執行ヲ爲スヲ得セシムルヲ目的トス故ニ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ハ強制執行ニ關シテハ確定ノ終局判決ト同一ノ效力ヲ有ス(第四百九十九條後段)而シテ其宣言ニ因ル執行ハ單ニ強制執行ノ保存處分ヲ爲スニ止マラス確定判決ト等シク全然其執行ヲ求ムルコトヲ得唯上訴ノ結果其判決ノ廢棄、破毀若クハ變更セラル、トキハ其執行ヲ停止シ(第五百十條、第五十一條第一號)其執行ノ結果ヲ舊狀ニ復スルノ結果ヲ生シ支拂又ハ給付ノ返還ヲ言渡サル、コトアルノミ

此假執行ノ宣言ハ口頭辯論ニ基キ判決ニ宣言ス可キモノナレハ其手續

ハ判決裁判所ノ訴訟手續ニ屬ス故ニ判決ニ關スル規定ト併セテ定ムルコト至當ナリ又之ヲ攻究スルニモ判決ノ節ト同時ニ論究スルヲ相當ト謂フ可シ然レトモ本法ニ於テハ執行ニ關係アルノ故ヲ以テ執行編中ニ編入セラレタルヲ以テ茲ニ之ヲ攻究セン

假執行ハ前述ノ如ク未確定ノ判決ヲ其判決ノ確定前ニ其執行ヲ爲サシムルモノナレハ言渡ニ依リ直チニ確定ス可キ終局判決ニ付テハ其宣言ヲ爲スノ要ナク且執行ス可キ法律關係ヲ判決スル終局判決又ハ終局判決ト看做ス可キ中間判決ニ非ラサレハ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノニ非ラス其終局判決及ヒ終局判決ト看做ス可キ中間判決ニ付テハ確定ノ終局判決ニ付テノ説明中之ヲ說示シタル所ナレハ茲ニ贅セス而シテ其判決ニ付テハ闕席判決ナルト對席判決ナルトヲ問ハス又一分ノ終局判決ナルト全部ノ終局判決ナルトヲ論セス左ノ場合ニ限り假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノトス

(一) 假執行ノ宣言ヲ付ス可キ場合 此法律ノ規定ニ依レハ假執行ニ關スル宣言ハ職權ヲ以テ之ヲ付ス可キ場合ト債權者ノ申立ニ因リ付ス

假執行ノ宣言
ヲ付ス可キ場
合

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

職權ヲ以テ爲
ス假執行ノ宣
言

可キ場合ト又債務者ノ申立ニ因リ其宣言ヲ制限ス可キ場合トノ別アリ

(甲) 職權ヲ以テ爲ス假執行ノ宣言 本法ハ不干涉主義ヲ採用スレトモ左ノ場合ニ於テハ例外トシテ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノトス(第二百五條)

(イ) 認諾ニ基キ被告ニ敗訴ヲ言渡ス判決 人事訴訟(人事訴訟手續法第十條、第二十六條、第三十九條、第五十九條參看)ノ外ハ事件ノ財産上ノ請求ナルト否トヲ問ハス被告カ口頭辯論ニ於テ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ裁判所ハ原告ノ申立ニ因リ其認諾ニ基キ被告ニ敗訴ノ判決ヲ言渡スコトアリ(第二百一十一條)此場合ニハ被告ノ義務ハ確定シテ動カス可カラサルモノナレハ其判決ノ確定ヲ俟ツテ要セス故ニ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付ス可キモノトス

(ロ) 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決 此等ノ訴訟ハ元來簡易訴訟手續ニ依リ訴ヲ提起シタルモノニシテ法律ハ其權利ノ實行ヲ迅速ニ爲スコトヲ要スルモノト認メ職權ヲ以テ假執行ノ

宣言ヲ爲ス可キモノトセリ(第四百八十四條、第四百八十六條)

(ハ) 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ同一ノ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ闕席判決 茲ニ所謂第二ノ闕席判決トハ原告若クハ被告カ口頭辯論期日ニ出頭セスシテ闕席判決ヲ受ケ之ニ對シ故障ノ申立ヲ爲シ其故障申立ニ付テノ辯論期日ニ故障申立人カ再度闕席シタルトキ其故障ヲ棄却スル新闕席判決ヲ指スモノナリ(第二百三十三條、第二百三十六條)

又其後ノ闕席判決トハ最初闕席判決ヲ受ケタル當事者カ故障ヲ申立テ其故障ニ付テノ辯論期日ニハ出頭シ故障棄却ノ新闕席判決ヲ受クルコトヲ免カレタルモ尙ホ本案ニ付キ辯論續行ノ期日ヲ定メラレ其期日ニ於テ曩ニ闕席判決ヲ受ケタル當事者カ再ヒ闕席判決ヲ受クル場合ヲ意味ス(第二百四十九條)是レ屢期日ヲ懈怠シ訴訟ノ遅延ヲ生セシムル者ニ對シ其制裁トシテ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スニ在リ

(ニ) 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決 茲ニ所謂假差押又ハ假處分

ヲ取消ス判決トハ假差押又ハ假處分ノ命令ニ對シテ異議アリ又ハ其理由消滅シタル場合ニ於テ假差押裁判所又ハ假處分裁判所カ自ラ發シタル假差押命令又ハ假處分命令ヲ取消ス判決ノ謂ナリ(第七百四十六條、第七百四十七條、第七百四十八條)茲ニ注意ス可キハ此假差押命令又ハ假處分命令ニ基キ其執行ニ着手シタル後執行裁判所カ其執行シタル假差押又ハ假處分ヲ取消ス決定(第七百五十四條)ヲ爲ス場合ト混同ス可カラス本號ノ此規定ハ要スルニ不當ナリシ假差押命令又ハ假處分命令ヲ直チニ取消シ債務者ヲ保護スルニ在リ

(ホ) 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決 茲ニ所謂養料トハ法律上ノ養料(民法第九百五十條)及ヒ合意上ノ養料ヲ包含ス法律ハ苟モ養料ヲ受ク可キ程ノ者ハ常ニ其生計上必要ニシテ一日モ猶豫ス可カラサルモノト認メ之ヲ保護スル目的ニ出テタルモノナリ然レトモ數个月間遲延セシ養料ヲ一時ニ請求スルカ如キハ提起前(三)个月以後ノ分ニ限り假執行ノ宣言ヲ付ス可キモノト制限セリ斯ク制限シタル理由ハ蓋シ數个月間請求セザリシ程ノ者ナレハ目

下其必要ノ迫ラザリシモノト看做スカ故ナリ

(ハ) 強制執行異議ノ訴ニ於テ其執行ノ停止命令ヲ發シタル後本案ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ其命令ノ認可若クハ取消ヲ爲ス判決ハ其部分ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノトス(第五百四十九條)

(乙) 債權者ノ申立ニ因リ爲ス假執行ノ宣言 債權者ノ申立ニ因リ爲ス假執行ノ宣言ニハ事件ノ性質ニ依リ單純ニ申立アレハ其宣言ヲ爲ス可キ場合ト又特別ナル申立アルニ因リ之カ宣言ヲ爲ス可キ場合トアリ

前者即チ事件ノ性質ニ依リ單純ナル申立アレハ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キ場合ハ左ノ如シ要スルニ此事件ハ權利實行ノ急迫ヲ要スルモノト認メタル場合ナリ(第五百二條)

(イ) 次ノ如キ請求ニ付キ貸借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟建物ノ全部又ハ一部ノ受取、明渡、使用、占有、修繕等ニ關シ若シハ賃借人ノ持込ミタル家具、所持品ノ差押ニ關スルモノ是ナリ茲ニ所

債權者ノ申立ニ因リ爲ス假執行ノ宣言

單純ナル申立ニ因リ爲ス場合

謂差押トハ強制執行上ノ差押ノ意義ニ非ラス彼ノ民法ニ所謂留置ノ意義ナリ

(ロ) 占有ノミニ係ル訴訟 即チ占有訴權ニ基クモノヲ云フ(民法第七條乃至第七百一十條參看)故ニ本權ニ關スル訴訟ハ之ニ屬セス

(ハ) 雇主ト雇人トノ間ノ訴訟 其雇傭期限一箇年以下ノ契約ニ關スルトキニ限ル

(ニ) 次ノ如キ請求ニ付キ旅人ト旅店ノ主人若クハ飲食店ノ主人或ハ水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

旅人カ被告ナルトキハ賄料、宿料、運送料ノ請求ニ限リ旅人カ原告ナルトキハ保護ノ爲メニ寄託シタル手荷物、金錢、有價物ノ請求ノミニ限ル茲ニ所謂有價物トハ時計其他金銀具ノ類ヲ指ス

(ホ) 財産權ノ請求ニシテ訴訟物ノ價格カ二十圓ヲ超過セサル訴訟這ハ債權ノ請求ナルト物權ノ請求ナルトヲ問ハス之ヲ適用ス可キモノトス此場合ハ敢テ急迫ヲ要スル故ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スモノニ非ラス唯價格僅少ナレハ假執行ヲ爲スモ敢テ回復

特別ナル申立
ニ因リ爲ス場
合

ス可カラサル損害ヲ生スルコトナカル可シト看做スニ在リ

後者即チ債權者ノ特別ナル申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スハ一般ニ財産權ノ請求ニ付キ債權者ヨリ左ノ申立アル場合ニ限ル(第五百三條)

(イ) 債權者カ判決確定前ニ執行セサレハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疏明シタルトキ 茲ニ所謂償ヒ難キ損害ヲ受ク可キトキトハ例ヘハ金錢若クハ有價物ノ請求ニシテ債務者ノ浪費又ハ處分ヲ爲スニ依リ後日無資力ト爲リテ結局執行ヲ爲ス能ハサルカ如キ場合ヲ謂フ又計リ難キ損害トハ彼ノ版權特許權、借區權等ノ權利ニ關シ速ニ執行セサレハ債務者ノ權利ノ行使ニ因リ債權者ノ爲メ幾干ノ損害ヲ生ス可キヤ測ル可カラサル場合ノ如キヲ云フ而シテ疏明ノ方法ハ第二百二十條ニ規定スル所ナリ

(ロ) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立テシコトヲ申立ツルトキ 此申立アルトキハ裁判所ハ自由ナル意見ヲ以テ保證額ヲ定メ執行前ニ其保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ條件附ノ假執行ノ宣

債務者ノ申立
ニ因ル假執行
及ヒ免除ノ制
限及

言ヲ爲ス可キモノトス

(丙) 債務者ノ申立ニ因ル假執行宣言ノ制限及ヒ免除 法律ハ債務者
ヲ保護センカ爲メニ債務者ノ防禦ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ制
限シテ條件附ノ假執行ヲ爲シ又ハ全ク之ヲ制止スルコトヲ得ルモ
ノトセリ

(イ) 假執行宣言ノ制限

職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ナル

ト債權者ノ申立ニ因リ其宣言ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス總テノ
場合ニ於テ債務者ノ申立アレハ其趣旨ニ應シ左ノ如キ條件附ノ
假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノトス

(a) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲スコトヲ
得ヘキ宣言ヲ爲ス 此條件附ノ假執行ノ宣言ハ執行前ニ保證ヲ
立テタル旨ノ公ノ證明書ニ依リ證明スルニ非ラサレハ強制執行
ニ着手スルコトヲ得ス(第五百二條)又前ニ述ヘタル債權者カ自ラ保
證ヲ立テント申立テ條件附ノ假執行ノ宣言ヲ受クタル場合亦同
シ

(b) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申立テサルトキハ債
務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ係争物ヲ供託セ
シメテ執行ヲ免カル、コトヲ得ヘキ宣言ヲ爲スコトヲ得 斯ル
條件附假執行ノ宣言アル場合ト雖モ執行文ノ付與ハ之カ爲メニ
猶豫ス可キモノニ非ラス又債權者モ其保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲
スマテハ之ニ基キ執行ヲ進行スルコトヲ得ヘシ故ニ債務者カ此
執行ヲ免カレント欲セハ必ス保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ之カ
公ノ證明書ヲ提出セサル可カラス(第五百五條 第三號)其提出ナキ間ハ執
行ヲ進行シ假執行ノ宣言ニ基ク執行ナルモ確定判決ニ基ク執行
ト敢テ異ナル所ナキハ前ニ説明シタルカ如シ然レトモ保證又ハ
供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カル、コトヲ許ス假執行ノ宣言ハ他
ノ假執行ノ宣言ニ比シ多少其效力ヲ輕減シ債務者ヲ保護セラレ
タリ即チ此宣言アル判決ニ基ク執行ニ依リ執達吏カ金錢ヲ差押
ヘ又ハ差押物ノ賣得金ヲ領收スルモ之ヲ以テ一般ノ場合ノ如ク
債務者カ辨濟ヲ爲シタルモノト看做シ執行ヲ終了ス可キモノニ

非ラス(項第五百七十四條第二)又債權ニ對スル強制執行ニ付テハ差押命令ヲ發シ取立命令ヲ爲スコトヲ得レトモ轉付命令ヲ發スルヲ得サルコト是ナリ(第七條第六百)

(ロ) 假執行宣言ノ免除 債務者カ判決確定前ニ執行セラル、ニ於テハ回復ス可カラサル損害ヲ受ク可キ事實ヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ全ク假執行ノ宣言ヲ止ム可キモノトス(第五百四條)
(a) 職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコキ場合(第五百一條) 此場合ニ於テ斯ル疏明アリタルトキハ判決ヲ假リニ執行ス可カラサル旨ヲ宣言ス

(b) 債權者ヨリ假執行ノ申立アル場合(第五百二條) 此場合ニ於テハ其申立却下ノ宣言ヲ爲スコキモノトス

債權者ハ執行ヲ猶豫セハ損害ヲ生ス可シト主張シ債務者ハ執行セラル、ニ於テハ回復ス可カラサル損害ヲ生スル旨ヲ主張シタルトキハ裁判所ハ自由ナル意見ヲ以テ之ヲ決スコキモノタリ
(丁) 上訴審ニ於テ申立ニ因リ下級審ノ判決中不服ナキ部分ニ付スル

假執行ノ宣言 元來假執行ノ宣言ハ其審級ノ裁判所ニ於テ爲シタル判決ニ之ヲ附加スルヲ常トスレトモ變例トシテ上級審ハ下級審ノ判決中不服ナキ部分ニ付キ之カ宣言ヲ爲スコトアリ

(イ) 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシ場合 此宣言ナカリシハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スコキ事件ナルニ其申立ナカリシニ出ツルト其申立アリタルモ債務者カ回復ス可カラサル損害ノ生スルコトヲ疏明シ假執行ノ宣言ヲ免カレンコトヲ申立テタルカ爲メ假執行ヲ許サ、リシ場合ナルト(第五百四條)又本來假執行ノ宣言ヲ爲スコキ事件ニ非ラサルカ爲メナルトヲ問ハス假執行ノ宣言ナキ判決ニ對シ上訴ヲ爲シ其中不服ナキ部分アルトキハ其部分ニ限り口頭辯論中ニ爲シタル當事者ノ申立ニ因リ控訴審若クハ上告審ニ於テ第一審若クハ第二審ノ判決ニ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得然レトモ茲ニ注意ス可キハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコキ判決又ハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スコキ判決ニ付キ其假執行ノ宣言ヲ遺脱シタルノ

結果其宣言ナカリシモノナルトキハ是レ補充判決ヲ受ク可キモノニシテ(第五百八條)本號ノ規定ヲ適用ス可キモノニ非ラス

(ロ) 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ條件附ノ假執行ノ宣言アル場合 即チ保證ヲ立ツ可キ條件ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲シタル判決(第五百三條第一項)ニ對シテ控訴又ハ上告ヲ爲シ其一部ニ不服ノ申立ヲ爲サ、リシ部分アルトキハ其部分ニ付キ前同様當事者ノ申立ニ因リ上級審ハ下級審ノ判決ニ單純ナル假執行ヲ爲シ得ヘキ宣言ヲ爲スコトヲ得

以上二個ノ場合ハ下級審ニテ本訴ト反訴トヲ同時ニ判決シ又ハ併合シタル數個ノ請求ヲ同時ニ裁判シ其或請求ニ關スル裁判ノミニ付キ不服ヲ申立テタルトキ又ハ一ノ請求ニ關スル判決ナリト雖モ其中或部分ノミニ付キ上訴ヲ爲シタル場合等ニモ之カ適用ヲ見ルコトアル可シ斯ク上級審ニ於テ下級審ノ判決ニ假執行ノ宣言ヲ爲スハ不服ナキ部分ナルカ故ニ其判決ノ如ク直チニ強制執行ヲ爲サルモ敢テ損害ヲ來スノ恐ナシト認メタルヲ以テナリ而シテ此宣

假執行ニ關スル申立及ヒ裁判

其申立

言ハ口頭辯論中ニ於ケル當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ決定ヲ以テ下級審ノ判決ヲ假リニ執行シ得ヘキ旨ヲ宣言スルモノナリ是レ蓋シ未タ本案ノ判決ト共ニ爲ス可キ時期ニ至ラサルカ故ナリ又此決定ハ口頭辯論中ニ於ケル申立ニ基キテ爲スモノナルカ故ニ獨立シテ上訴ヲ爲スノ途ナシ而シテ其決定アリタル後ニ至リ不服ナカリシ部分ニ付キ當事者カ不服申立ノ範圍ヲ擴張シ又ハ相手方カ附帶上訴ヲ爲シタルトキハ假執行ノ宣言アル判決ニ對シ上訴ヲ爲シタルト同一ニ歸スルカ故ニ第五百十二條ニ依リ其執行ノ停止ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

(二) 假執行ニ關スル申立及ヒ裁判 前ニ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キ場合ヲ説明シタルヲ以テ以下假執行ニ關スル申立及ヒ裁判ヲ爲スノ手續ヲ講述ス可シ

(甲) 假執行ニ關スル申立 假執行ニ關スル申立ハ訴訟ノ目的物ノ一部ト看做ス可キモノニシテ判決ヲ受ク可キ事項ノ申立ナルカ故ニ必スヤ口頭辯論ニ於テ之ヲ申立テサル可カラス而シテ口頭辯論中

ナルニ於テハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終ニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百六條)茲ニ假執行ニ關スル申立ト稱スル中ニハ假執行ノ宣言ヲ求ムル申立ハ勿論債務者ヨリ申立ツル假執行宣言ノ制限及ヒ免除ヲモ包含ス(第五百四條)此等ノ申立ハ總テ判決ヲ受ク可キ事項ノ申立ニ該當スルヲ以テ書面ニ基キテ之ヲ爲スコク然ラサレハ其申立ハ無効ニ歸ス可シ(第二百二條)又其申立ハ相手方ニ通知シ置クニ非ラサレハ相手方カ闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ヲ求ムルモ其申立ヲ却下セラル、コトアル可シ(第二百五條)而シテ此申立ニ付テハ之ヲ主張スル事由ヲ陳述セサル可カラズ

(乙) 假執行ニ關スル裁判 假執行ニ關スル申立ヲ以テ訴訟ノ目的物ノ一部ト看做ス以上ハ之ニ付テノ裁判ハ本案ノ判決ノ一部ト看做ス可キモノナリ故ニ實體上ノ請求ニ關スル裁判ニ非ラスト雖モ之ヲ判決主文中ニ掲ク可キモノトス(第七百五條)茲ニ所謂假執行ニ關スル裁判トハ獨リ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ノミナラス職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合又ハ債務者ノ申立ニ因リ假執行ヲ

許サスト爲シ又ハ假執行ノ申立ヲ却下スル裁判(第四百五條)モ亦其主文中ニ掲ク可キモノナルコト勿論ナリ

然レトモ前ニ述ヘタル如ク上級審ニ於テ下級審ノ判決ニ對シ判決ト時ヲ異ニシテ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ノ如キハ變例ナリ又控訴審ニ於テ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ分離スルトキハ其假執行ニ付テノ裁判ハ中間判決ヲ以テ爲スコトアリ(第五百十一條)

假執行ニ付テノ裁判ヲ判決主文ニ附加シタル結果若シ裁判所カ其裁判ヲ遺脱シタルトキハ職權ヲ以テス可キ場合ナルト債務者ノ申立アリシヲ看過シタル場合ナルトヲ問ハス債權者ハ第二百四十二條、第二百四十三條ノ規定ニ從ヒ追加裁判ノ申立ヲ爲シ判決ノ補充ヲ受クルコトヲ得ヘシ(第五百八條)

然レトモ此補充判決ヲ求メ得ル者ハ獨リ假執行ノ宣言ヲ遺脱シタル場合ニ限り債權者カ之ヲ申立テ得ヘキニ過キスシテ假執行ニ關スル裁判ト雖モ債務者ノ申立ニ係ル假執行宣言ノ制限又ハ免除ヲ看過シタルモノ、如キハ債務者ヨリ此補充判決ヲ求ムルコトヲ得

ス此場合ニ於テハ控訴ノ方法ヲ以テ不服ヲ主張スルノ外途ナキモ
 ノトス蓋シ假執行ノ宣言ハ之ニ依リ速ニ執行ヲ爲スコトヲ得セシ
 ムル重要ナル事項ニ係ルモ假執行制限ノ如キハ防禦方法ノ一ニ過
 キスシテ不服ノ申立ヲ爲ストキハ其執行ノ停止ヲモ求メ得ヘキ途
 アルヲ以テナリ(第二百五條)
 假執行ニ關スル裁判ハ前段ノ説明ノ如ク判決ノ一部ト看做スカ故
 ニ本案ノ裁判ト共ニ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論其假執行ニ付
 テノ裁判ノミニ對シテモ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキハ理論
 上疑ヲ容レサルナリ然レトモ債權者ヨリ謂ヘハ假執行ノ宣言カ不
 當ナリトスルモ之カ爲メ其點ノミニ控訴ヲ爲スヨリハ寧ロ判決確
 定ヲ待テ執行ヲ爲スヲ便宜ナリトス可ク又債務者ノ方面ヨリ觀察
 スルトキハ本案ノ判決ニ對シ不服ナクハ縱令假執行ノ宣言ニ不
 當ナル點アルモ唯僅ニ執行ノ期ヲ早ムルニ止マリ之ニ對シテ不服
 ヲ申立ツル價值ナシ故ニ實際ニ於テハ此假執行ノミニ對シ控訴ヲ
 爲ス者甚タ少ナカル可シ斯ノ如ク假執行ニ付テノ裁判ニ對シテ控

上級審ニ於ケル
 特別手續

訴ヲ爲スコトヲ許スト雖モ控訴審ニ於テ爲シタル裁判ハ中間判決
 ヲ以テ爲シタルト終局判決ヲ以テ爲シタルトヲ問ハス之ニ對シテ
 不服ヲ申立ツルコトヲ許サス(第五百十一條第三項)蓋シ假執行ヲ許ス可キヤ
 否ヤヲ調査スルハ事實上ノ問題ニ屬スルコト多ク從テ其利害モ上
 告ヲ爲ス程ノ價值ナクレハナリ

(丙) 上級審ニ於ケル假執行ニ關スル申立ニ付テノ特別ナル手續 上
 級審ハ下級審ノ判決中不服ナキ部分ニ付キ假執行ノ宣言ヲ爲ス特
 別ノ場合アルコト及ヒ其手續ニ付キ特別ナル規定アルコトハ前ニ
 講述セシ所ナレハ更ニ之ヲ贅セス

右ノ外第二審即チ控訴審ニ於テハ本案ノ判決ト假執行ニ關スル裁
 判ニ付キ不服ノ申立アリタルトキ當事者ノ申立ニ因リ本案ニ先チ
 假執行ニ付テノ辯論及ヒ裁判ヲ爲シ得ヘキモノトス(第五百十一條)然ルト
 キハ裁判所ハ第四百十條ノ場合ニ於ケル被控訴人ノ控訴期間滿了
 前ナルト又故障申立ト控訴ノ提起ト共ニ發生シ故障ノ完結前ナル
 トニ拘ハラス之ヲ待タスシテ假執行ノ點ノミニ付キ第一審判決ノ

假執行宣言ノ
效力及ヒ不服
申立ニ因ル其
執行ノ停止

判決ノ結果ニ
因ル假執行宣
言ノ效力消滅

當否ノ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可キモノトス是レ蓋シ假執行ニ關スル
事項ハ急速ヲ要スルカ故ニ本案ニ先チ裁判ヲ與フルヲ必要トスレ
ハナリ而シテ其裁判ハ控訴ノ一部ニ對シテ爲ス可キモノナレハ判
決ヲ以テ爲ス可ク其判決ハ中間判決タル性質ヲ有ス

(三)

假執行宣言ノ效力及ヒ不服申立ニ因ル其執行ノ停止 假執行ノ宣
言ハ未確定ノ判決ヲ確定前ニ執行スルコトヲ得セシムル效力ヲ有ス
ルモノニシテ之ニ依リテ確定判決ト均シク全然強制執行ヲ進行スル
コトヲ得ルナリ唯債務者ニ保證ヲ立テ、執行ヲ免カル、コトヲ許ス
條件附假執行ノ宣言ノミハ確定判決ニ基ク執行ト異ナルコトハ前ニ
詳述シタル所ナリ然レトモ此假執行宣言ノ效力ハ其判決ノ結果カ條
件ニ繫ルモノニシテ其勝敗ニ因リテ消長ヲ來ス可キモノトス

(甲)

判決ノ結果ニ因ル假執行宣言ノ效力消滅 假執行ノ宣言ヲ付シ
タル判決ニ對シ不服ノ申立(上訴)ヲ爲シ其結果本案ノ判決又ハ假執
行ノ宣言ヲ廢棄、破毀又ハ變更スルノ判決アリタルトキハ其判決ノ
言渡ニ因リ其限度ニ於テ假執行ノ效力ヲ失フ可キモノトス(第五百
十條)

項一

右ノ結果ハ敢テ判決ノ確定ヲ待タス其言渡ニ因リ當然其效力ヲ生
スルモノニシテ此判決アリタル際既ニ強制執行ニ着手中ナルトキ
ハ執行機關ニ向テ其判決書ヲ提出シ強制執行ノ停止及ヒ執行處分
ノ取消ヲ求ムルコトヲ得(第五百
五十條)
假執行宣言ノ效力ヲ消滅セシメ着手中ノ執行ヲ停止セシムルニ付
テハ本案ノ判決ヲ廢棄、破毀又ハ變更シタル判決モ假執行ノ宣言ノ
ミテ廢棄、破毀又ハ變更シタル判決モ同一ナリト雖モ本案ノ判決ヲ
廢棄、破毀又ハ變更シタル判決ニ付テハ假執行ノ宣言ノミテ廢棄、破
毀又ハ變更シタルモノヨリ其結果大ニシテ尙ホ次ノ如キ申立及ヒ
裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ

本案ノ判決ヲ廢棄、破毀又ハ變更スルノ際既ニ假執行ノ宣言ニ基キ
債務者ヨリ金錢ノ支拂又ハ物品ノ給付ヲ爲シタルトキハ其債務者
ノ任意ノ履行ニ出テタルト強制執行ニ因リタルトニ拘ハラズ債務
者ハ其口頭辯論ニ於テ其事由ヲ陳述シ右ノ判決ヲ受クルト同時ニ

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

之カ辨濟ノ裁判ヲ受ケンコトヲ求ムルヲ得ヘシ此申立アルトキハ
裁判所ハ其事實ニ付キ審理ヲ爲シ之ヲ正當ト認ムルトキハ該判決
ト共ニ其辨濟ヲ債權者ニ命ス可キモノトス(第五百十條第二項)而シテ此申立
ハ單ニ其支拂又ハ給付シタルモノ、返還ヲ求ムルニ止マリ其他ノ
損害賠償ノ請求ノ如キハ別ニ訴ヲ提起シテ之ヲ求メサル可カラズ
又此申立ハ上告審ニ至リテモ之ヲ爲シ得ヘシト雖モ此事實ノ確定
ヲ要スルカ故ニ控訴審ニ其事件ヲ差戻サ、ルヲ得サル場合アル可
シ

右ノ規定ハ民事訴訟法第四百二十七條第二項、第四百九十二條第二
項ノ規定ト同一ノ精神ニ出ツルモノニシテ其請求ハ反訴ノ性質ヲ
有スルモノト謂フ可ク又其目的ハ新ニ訴ヲ提起スルノ勞ヲ省カシ
ムルニ在リ故ニ若シ此申立ヲ爲サ、ルトキハ別ニ新訴ヲ提起スル
ノ外ナク又之カ提起ヲ妨ケサルモノトス

右支拂又ハ給付シタルモノヲ返還ス可キ判決アリタルトキハ其判
決ハ直チニ執行力アルモノニ非ラス之カ強制執行ヲ爲サンニハ其

不服申立ニ因
ル假執行ノ停
止

判決確定後一般ノ執行手續ニ從ハサル可カラス

(乙)

不服申立ニ因ル假執行ノ停止 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ
對シ不服ノ申立アルモ之カ爲メニ其效力ハ直チニ消滅ス可キモノ
ニ非ラス然レトモ故障又ハ上訴ヲ爲シタル者ハ其宣言ニ基ク強制
執行ノ停止ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ此申立アル場合ニハ裁判所ハ
保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制執行ノ停止ヲ命ス
ルコトヲ得ヘシ尤モ其保證ヲ立テシメスシテ停止ヲ命スルハ回復
ス可カラサル損害ヲ生ス可キコトヲ説明シタル場合ニ限ルモノト
ス而シテ此申立ハ故障又ハ上訴ヲ提起シタル後ニ爲ス可キモノナ
レトモ其申立ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ得ヘキモノナリ夫ノ
口頭辯論中ニ於テ判決ヲ受ク可キ事項トシテ申立ツ可キモノニ非
ラス而シテ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判
ニ對シテハ申立ノ拒否何レニアルヲ問ハス不服ヲ申立ツルコトヲ
得サルモノトス

右ノ手續ニ依リ執行停止ノ裁判アリタルトキハ債務者ハ其裁判ヲ

執行機關ニ提出シ既ニ着手シタル強制執行ヲ停止セシムルコトヲ
得ヘシ(第五百五十條第二號)

(第三) 外國裁判所ノ判決ニ付スル執行判決

前ニ述ヘタルカ如ク強制執行ハ國家ノ裁判權ニ依リ認定シタル權利ヲ
其裁判權ノ效力ニ依リ強制的ノ實行ヲ爲サシムルニ在リ抑モ國家ノ裁
判權ハ其國內ニノミ效力ヲ有スルモノニシテ外國ニ於テ之ヲ行使スル
效力アルモノニ非ラス故ニ外國裁判所ノ判決モ亦當然內國ニ於テ執行
ノ基本タル債務名義タル可キモノニ非ラス即チ我裁判權ニ依リ強制執
行ヲ爲ス可キモノハ內國裁判所ノ裁判ニ基クテ本則トス
夫レ斯ノ如ク外國裁判所ノ判決ハ當然內國ニ於テ執行シ得ヘキモノニ
非ラスト雖モ國際上ノ關係ニ於テ外國判決ノ確定ハ內國ニ於テ一切之
ヲ認メサルモノト爲スハ列國交通ノ便宜ヲ阻害スルコト甚タ大ナルヲ
以テ輒近ノ列國國際法規ニ於テハ外國判決ノ確定ヲ認メ一方ニ於テハ
國家裁判權ノ尊嚴ヲ毀損スルコトナカラシムルカ爲メ內國裁判所ノ裁
判上ノ手續ヲ經テ其確定ノ事實ト內國ニ於テ之ヲ執行スルモ國家ノ秩

序ヲ害スルコトナキヤ否ヤノ形式上ノ査定ヲ遂ケ之カ執行ヲ許スコト
ヲ得ルモノトセリ

其之ヲ許容スルニ付テモ(イ)單獨ニ其國ノ法律ニ依リ之ヲ許スモノアリ
(英、米、伊、國等)又(ロ)相互主義ニ依リ法律上互ニ相保護シ若クハ條約ニ依リ相互
ヲ保證スル場合ニ限り之ヲ許スモノアリ(獨、國)又(ハ)其裁判上ノ手續モ訴ノ
形式ニ依ラシムルモノアリ(獨、國)其他ノ申請ノ形式ニ依ラシムルモノ
ノアリ(獨、國)

我民事訴訟法ハ條約ニ依ル相互主義ヲ採用シ其裁判上ノ手續ハ訴ノ形
式ニ依ルモノトシ從テ其裁判ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ其執行ヲ許ス判決
ヲ執行判決ト云フ

故ニ外國裁判所ノ判決ノ執行ヲ爲サンニハ外國人ナルト本邦人ナルト
ヲ問ハス其執行許可ヲ求ムル訴ヲ我裁判所ニ提起シ執行判決ヲ受ケサ
ル可カラス(第五百十四條)

(二) 執行判決ヲ求ムル訴及ヒ其管轄 此執行判決ヲ求ムル訴ハ事強制
執行ニ關スト雖モ其訴訟手續ハ普通訴訟手續ナリ故ニ訴ノ提起ノ口頭

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

辯論懈怠ニ因ル闕席判決其他ノ判決及ヒ上訴故障等ニ至ルマテ總テ
判決裁判所ニ於ケル普通訴訟手續ニ依ル可キモノトス
而シテ此訴ニ付テノ裁判管轄ハ土地ノ管轄ニ付テハ被告即チ債務者
ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所若シ普通裁判籍ヲ有セサル者即チ
内國ニ於テ住所又ハ居所ヲ有セサル者ナルトキハ第十七條ノ規定ニ
於ケル財産所在地ノ特別裁判籍ニ專屬シ又事物ノ管轄ニ付テハ其價
額ノ百圓ヲ超過スルト否トニ因リ之ヲ區別シテ區裁判所又ハ地方裁
判所ニ專屬ス可キモノトス而シテ其價額ハ執行ヲ求ムル範圍ニ依リ
テ定ム可キモノナリ(第五百十四條第二項)

(二) 執行判決ヲ求ムル訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判 執行判決ヲ爲ス目的
ハ外國裁判所ノ判決ノ實體上ノ當否ヲ判斷スルノ法意ニ非ラス其實
體上ノ法律關係ハ外國裁判所ノ確定判決ニ讓リ唯其確定シタル事實
及ヒ國際條約ニ依リ若シハ本邦ノ公安ニ關スル法律ニ依リ内國ニ於
テ執行ヲ許シ得ヘキヤ否ヤノ形式上ノ調査ヲ爲スニ過キス故ニ辯論
モ其範圍ニ止マリ從テ當事者ハ實體上ノ請求ヲ擴張シ又ハ反訴ヲ提

起スルコトヲ得ス(此點アリテ) 裁判所モ亦實體上ノ裁判ヲ與フルコト
ヲ得ス

斯ノ如ク實體上ノ判決ヲ爲スコトナシト雖モ形式上國內ニ於テ執行
スルモ國家ノ秩序ニ害ナシト認メタル上ニ非ラサレハ執行ヲ許スコ
トヲ得ス而シテ一旦害ナシト認メテ執行ヲ許ストキハ即チ一度我裁
判權ノ下ニ判定ヲ經タルモノナルヲ以テ内國裁判所ノ裁判ニ依リ執
行ヲ許スモノト云フ可ク從テ國家裁判權ノ尊嚴ヲ毀損スルカ如キコ
トナキナリ而シテ其形式上調査ス可キ事項ハ次ニ列記スルモノニシ
テ裁判所ハ職權ヲ以テ調査ヲ遂ク其事由中ノ一ニ該當スル場合ニ於
テハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下ス可キモノトス

(イ) 外國裁判所ノ判決ノ確定トナリタルコトヲ原告カ證明セサルト
キ 執行判決ハ外國ノ確定判決ニ付キ執行ヲ許ス可キモノナルヲ
以テ其裁判ハ外國裁判所ノ判決ナルヤ及ヒ其判決ハ既ニ確定シタ
ルモノナリヤ否ヤヲ調査セサル可カラズ夫ノ假執行ノ判決ノ如キ
ハ未タ執行判決ヲ爲スコト能ハサルモノナリ而シテ其確定ノ效力

及ヒ確定ノ時期ノ如キハ各國ノ法律相等シキモノニ非ラス殊ニ上訴若クハ故障ノ方法及ヒ其階級若クハ期間ノ如キモ各國差異アルヲ以テ我訴訟法ノ規定ニ照シ之ヲ推定スルコト能ハス是ヲ以テ法律ハ此確定ノ證明ヲ爲ス可キ義務ヲ原告ニ負ハシメタルモノナリ故ニ若シ此證明ヲ爲サ、ルトキハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下セサル可カラス

(ロ) 本邦ノ法律ニ依リ強テ爲サシムルコトヲ得サル行爲ヲ執行セシム可キトキ各國ノ法律ニ於テ公安ノ理由ニ依リ各種ノ行爲ヲ禁止スルコトアレトモ各國ノ風俗又ハ倫理上ノ觀察ヨリシテ同一ナルコト能ハス我國ニ於テハ阿片煙草賣買ノ如キハ法律ノ嚴禁スル所ナリ(明治十八年布告第百二十八號參看)ト雖モ他國ニ於テハ之ヲ許容スルモノアリ又或國ニ於テハ民事訴訟上ニ於テ拘留ノ判決ヲ言渡スコトアリ(獨逸)佛國民事訴訟法第七百八十二條、第七百八十三條)然レトモ我國ニ於テハ斯ル規定ノ設クナシ故ニ若シ外國ノ判決ニシテ阿片煙草賣買ノ履行ヲ言渡シ又ハ民事上拘留ヲ命シタルモノナルトキハ其執行ヲ許

ス可カラサルナリ是レ蓋シ我國ノ國是ヲ維持シ秩序ヲ保護スルカ爲メナリ

(ハ) 本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ裁判權ヲ有セサルトキ此規定ハ外國裁判所ノ爲メニ我裁判權ヲ侵害セラレサルコト、外國ニアル本邦人ニ對シ裁判權ヲ有セサル外國裁判所ノ越權ヲ排除スルヲ目的トスルニ在リ然レトモ本邦ノ裁判所ハ外國ニ於テ言渡シタル判決ニ付キ事物ノ管轄權ヲ有セシヤ否ヤ又ハ無訴權ニ屬ス可キ事件ナリヤ否ヤハ調査スルコトヲ要セス何トナレハ我國ノ事物ノ管轄ニ關スル規定ハ外國ニ於ケル事物ノ裁判管轄ニ付キ標準ト爲ル可キモノニ非ラス又無訴權ニ屬ス可キモノ、如キモ各國同一ノ規定ニ出ツ可キモノニ非ラサレハ此等ノ權限ニ相違アルモ本邦ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナケレハナリ要スルニ我國ノ裁判所ニ於テハ單ニ土地ノ管轄ニ付キ調査ヲ遂ク可キモノニシテ本邦ノ法律ニ依レハ外國裁判所ハ被告カ裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ非ラスシテ管轄權ナキモノナリヤ否ヤ殊ニ不動産上ノ訴訟ニシテ

其目的物タル不動産ハ本法ニ在リテ外國裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ
モノニ非ラサルヤ否ヤヲ調査スルニ在リ(第十條乃至第二十四條)

(三) 敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セザリシトキ 是レ外國裁判所
ニ於テ本邦人ノ受ケタル闕席判決ノ場合ニ適用ス可キモノナリ然
レトモ闕席判決ニ基クモノハ總テ執行判決ヲ許サスト謂フニ非ラ
ス其訴訟ヲ開始スル呼出又ハ命令ヲ受訴裁判所所屬ノ國ニ於テ被
告タル本邦人ニ送達セサルカ又ハ法律上ノ共助ニ依リ本邦ニ於テ
被告本人ニ送達セザリシ場合ノミニ適用セラル、モノナリ蓋シ斯
ク呼出ノ手續ヲ爲サス即チ應訴ノ機會ヲ與ヘスシテ答辯ヲ爲サシ
メサルマ、闕席判決ヲ與ヘタル裁判ニ依リ執行ヲ許ストキハ本邦
人ノ不利益ナルカ故ニ此場合ニハ本邦人ヲ保護スルカ爲メ執行判
決ヲ求ムル訴ヲ却下ス可キモノトスルニ在リ

(ホ) 國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ 我民事訴訟法カ執行判決
ヲ爲スニ付キ條約ニ依ル相互主義ヲ採用シタルコトハ前ニ説明シ
タル所ナリ蓋シ國際上ニ於テハ各國ハ對等ノ地位ニ立チ外國ト内

(第四)

仲裁判斷ニ付スル執行判決
國トノ間ニ相互ニ利益ヲ交換スルヲ以テ目的トシ條約ニ依リ相互
ニ保護スルコトヲ約スルトキニ限り執行判決ヲ爲スト定メタルナ
リ然レトモ我國ニ於テハ未タ相互ノ條約ニ依リ外國ノ判決ヲ内國
ニ於テ執行シ得ルコトヲ許ス判決ヲ爲ス可キ條約ヲ締結シタルモ
ノアルヲ見ス故ニ本號ノ規定ニ依リ外國裁判所ノ裁判ニ對シテ執
行判決ヲ與フル場合ナシト斷定セサル可カラス尙ホ之ニ關シテハ
國際法ニ就キ研究セラレシコトヲ望ム

仲裁判斷トハ係争ノ法律關係ニ付キ當事者ノ契約ヲ以テ裁判所以外ノ
第三者ニ委子其第三者タル仲裁人ノ爲シタル判斷ヲ謂フ而シテ仲裁判
斷ハ固ヨリ國家機關ノ裁判權ノ行使ニ出ツルモノニ非ラサルカ故ニ當
然強制力ヲ有ス可キモノニ非ラスト雖モ當事者間ノ法律行為ヲ以テ其
判斷ヲ受ク可キコトヲ約シタルモノナルカ故ニ其判斷ヲ實行スルノ途
ヲ與フルハ敢テ不當ナリト謂フコトヲ得ス故ニ法律ハ之ヲ保護シテ一
定ノ裁判上ノ形式ヲ經テ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノトセリ

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

其裁判上ノ手續ハ仲裁判斷ニ付キ其力ヲ與フヘキ裁判所即チ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所若シ其指定ナキトキハ其請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄權ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所(第八百五條)ニ向テ強制執行ノ許可ヲ受クル爲メノ執行判決ヲ求ムル訴ヲ提起シ判決ヲ得其判決ノ確定シタル場合ニ於テ強制執行ノ債務名義トナスコトヲ得ルナリ(第八百二條第一項)

此執行判決ヲ求ムル訴ニ於テハ裁判所ハ敢テ其判斷ノ實體上ノ當否ヲ審査スルモノニ非ラスシテ唯其判斷カ法定ノ原因タル不適法ノ點アリヤ否ヤノ形式上ノ調査ヲ遂グ其原因ナキ場合ニ於テノミ執行判決ヲ爲スモノトス(第八百二條第二項)

第二款 判決以外ノ債務名義

強制執行ノ基本タル債務名義ハ終局判決又ハ終局判決ト看做ス可キ中間判決ニ依ルヲ本則トナスコト前欸ニ於テ説明シタルカ如シ然レトモ法律ハ尙ホ其範圍ヲ擴張シ他ニ幾多ノ債務名義タルモノヲ認メタリ而シテ其判決以外ノ債務名義中ニハ或ハ裁判ニ出ツルモノアリ或ハ全ク裁判上確

判決以外ノ債務名義

定シタルモノニ非ラサル債務名義アリ左ニ之ヲ分説セシ

(第一) 抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ判決以外ノ決定及ヒ命令ニシテ殊ニ法律ニ於テ抗告ヲ爲シ得ヘキ明文アルモノニ限ル(第四百五條)蓋シ決定命令ニシテ普通ノ抗告ヲ許シ若クハ即時抗告ヲ許スモノハ其數多シト雖モ總テ執行シ得ヘキ債務名義トナルノ限ニ非ラス何トナレハ其裁判中ニハ訴訟手續ノミニ關スルモノ多ク之ニ依リテ唯其訴訟手續ヲ進行セシムルニ止マリ實際上ノ權利ノ實行ヲ要スルモノ極メテ稀ナルヲ以テナリ今其裁判ニシテ其權利ノ實行ノ爲メニ強制執行ヲ要スルモノヲ例示スレハ左ノ如シ

- 一、 訴訟費用額確定決定(第八十條)
- 二、 裁判所書記、法定代理人、辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ニ對シ其過失又ハ懈怠ニ因リ生シタル費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定(第十三條)

三、 呼出ニ應シテ出頭セス又ハ證言ヲ拒ミタル證人、鑑定人ニ對シ費

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義 四七

抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

用ノ賠償ヲ宣言シタル決定(第二百二十九條、第三百二十八條、第三條)以上ノ決定ハ素ト訴訟手續上ヨリ生スル事項ノ裁判ナリト雖モ實體上ノ權利實行ヲ要スルヲ以テ強制執行ヲ爲シ得ヘキ債務名義トナシタルモノニシテ所謂抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ナリ(第五百五十九條第一號)

執行命令

(第二) 執行命令

特別訴訟手續中ノ一ナル督促手續ニ依リ債權者ノ申請ニ應シ區裁判所

カ支拂命令ヲ發シタル後債務者カ十四日ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ同裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リテ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得此支拂命令ニ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノヲ名クテ執行命令ト謂フ(第三百九條)而シテ此執行命令モ亦執行シ得ヘキ債務名義ノ一ニ屬ス(第五十九條第二號)此裁判ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル關席判決ト同一視セラル、(第十四條)之カ強制執行ヲ爲スニ付テハ夫ノ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ト同一ニシテ若シ故障ノ申立アリタルトキハ之ト同時ニ其執行ノ停止ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第十二條)又故障ノ申立カ新辯論ニ基キ執行命令ヲ廢棄シタルトキハ假執行ノ效力ハ全然消滅シ債務者カ既ニ支拂ヒ又ハ給付シタルモノアラハ之カ辨濟ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五百十條第二項)此債務名義ハ命令自體カ執行文ヲ包含スルモノニシテ他ノ債務名義ノ如ク別ニ執行文付與ヲ求ムルコトヲ要セス一種特別ナル性質ヲ有スルモノトス(第一百五六條)

裁判上ノ和解

(第三) 裁判上ノ和解

裁判上ノ和解ニ二種アリ一ハ訴訟提起後ニ於テ受訴裁判所又ハ受命判

事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス和解（第二百二條）ニシテ二ハ訴ノ提起
 前區裁判所ニ於テ爲ス和解（第三百八條）是ナリ此和解ハ何レモ裁判所書記
 カ其和解ノ趣旨ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニス可キモノトス（第三十條）
 裁判上ノ和解ニシテ書記カ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニシタルトキハ執
 行シ得ヘキ債務名義ノ一ニ屬ス（第五百五十九條）
 蓋シ和解ハ一ノ契約ナレハ（民法第六百九十六條）裁判外ニ於テモ當事者ノ
 法律行為ヲ以テ之ヲ約定スルヲ妨クスト雖モ斯ル裁判外ノ和解ハ執行
 ノ基本タル可キ債務名義トナルモノニ非ラス唯裁判上ノ和解ニ限リテ
 法律ハ之ヲ確定ノ終局判決ト同視シ執行ヲ許スニ在リ
 茲ニ注意ス可キハ單ニ請求ヲ認諾シ若クハ之ヲ拋棄シタルノミニテハ
 未タ和解アリタルモノト謂フコト能ハス斯ル場合ニ於テモ書記ハ之ヲ
 調書ニ記載シテ明確ニス可シト雖モ（第三十條）是レ執行ノ基本タルコト
 能ハス若シ其認諾又ハ拋棄アリタル場合ニ於テ執行ヲ爲サント欲セハ
 其認諾又ハ拋棄ニ基キテ判決ヲ受クルノ外ナキモノトス（第二百二十九條）

（第四） 公證人ノ作リタル公正證書

公證人カ其權限内ニ於テ制規ノ方式ニ基キ作リタル公正證書モ亦次ノ
 要件ヲ具備スルトキハ執行シ得ヘキ債務名義タル可キモノトス（第五十九條）
 五號是レ固ヨリ裁判ニ依リ確定シタル權利ニ非ラスト雖モ其法律關係
 ハ極メテ明確ニシテ殊ニ債務者自身カ其執行ヲ受ク可キコトヲ承諾シ
 タルモノナレハ便宜上之ヲ債務名義トナスナリ而シテ茲ニ所謂權限内
 ニ於テ制規ノ方式ニ依リ作リタル證書トハ夫ノ公證人規則第一條乃至
 第三條ノ規定ニ違背セス且同規則第四條第七條ノ受持區域内ニ於テ同
 規則第十三條及ヒ第三章第一節第二節ノ方式ニ從ヒテ作リタル證書ヲ
 謂フ此公正證書ニシテ執行ノ基本タル債務名義タルニハ左ノ要件ヲ具
 備セサル可カラズ

（一） 一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ
 給付ヲ以テ目的トスル請求ナルコト 茲ニ所謂一定ノ金額又ハ一定
 ノ數量トハ其公正證書ヲ作成スル當時ニ一定シ其證書面ニ數額ヲ明
 記シタルモノヲ謂フ又有價證券トハ公ノ取引所ニ於テ相場ヲ以テ取
 引ヲ爲ス可キ性質ノ證券ヲ指スナリ蓋シ本號ノ如キ請求ハ其權利明

破産手続ニ依
リ債權調査シ
タル請求

確ニシテ之カ執行ヲ許スモ回復ス可カラサル損害ヲ生スル恐ナシト
認メタルモノナリ

(二) 其證書中ニ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルコト 即チ
債務者カ債務履行ノ時期ニ至リ之ヲ履行セサルトキハ裁判所ノ裁判
ヲ受クルコトナクシテ直チニ執行ヲ受ク可キ承諾ヲ表記セラレタル
モノナラサル可カラス

(第五) 破産手続ニ依リ債權調査會ニ於テ確定シタル請求

破産手続ニ於テハ各債權者ハ債權ヲ届出テ(舊商法第千二百三十三條)債權調査會ニ於
ケル承認ヲ以テ其債權ヲ確定スルモノナリ(同法第千二百三十六條)而シテ破産手続ノ
實施中ハ各債權者ハ單獨ニ請求ヲ爲シ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモ
ノナレハ(同法第九百八十七條)強制執行ノ債務名義タル問題ヲ生スルコトナシ然
レトモ其確定シタル債權ニシテ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハスシテ破
産手続ヲ終了シタルトキハ此確定シタル債權ハ爾後獨立シテ債務者ニ
請求スルコトヲ得ヘシ
商法ノ規定ニ依レハ此權利名義ニ基ク債權ハ債務者ニ對シ無限ニ行フ

強制執行保全
ノ債權名義

コトヲ得(同法第九百四十九條)ルモノトナセルカ故ニ更ニ裁判ヲ受クルヲ要セサル
モノト謂ハサル可カラス故ニ破産手続ニ依リ確定シタル債權ハ破産手
續終了後ハ調査ノ結果ヲ記シタル債權證書ニ依リ(同法第千二百五十五條)強制執行ノ
基本タル債務名義トナスコトヲ得ヘシ
此債務名義ニ付テハ執行ノ爲メ執行文付與ヲ爲ス可キモノナリヤ否ヤ
ニ付テハ商法中ニ之ヲ規定シタル明文ナク又民事訴訟法中ニモ之ヲ付
與ス可キ當該ノ管轄裁判所ナキヲ以テ其付與ヲ要セサルモノト解ス可
ク從テ當然債務名義ノ一トシテ數フルコトヲ得ルモノナリト信ス然レ
トモ此コトタル議論ノ存スルヤモ知レス又判例ナキ所ナレハ能ク研究
セラレシコトヲ望ム

第三款 強制執行保全ノ債務名義

前二款ニ於テ説明セシ所ノ債務名義ハ權利ヲ直チニ實行シ得ヘキモノナ
レトモ本款ニ於テ講述セントスルモノハ直チニ其請求權ヲ實行シ得ヘキ
債務名義ニ非ラス將來其權利ノ強制執行カ或事情ノ變更ニ因リ其實行ヲ
爲スコト能ハス若クハ其實行ニ困難ヲ生ス可キ場合ニ之カ保全ヲ爲ス爲

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ノ基本タル債務名義

メニスル債務名義タルナリ

此種ニ屬スル債務名義ハ二アリ一ハ假差押命令ニシテ二ハ假處分命令ナリ此等ノ命令ハ民事訴訟法第七百三十七條乃至第七百四十七條及ヒ第七百五十五條以下ノ規定ニ依リ權利實行ノ困難ヲ生ス可キコトヲ理由トシ特別訴訟手續ニ依リ之カ保全ノ爲メ裁判ヲ求メタル場合ニ發ス可キモノニシテ假差押命令ハ金錢債權ノ強制執行保全ノ爲メニ發スルモノト本則トシ假處分命令ハ金錢以外ノ權利實行保全ノ爲メニ發スルモノトス而シテ其裁判ハ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ爲ス場合ト口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ爲ス場合トアリ(第七百四十二條)而シテ其判決ヲ以テ爲シタルト決定ヲ以テ爲シタルトヲ問ハス此等ノ裁判ヲ稱シテ假差押命令及ヒ假處分命令ト云フ

此命令ハ縱令判決ヲ以テスルトキト雖モ本請求ニ付テノ判決ニ依ル債務名義ノ如ク判決ノ確定若クハ假執行ノ宣言アルコトヲ要セス其命令自身カ執行力ヲ有シ之ヲ以テ直チニ執行ヲ爲スコトヲ得ルナリ又之ニ付テハ執行文ヲ付與スルノ必要ナキモノトス(第七百四十九條)

此等ノ命令ニ基キ強制執行ヲ爲スハ直チニ權利ノ實行ヲ強制シ得ヘキ債務名義ト異ナリ單ニ保全ノ爲メノ執行ヲ爲スニ過キサカ故ニ假差押命令ノ執行ノ如キモ唯差押ヲ實施スルニ止マリ之ヲ換價シテ辨濟ニ充ツル手續ニマテ進行スルモノニ非ラス是レ本差押ト相異ナル所ニシテ其詳細ハ後ニ説明ス可シ

第二節 執行力アル正本(強制執行ノ形式上ノ要件)

強制執行ニ付キ其實體上ノ要件タル執行基本ノ債務名義ニ付テハ前節ニ於テ之ヲ講述シタリ而シテ此債務名義アルニ於テハ強制執行ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ強制執行ハ執行機關ニ依リ形式上ノ手續ヲ實施スルモノナレハ其債務名義ノ存在ヲ示シ之ニ依リテ執行ヲ爲スモノナルコトヲ明カニスル書面アルコトヲ要ス殊ニ強制執行ノ實施ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スモノニ非ラス即チ執達吏及ヒ執行裁判所カ執行機關トシテ其任ニ當ル可キモノナレハ從テ執行機關ハ果シテ執行シ得ヘキ債務名義ノ存在スルヤ否ヤヲ知ルコト能ハス故ニ形式上ノ要件トシテ執行力アル正本ヲ付

強制執行ノ形式上ノ要件

與シ債權者ハ之ヲ執行機關ニ提出シ執行機關ハ其正本ニ依リ強制執行ニ實施ス可キモノトス是ヲ以テ強制執行ニハ獨リ實體上ノ債務名義アルノミナラス形式上ノ執行力アル正本ヲ要スルモノトス(第五百十六條第一項)執行力アル正本ハ執行ノ基本タル債務名義ノ正本ノ末尾ニ執行文ヲ附記スルヲ一般トス唯執行命令假差押命令及ヒ假處分命令ニ付テハ前ニ説明シタルカ如ク其命令自身カ執行文ヲ包含スルヲ以テ別ニ執行文ヲ付セス其命令ノ正本ヲ以テ直チニ執行力アル正本ト看做ス可キモノナリ(第五百十七條第七百四十九條)然レトモ其他ノ債務名義ニ至リテハ必ス執行文ノ付與ヲ受ケサル可カラス而シテ此執行力アル正本ハ其執行文ニ表示セラレタル當事者ニ對シテハ獨リ執行文ヲ付與シタル吏員ノ管轄區域内ニ止マラス本邦全國ニ於テ執行シ得ヘキ效力ヲ有ス(第五百十二條)

(第一) 執行文付與ノ申請

執行文ノ付與ハ當事者ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス可キモノニシテ其申請ハ執行ヲ爲サントスル債權者ヨリ之ヲ付與スル權アル吏員ニ對シ口頭又ハ書面ヲ以テ申請ス可キモノトス(第五百十六條第三項)此申請ハ既ニ執行シ得ヘ

キ債務名義存在シ之ニ基キテ申請ヲ爲スモノナルカ故ニ判決ニ付テハ其確定若クハ假執行ノ宣言アリタル後ニ申請ス可ク且其執行文ヲ付與スル吏員ニシテ判決ノ確定ヲ知リ能ハサルトキハ判決確定ノ證明書ヲ添付シテ之カ申請ヲ爲サル可カラス又和解ノ如キハ其成立ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニシタル後ハ何時ニテモ之カ申請ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其債務名義ノ執行ノ趣旨カ條件ニ繋ルトキハ其條件ノ到來後之ヲ證明シテ申請セサル可カラス然レトモ保證ノ條件ニ繋ルトキハ此限ニ非ラサルナリ(第五百十八條第二項)又債務名義ニ表示セル當事者ニ承繼アリテ其承繼人ヨリ執行文ノ付與ヲ求メ若クハ承繼人ニ對スル執行文ノ付與ヲ求ムルニハ裁判所ニ於テ其承繼ノ事實明カナルトキハ格別然ラサル場合ニ於テハ其承繼ノ事實ヲ證明シテ執行文付與ノ申請ヲ爲サル可カラス(第五百十九條)

以上二個ノ場合ニ於テ債權者カ其必要ナル證明ヲ爲シ能ハサルトキハ單ニ執行文付與ノ申請ヲ以テ執行力アル正本ヲ得ルコト能ハス此等ノ場合ニ於テハ別ニ執行文付與ノ訴ヲ提起セサル可カラス(第五百十二條)

債權者ハ債務者ニ對シ數個ノ場所ニ於テ若クハ數個ノ方法ニ依リ同時ニ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百二條)斯ル場合ニアリテハ數通ノ執行力アル正本ヲ必要トスルコトアル可シ故ニ法律ハ同時ニ數通ノ執行力アル正本ノ付與ヲ求メ又一度執行力アル正本ヲ受ケタル後ト雖モ更ニ同一ノ執行力アル正本ヲ求ムルコトヲ得(第五百二條)

(第二) 執行文ヲ付與スル吏員

執行文ノ付與ハ債權者ノ申請ニ因リ裁判所書記カ之ヲ付與スルヲ本則トシ第一審裁判所書記カ之ヲ爲スヲ常トス若シ訴訟カ上級審ニ繫屬スルトキハ上級審ノ書記カ之ヲ付與ス可キモノナリ是レ判決確定證明書ヲ付與スル場合ニ付キ説明シタルト同一ナリ(第五百十六條)又裁判上ノ和解ニシテ訴訟以前ニ爲シタルモノハ其和解ヲ爲シタル裁判所書記カ之ヲ付與ス可キモノナリ(第五百條)抑モ此執行力アル正本ハ單ニ書面ノ認證ヲ爲スニ非ラス執行ノ基本タル正本ノ作成ニ繫リ事重要ナリト雖モ其之ヲ作成スルハ記録ヲ調査シテ之ヲ爲スコトヲ得敢テ特別ノ判斷ヲ要セス故ニ其記録保管ノ任ニ當ル書記ノ職務ニ屬セシメタルモノナリ又其債

務ノ名義ニシテ公正證書ニ繫ルトキハ原本ヲ保管スル者ハ公證人ナルヲ以テ公證人カ之ヲ付與ス可キモノトス(第五百六條)

(一) 裁判所書記カ執行文ヲ付與スル場合 執行文付與ハ裁判所書記ノ任タルコト前陳ノ如シ然レトモ書記ハ一切裁判ヲ爲スノ權ヲ有セス故ニ少シク異例ニシテ特別ノ判斷ヲ要スルトキハ裁判長ノ命令アルニ非ラサレハ執行文ヲ付與スルコトヲ得ス去レハ書記カ執行文ヲ付與スルコトヲ自ラ專行スル場合ト裁判長ノ命令ヲ要スル場合トアリ左ニ之ヲ分説ス可シ

(甲) 書記カ執行文ノ付與ヲ專行ス可キ場合

- (イ) 判決確定シ又ハ判決ニ假執行ノ宣言アル通常ノ場合(第五百八條)
 - (ロ) 抗告ヲ許ス裁判ニ付キ通常ノ場合(第五百九條)
 - (ハ) 裁判上ノ和解ニシテ通常ノ場合(第五百九條)
- 右等ノ債務名義ニシテ異ナリタル事情ナキトキハ書記ハ執行文付與ヲ專行ス可キモノトス

(乙) 裁判長ノ命令アルトキニ限リ書記カ其命令ニ基キ執行文ヲ付與

ス可キ場合

六〇

(イ) 債務名義ニ基ク執行力其趣旨ニ從ヒ條件ニ繫ル場合 茲ニ所謂執行力條件ニ繫ルトハ債權者カ債務者ニ對シ反對給付ノ義務ヲ負ヒ若クハ爲スノ義務アル場合又ハ其執行力他ノ停止條件ニ繫ル場合ノ如キヲ謂フ此等ノ條件ニ繫ルトキハ執行力アル正本ノ付與ヲ申請スル者ハ公正證書ナルト私署證書ナルトニ拘ハラズ其條件ノ到來シタル事實ヲ證明セサル可カラス(第五百十八條第二項)此證明ニ付キ果シテ條件ノ到來セシモノナリヤ否ヤヲ決スルハ一個ノ判斷ヲ要スル事項ナルカ故ニ裁判長カ之ヲ調査シ其命令ヲ下シタル場合ニ限り書記ハ執行文ノ付與ヲ爲ス可キモノトセリ(第五百二十條)

執行力條件ニ繫ルト雖モ單ニ保證ヲ立ツルコトノ條件ナルトキハ執行機關ニ於テ之ヲ調査スルコト容易ナレハ執行文付與ニ付テハ之ヲ顧ミス唯執行着手ニ付テノ要件トナスニ在リ(第五百二十九條)又執行力一定ノ日時ノ到來ニ繫ルモノ、如キハ條件ト同視セス

故ニ書記ハ斯ル事項ヲ顧ミスシテ執行文ヲ付與スルコトヲ得ヘキモノトス(第五百二十八條)

(ロ) 債務名義ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲メニ執行文ヲ付與ス可キ場合又ハ債務名義ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シテ之ヲ付與ス可キ場合 當事者間ノ法律關係ニ付キ既ニ執行シ得ヘキ債務名義ノ成立シタル後ニモ承繼ニ因リ之ヲ移轉ス可キコトアルハ疑ヲ容レス然レトモ執行機關タル者ハ元來其執行力アル正本ニ依リテノミ執行ヲ爲ス可キモノナレハ其正本ニ表示シタル債權者ヨリ之ニ表示シタル債務者ニ對シテ執行ヲ爲ス權アルモ其他ノ者ニ對シテハ執行ヲ爲スノ權ヲ有セス(第五百十八條)故ニ一度債務名義カ成立シタル後其當事者中ニ承繼アレハ債權者ハ其承繼人ノ爲メニ若クハ其承繼人ニ對スル執行文ノ付與ヲ求メサル可カラズ縱令一旦執行文ノ付與ヲ受ケタル後ト雖モ強制執行ノ着手前ニ承繼アリタルトキハ又同然ナリ然レトモ強制執行開始後ニ承繼アルトキハ法律ハ其執行ヲ繼續セシ

ムルモノトナスカ故ニ更ニ承繼人間ノ執行文ヲ受クルヲ要セス
(第五百五十三條)

抑モ承繼ニハ相續ノ如ク權利義務ヲ包括シテ承繼スル所ノ一般ノ承繼ト賣買贈與ノ如ク特定ノ權利ヲ承繼スル所ノ特別ノ承繼トノ二種アリ而シテ債權者ノ承繼人ナルトキハ一般ノ承繼人タルト特別ノ承繼人タルトヲ問ハス其承繼ニ係ル債權ニ付キ承繼人ノ爲メニ執行文ヲ付與ス可キモノナレトモ債務者ノ承繼ノ場合ニハ一般ノ承繼人ニ對スルトキニ限り之ヲ付與ス可キモノトセリ是レ權利ハ一般ノ承繼及ヒ特別ノ承繼ヲ以テ移轉スルコトヲ得ルモ義務ニ至リテハ相續ノ如ク包括シテ權利義務ヲ承繼スル場合ノ外ハ單ニ義務ノミ特別ニ承繼スルカ如キハ極メテ變例ニ屬スルモノナレハ直チニ之ニ對シテ執行ヲ許サ、ルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

而シテ此等ノ承繼アリタル場合ニ於テ其執行力アル正本ヲ求ムル債權者ハ其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ格別然ラサル場合ニハ其申請ヲ爲スニ付キ之カ證明ヲ爲サ、ル可カラス而シテ裁判所ニ於テ承繼ノ明白ナル場合トハ訴訟中殊ニ其一部ノ債務名義成立後當事者カ死亡シ訴訟カ中斷トナリタル後相續人カ之ヲ受繼キタル場合ノ如キヲ謂フ

前述ノ如ク承繼アル場合ニ其承繼カ裁判所ニ明白ナリヤ否ヤ又ハ債權者ノ證明ニ因リテ之ヲ認メ得ヘキヤ否ヤハ一個ノ判斷ヲ要スルカ故ニ裁判長カ之ヲ決シ其命令アルトキニ限り書記カ執行文ヲ付與ス可キモノトセリ(第二百五條)
又執行命令ハ一般ノ場合ニハ執行文ノ付與ヲ要セスト雖モ承繼アル場合ニ限り執行文付與ヲ受クサル可カラズ其手續ハ前ニ述ヘタル所ニ從フ(第五百六條)

(ハ) 債權者カ數通ノ執行力アル正本ヲ求メ又前ニ一旦其付與ヲ受ケタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムル場合債權者ハ同時ニ數個ノ方法ニ依リ即チ動産ニ對スル執行ト不動産ニ對スル執行ニ依リ強制執行ヲ爲シ又ハ同時ニ甲地乙地ノ財

産ヲ差押フルカ如キ數個ノ場所ニ於テ強制執行ヲ爲スコトヲ得故ニ之カ爲メ同時ニ數通ノ執行力アル正本ヲ要スルコトアリ斯ル場合ニハ數通ノ執行力アル正本ヲ求メ又ハ一度其正本ノ付與ヲ受ケタル後更ニ同一正本ノ付與ヲ求メ得ヘキコトハ前ニモ論述セシ所ナリ尙ホ前ニ付與ヲ受ケタル正本ヲ紛失シタル場合ノ如キモ再度ノ正本ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ヘシ然レトモ元來執行力アル正本ハ之ヲ以テ債權者ノ財産ヲ強制的ニ左右スルモノナレハ數通ノ正本ヲ下付スルハ二重ノ執行ヲ爲スノ危險アルヲ以テ果シテ眞ニ數通ノ正本ヲ要ス可キヤ否ヤハ重要ナル事項ニ屬ス故ニ裁判長カ之ヲ調査シ其命令アルトキニ限り書記カ之ヲ付與ス可キモノトスルニ在リ

公證人カ執行力アル正本ヲ付與スル場合

(二) 公證人カ執行力アル正本ヲ付與スル場合 公證人ノ作成シタル公正證書ニシテ債務名義タルモノニ付テハ公證人ニ於テ執行力アル正本ヲ付與ス可キモノトス是レ公正證書ニ付テハ其基本タル原本ハ公證人ノ保管スル所ニ係ルヲ以テナリ故ニ其公證人ハ其證書ヲ作りタ

ル者カ之ヲ付與ス可キモノナリト謂フニ非ラスシテ其證書ノ原本ヲ保管スル公證人ニ於テ之ヲ付與ス可キモノナリ是ヲ以テ公證人ノ轉職、退職、死亡等ノ如キ場合ニハ其記録ヲ受繼キ現ニ之ヲ保管スル所ノ公證人カ之ヲ取扱フ可キモノナリトス此公證人カ執行力アル正本ヲ付與スルニ付テモ自ラ之ヲ專行シ得ヘキ場合ト裁判所ノ命令ヲ待テ其命令ニ基キ之ヲ付與ス可キ場合トアリ其裁判所ノ命令ニ依ル可キモノハ數通ノ執行力アル正本ヲ求ムル場合又ハ再度ノ執行力アル正本ヲ求ムル場合等ニシテ此等ノ場合ニ在リテハ第五百二十三條ノ規定ニ於ケル裁判長ノ命令ニ代ヘテ公證人カ職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ受ク可キモノトス是レ公證人ニハ固ヨリ裁判長タル可キモノナキヲ以テナリ(第五百六十二條第)右等ノ場合ノ外第五百十八條ノ規定ニ於ケル執行力條件ニ繫ルトキ又ハ第五百十九條ノ承繼アリタルトキト雖モ公證人ハ其執行力アル正本ノ付與ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス是レ公證人ハ裁判所書記ト異ナリ既ニ執行シ得ヘキ債務名義ヲ作成スルノ權アル者ナレハ斯

ル正本ヲモ付與スルコトヲ得セシムルナリ然レトモ此點ニ付テハ反對論アルヤモ知ル可カラス

(第三) 執行文付與ノ手續

執行文ハ債權者ノ申請ニ因リ之ヲ付與ス可キモノナルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ其申請アリタル場合ニ於テ之ヲ付與スル手續ハ左ノ如シ
(一) 執行文付與ノ申請アルトキハ裁判所書記又ハ公證人ハ其訴訟記録又ハ公正證書ノ原本ニ付キ執行文ヲ付與シ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ調査シ之ヲ決ス可キモノナリトス

(二) 其申請ニシテ裁判長若クハ區裁判所ノ命令ニ因リ執行文ヲ付與ス可キモノナルトキハ其命令ヲ受ク付與ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス

(三) 裁判長又ハ區裁判所カ其命令ヲ爲スニ際シテハ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得(第五百二十條第二項、第五百二十二條)又數通ノ執行力アル正本又ハ再度同一ノ正本ノ付與ニ付キ命令ヲ爲スニ當リテハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ命シ執行文ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知セサル可カラス

(四) 書記又ハ公證人カ自ラ專行スルトキト裁判官ノ命令ニ因リ執行文ヲ付與スルトキト問ハス之ヲ付與スルニハ其前ニ債務名義タルモノ、原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲メ換言スレハ當事者中何人ニ執行文ヲ付與シタルカヲ明記シ其付與ノ日時ヲ記載セサル可カラス(第五百二條)若シ上訴審ニ於テ確定シタル債務名義ナルトキハ其記録中ニ原本ナルモノ存セサルヲ以テ此場合ニ限り認證アル謄本ヲ原本ト看做シ之ニ右ノ事項ヲ附記スルヲ相當トス

(五) 執行力アル正本ノ文式

(甲) 普通ノ執行力アル正本ノ文式ハ債務名義ノ正本ノ末尾ニハ前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與スルト記シ裁判所書記又ハ公證人ハ之ニ署名捺印シ尙ホ書記ノ付與スルモノニハ裁判所ノ印ヲモ捺捺ス可キモノトス(第五百七條)尤モ公證人ノ作成スル執行文ニ在リテハ原告若クハ被告ナル文字ニ換ヘテ債務者某ニ對シ云々債權者某ニ之ヲ付與スト記載ス可キモノナリ又承繼アリタルトキハ執行文ニ於テ其承繼人ニ

對シ若クハ承繼人ノ爲メニ付與スル旨ヲ記載セサル可カラス然ラ
サレハ強制執行ニ着手スルコトヲ得ス(第五百二條)

(乙) 特別ナル記載事項

(イ) 債權者又ハ債務者ノ承繼カ裁判所ニ於テ明白ナリトノ故ヲ以
テ其證明ヲ要セスシテ執行文ヲ付與スルトキハ其執行文中ニ其
事由ヲ記載セサル可カラス(第五百十九條)

(ロ) 債務名義ノ趣旨ニ因リ其執行カ條件ニ繫ルトキ又ハ當事者ノ
承繼アリタルトキ裁判長ノ命令ニ依リ執行文ヲ付與スル場合ニ
於テハ其執行文中ニ其命令ヲモ記載ス可キモノトス(第五百二十條)

(ハ) 數通又ハ再度ノ執行力アル正本ノ下付ニ付テハ命令ニ因リ執
行文ヲ付與スト雖モ其命令ヲ執行文中ニ記載ス可キコトハ法律
ノ命スル所ニ非ラス然レトモ其執行文ニハ數通又ハ再度ノ執行
文ヲ付與シタル旨ヲ記載セサル可カラス

(六) 執行文付與ノ許否ニ關スル不服ノ申立

(甲) 裁判所書記又ハ公證人カ執行文付與ヲ拒絕シタルトキハ自ラ專

行シ得ヘキ場合ナルト裁判官ノ命令ニ依リ之ヲ拒絕シタル場合ナ
ルトヲ問ハス其處分ニ對シテ裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得(第四百六十五條)

(乙) 執行文付與ニ對スル異議

書記又ハ公證人カ執行文ヲ付與シタル場合ニ於テ債務者ヨリ不服ヲ申立ツルニハ右ノ手續ニ依ラス執
行文付與ノ異議ナル特別ノ手續ニ依ル可キモノトス此異議ニ關シ
テハ後ニ執行ニ關スル異議ト共ニ一括シテ講述ス可シ要スルニ此
不服ノ申立ハ書記又ハ公證人カ專行シ得ヘキ場合ナルト裁判官ノ
命令ニ依リタル場合ナルトヲ問ハス執行文付與ニ付キ其手續上執
行文ヲ付與ス可キモノニ非ラサルニ之ヲ付與シ又ハ條件附ナルト
キ若クハ承繼アル場合ニ於テ此等ノ證明ナクシテ付與シタルカ如
キ欠缺アル場合ニ債務者ヨリ不服ノ申立ヲ爲ス可キモノヲ謂フ此
異議ニ付テハ書記ノ取扱ヒタル場合ニハ其書記ノ屬スル裁判所カ
其裁判ヲ爲シ(第五百二條)公證人ノ取扱ヒタル場合ニハ其職務上ノ住
所ヲ有スル地ノ區裁判所其裁判ヲ爲ス可キモノトス(第五百六十一條)

(第四) 執行文付與ノ訴

執行文ハ債權者ノ申請ニ因リ書記又ハ公證人カ之ヲ付與スルコトヲ本
則トスルモ債務名義ノ趣旨ニ依リ其執行カ條件ニ繫ルトキ又ハ當事者
ニ承繼アルトキ債權者カ執行文付與ノ申請ニ必要ナル右ノ條件ノ到來
若クハ承繼ノアリタル事實ヲ證ス可キ證明書(第五百十八條)ヲ提出シ能
ハサルトキハ單ニ申請ノミヲ以テ執行文ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ス此
場合ニ於テハ相手方ニ對シ形式上ノ訴即チ執行文付與ノ訴ヲ提起シ執
行文ヲ付與ス可キモノナルコトノ判決ヲ受ケサル可カラス(第五百二
十一條)而
シテ此訴ハ通常訴訟ニシテ其裁判管轄ハ判決又ハ訴訟中ニ於テ生スル
債務名義ニ付テハ第一審ノ受訴裁判所ニ屬シ執行命令及ヒ訴訟提起前
ノ和解ニ付テハ之ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ屬シ(第五百二十一條、第
五十二條、第
五十三條、第
五十四條、第
五十五條)又公正證書タル債務名義ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ
裁判所若シ其裁判所ナキトキハ第十七條ノ特別裁判籍アル地ノ裁判所
ノ管轄ニ屬スルモノトス(第五百六十
二條、第
五百六十
三條)
此等ノ訴訟ニ於テハ債權者即チ原告ハ獨リ書面ノミナラス凡テノ證據

方法ニ依リ其條件ノ到來又ハ承繼ノ事實ヲ證スルコトヲ得而シテ此等
ノ事實ニシテ完全ニ證明アリタルトキハ裁判所ハ其請求ヲ正當ト認メ
執行文ヲ付與ス可キ判決ヲ爲スヲ通例トス此判決アリタルトキハ其確
定ニ依リ執行文付與ノ任ニ當ル吏員ハ之ニ基キ執行文ヲ付與ス可キモ
ノトス

第三節 執行着手ノ要件

強制執行ノ着手ニ付テハ前節ニ於テ説明シタル執行力アル正本ヲ有スル
ノミヲ以テ足レリトセス債權者ト債務者トノ關係及ヒ執行ニ着手ス可キ
時期ヲ確實ニシ且債務者ニ執行ヲ豫告スルノ手續ヲ盡スコトヲ要ス是レ
執行機關ヲシテ執行ヲ爲シ得ヘキ當事者ナリヤ否ヤ其時期カ到來シタリ
ヤ否ヤヲ調査シ債務者ヲシテ其執行ヲ受クルコトヲ豫知セシムルノ目的
ニ出ツルモノニシテ此要件ヲ具備スルニ非ラサレハ執行機關ハ執行ニ着
手スルコトヲ得ス

此執行着手ノ要件ニハ一般ニ適用ス可キ要件ト特別ノ場合ニ限り適用ス

可キ要件トノ二アリ

(第一) 一般ノ場合ニ適用ス可キ執行着手ノ要件

債務名義ノ何タルヲ問ハス債務者ノ何人タルヲ論セス又書記ノ付與シタル執行力アル正本ナルト公證人ノ付與シタルモノナルトニ拘ハラス強制執行ヲ始ムルニハ左ノ事項ノ存スルコトヲ要ス

(一) 強制執行ヲ求ムル者即チ債權者及ヒ之ヲ受クル者即チ債務者ノ氏名ヲ債務名義ニ表示シ又ハ之ニ附記シタル執行文ニ表示シアルモノタルコトヲ要ス抑モ判決ハ第三者ノ爲メ及ヒ第三者ニ對シテ效力ヲ有スルモノニ非ラサルヲ以テ債務名義ノ表示ナキ第三者ニ對シテ執行シ得ヘキモノニ非ラサルヤ明白ナリ縱令承繼人ノ如キ其效果ヲ承繼ス可キ者ト雖モ其執行文ニ於テ之ニ對シテ執行ス可キコトノ表示ナクハ執行機關ハ之ヲ知ルニ由ナシ故ニ承繼ノ場合ノ如キハ執行文ニ之ヲ表示ス可キモノナリ故ニ債務名義又ハ執行文ニ表示ナキ當事者ニ對シテハ執行ニ著手ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ執行上ノ當事者ナリヤ否ヤヲ確定セシムルニ在リ

(二) 判決其他ノ債務名義ヲ既ニ債務者ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタル

コトヲ要ス 此送達ノ目的ハ債務者ヲシテ如何ナル債務名義ニ依リテ執行ヲ實施セラル可キヤヲ豫知セシムルニ在リ而シテ其執行ノ基本タル判決ニ至リテハ之ヲ言渡シタル裁判所ニ於テ債務者ノ訴訟代理權ノ消滅セサル間ハ代理人ニ對シテ送達ヲ爲スコトヲ得然ルトキハ債務者カ其送達ヲ知りタルト否トニ論ナク送達ヲ受クタルモノト看做ス可キモノナリ執行ノ基本タル判決第一審又ハ第二審ノ裁判ニシテ確定シタルモノナルトキハ送達後ニ不變期間經過スルモノナレハ既ニ送達ヲ爲シアルコトハ論ヲ俟タサルモ上告審ノ判決ナルトキハ送達ヲ爲サルコトアル可シ何トナレハ上告審ノ判決ハ其言渡ニ因リテ直チニ確定ス可キモノナレハナリ斯ル場合ニハ執行ヲ始ムル前又ハ執行ト同時ニ特ニ判決ノ送達ヲ爲サル可カラス夫ノ和解及ヒ公正證書ノ如キハ常ニ送達シアラサルヲ通例トスルカ故ニ是レ亦其執行ト同時ニ送達セサル可カラス此等ノ送達ナクシテ執行ニ着手シタルトキハ其着手ハ無効ニ歸ス可キモノトス

民事訴訟法正解 強制執行 總則 執行着手ノ要件

(第五百二十) 唯假差

特別ノ場合ニ
適用スヘキ要
件

押假處分ノ命令ノ執行ハ例外トシテ此送達ヲ要セサルモノトセリ(第七百四十九條第三項)

(第二) 特別ノ場合ニ適用ス可キ執行着手ノ要件

特別ナル場合ニ於ケル執行着手ノ要件ハ次ノ如シ

(一) 判決其他ノ債務名義ノ執行カ其趣旨ニ依リ證明書ヲ以テ證明スル
トトヲ要スル事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ其執行カ判決ニ表示セラレ
タル當事者ノ承繼ニ關スルトキハ債務名義ヲ送達スルノ外尙ホ之ニ
附記シタル執行文ヲ債務者ニ送達スルコトヲ要ス若シ證明書ニ依リ
執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲモ送達スルコトヲ要ス
(第五百二十八條第五項第九條第
五百二十八條第二項第三項)

(二) 請求カ或日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了シタルコトヲ確ム
ルコトヲ要ス 是レ判決又ハ其他ノ債務名義ニ履行ノ日時ヲ指定シ
タル場合ヲ謂フモノニシテ此場合ニハ裁判所書記ハ其履行ノ日時ヲ
顧ミス執行文ヲ付與スルコトヲ得ルナリ然レトモ其日時ノ到來シタ
ル後ニ非ラサレハ執行ニ着手スルコトヲ得サルカ故ニ執行機關ハ之

ヲ調査セサル可カラサルナリ(第五百二十
九條第一項)

(三) 判決ノ執行カ保證ヲ立ツル條件ニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テ
タルコトノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ債務者ニ送達スルコト
ヲ要ス 是レ假執行ノ宣言ニ付キ保證ヲ立テシメテ假執行ヲ許ス場
合ニ生ス可キモノニシテ(第五百
三條)此場合モ亦判決ノ執行カ條件ニ繫ル
コトノ一アルモ執行文付與ノ場合ニハ他ノ條件ニ繫ル判決ノ例外ト
シテ書記ハ其保證ヲ立テタルヤ否ヤヲ顧ミス執行文ヲ付與シ其保證
ヲ立テタルヤ否ヤハ執行機關ノ調査ニ委シ執行着手以前ニ於テ之ヲ
立テ其證明書ヲ執行機關ニ提出シ之ヲ相手方ニ送達ス可キモノトセ
リ而シテ茲ニ所謂公正ノ證明書トハ供託法ノ規定ニ於ケル供託證書
ヲ指スモノナリ(第五百二十
九條第二項)

(四) 常備現役ノ軍人軍屬ニ對シテ強制執行ヲ爲スニハ其上班司令官廳
ニ通知ヲ爲スコトヲ要ス 是レ蓋シ軍人軍屬ハ嚴格ナル規律ノ下ニ
服役スルモノナルカ故ニ普通ノ執行上ノ行爲ヲシテ軍紀ニ牴觸セシ
ムルカ如キコトナカラシメンカ爲メ此通知ヲ要スルモノトナシタル

民事訴訟法正解 強制執行 總則 執行着手ノ要件

第四節 執行機關

執行機關

強制執行ハ國家裁判權ノ行使ナルカ故ニ其實施ヲ司法機關ニ屬セシメタルコトハ前ニ説明シタル所ナリ然レトモ其執行權ノ實施ハ裁判權ノ行使中ニ在リテモ他ノ判定權ト異ナリ事實上有形的ニ實行ス可キ行為ハ其大部分ヲ占ムルカ故ニ斯ル行為ノ執行ニ付テハ司法機關中ニ於テ別ニ其任ニ當ル可キ吏員ヲ置キ之カ職務ヲ取ラシム可キモノトセリ其吏員ヲ執達吏トス

執達吏ハ司法機關トシテ強制執行ヲ實施スト雖モ執行行為中ニモ有形的ニ實踐スル行為ニ非ラスシテ無形的ニ判定シ以テ之ヲ實施スルコトアリ斯ル行為ニ付テハ法律ハ執達吏ニ屬セシメシテ裁判所ヲシテ其執行行為ヲ爲サシム而シテ裁判所カ此執行行為ヲ爲スニハ執行裁判所トシテ區裁判所カ其任ニ當ルヲ通例トス然レトモ或特別ナル場合ニ於テハ受訴裁判所ヲシテ其任ニ當ラシムルコトアリ故ニ左ニ欸ヲ分チテ執達吏及ヒ執行裁判所ノ權限職務等ニ付テ論述セン

執達吏

第一款 執達吏

執達吏ハ裁判所ノ職員ニシテ送達及ヒ執行ノ職務ニ從事スルモノトス是レ此種ノ吏員ニ執行ト送達ト專務ト爲サシムルニ因リ執達吏ナル名稱アル所以ナリ故ニ特ニ裁判所ノ執行行為ニ屬セシメサル強制執行ハ總テ執達吏ノ職務トス(第五百三十一條第一項)而シテ如何ナル資格ヲ有スル者カ執達吏トシテ任命セラル可キヤハ裁判所構成法及ヒ執達吏規則ニ規定スル所ナレトモ茲ニ注意ス可キコトハ執達吏ニ非ラサル者ニ臨時執達吏ノ職務ヲ代理セシメ補助機關トシテ執行ヲ爲サシムルコトアリ是レ一ノ補助方法ナリ

(第一) 執達吏ノ職務ニ屬スル執行ノ範圍

執達吏ノ職務ニ屬スル範圍

- ルカ故ニ其職務ノ範圍極メテ廣シ今之ヲ指示スレハ次ノ如シ
- (一) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル有體動産ニ對スル執行(第六編第一章第一節第二款)
- (二) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ於ケル債權ニ對スル執行ノ

民事訴訟法正解 強制執行 總則 執行機關

一部タル手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ依レル債權ノ差押及ヒ差押命令ニ基ク證書ノ取上(第六百三條)

(三) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産及ヒ船舶ニ對スル執行ニ關シ執行裁判所ヨリ命セラレタル不動産ノ取調競賣實施若クハ入札拂

實施ノ執行(第六百四十三條第六百五十九條第六百六十三條乃至第六百六十九條第六百七十九條第七百三條乃至第七百五條)

(四) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行中債務者ノ占有中ニ在ル動産ノ引渡又ハ不動産及ヒ船舶ノ明渡(第七百三十一條)

(五) 假差押ノ命令及ヒ假處分ノ命令ニ關スル執行中執達吏ノ職務ニ屬スル執行(第七百四十八條)

以上列記ノ事項ノ外執達吏ハ執行裁判所ヨリ執行ニ關スル告示催告及ヒ管理行為等ヲ命セラレタルトキハ其命ニ從ヒ之ヲ實施セサル可カラ

(則執達吏規)

而シテ執達吏ハ一定ノ所屬區裁判所ヲ定メラレ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄地内ニ於テ其職務ヲ行フコトヲ得ルモノトス

(第二) 執達吏ノ執行實施ニ付テノ權利義務

權利義務

執達吏カ執行行為ヲ爲スハ執行裁判所ヨリ個々ノ執行行為ヲ命セラレタルトキハ其命ニ基キ之ヲ實施ス可キモノナレトモ其他執達吏ノ專務ニ屬スル強制執行ニ付テハ債權者ヨリ執行力アル正本ヲ付與セラレテ執行ノ委任ヲ受クタルトキハ之カ實施ヲ爲ス可キモノトス而シテ此委任ハ債權者ヨリ執達吏ニ對シテ直接ニ爲スコトヲ得ヘク區裁判所書記ノ媒介ニ依リテモ委任スルコトヲ得(第二百五十三條)其直接委任ニ出ツルト間接委任ニ依ルトヲ問ハス執行力アル正本ヲ交付セラレタルトキハ之ニ依リテ直チニ其職務ノ範圍ニ屬スル限リハ執行行為ヲ實施スルノ權ヲ有ス

此執行委任ナルモノハ名ハ委任ト稱スルモ其實民法上ノ單純ナル委任ト異ナリ執行機關ニ對スル執行ノ申出ニシテ此申出ニ依リ執行機關ハ執行權ヲ行使スルモノトス然レトモ執達吏ノ專務ニ屬スル執行ニ付テハ債務者ヨリ金錢ノ支拂又ハ物品ノ給付若クハ賣得金ノ領收ヲ爲セルトキハ之ヲ以テ債務ノ履行ヲ終了シタルモノト看做スカ故ニ執達吏ハ債權者ノ爲メニ實體上債務ノ履行ヲ受ク可キ地位ニ立ツモノト謂ハサ

執行委任ノ性質

民事訴訟法正解 強制執行 總則 執行機關

ル可カラス是ヲ以テ執達吏ニ對スル委任ハ一面ニ於テハ公法上ノ執行ノ申出ニシテ他ノ一面ニ於テハ私法上ノ債務履行ヲ受ク可キ委任ナリト看做スコトヲ得ヘシ故ニ其委任ニ依リ執達吏ト債務者トノ間ニ於テハ一種ノ私法上ノ關係ヲ生シ他方ニ於テハ執行當事者及ヒ其關係人ニ對シテハ執行法ニ依ル公法上ノ關係ヲ生スルモノト云フ可シ

(二) 執達吏ト債權者間ノ私法上ノ關係 此關係ハ民法上ノ規定ニ從フ可キモノナリト雖モ其關係ノ發生スルニハ債權者ヨリ執行ノ爲メ執行力アル正本ヲ交付スルトキハ特別ナル委任ノ形式ヲ要セスシテ其執行ノ申出ト同時ニ法律上委任ノ效力ヲ生シ之ニ依リテ當然左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百三十三條)

(イ) 支拂其他ノ給付ヲ受クルコト

(ロ) 有效ニ受取證ヲ作り債務者ニ交付スルコト

(ハ) 債務ノ履行ヲ終リタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコト

以上ノ如キ債務ノ履行ヲ受クルノ行爲ハ當然委任ノ範圍内ト看做サ

レ縱令債權者カ之ヲ制限スルモ是レ唯債權者ト執達吏トノ内部ノ關係ニ止マリ之ヲ以テ債務ヲ履行シタル者ニ對シテ其履行ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ス又債務者ニ於テモ執行力アル正本ヲ所持スル執達吏ニ對シテハ委任ノ欠缺アルヤ否ヤヲ調査スルニ及ハス直チ之ニ對シテ履行スルコトヲ得ヘク其履行ヲ了シタルトキハ債務ヲ免カレ爾後ノ危險ハ凡テ債權者ノ負擔ニ歸ス可キモノトス

(二) 執達吏ノ執行法上ノ權利義務 執達吏カ執行法上當事者等ニ對シテ有スル公法上ノ權利義務ハ左ノ如シ

(甲) 執達吏ノ執行法上ノ權利

(イ) 執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ執行委任ヲ受ケタルトキハ之ニ依テ自己ノ職務ニ屬スル執行ヲ實施スルノ權ヲ有ス

(ロ) 執達吏ハ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムルノ權利ヲ有ス(第五百三十三條第一項) 憲法第二十五條ニ依レハ日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ノ外ハ其許諾ヲクシテ住所ニ侵入セラレ及ヒ搜索セラレ

ルコトナシト規定セリ而シテ今茲ニ論スル所ハ即チ法律ニ定メ
 タル場合ニ該當スルモノナリ然レトモ是レ唯執行上必要ナル場
 合ニ限ルモノニシテ其必要ヲ超エテ此種ノ行爲ヲ爲スヲ得ス
 (ハ) 執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキハ威力ヲ用
 キ且警察上ノ援助ヲ求メ又ハ兵力ヲ借ルコトヲ得ヘシ(第五百三
 十六條第三
 項)然レトモ是レ唯其抵抗ヲ除クニ必要ナル程度ヲ限リトスル
 モノニシテ猥リニ威力ヲ用キルコトヲ得サルヤ明カナリ而シテ
 警察上ノ援助ハ執達吏ニ於テ自ラ求ムルコトヲ得ルモ兵力ハ執
 行裁判所ニ申立テ其共力ヲ受ケサル可カラス

乙

執達吏ノ執行法上ノ義務

(イ) 執達吏ハ強制執行ニ付テハ常ニ執行力アル正本ヲ有シテ關係
 人ノ求メアルトキハ其資格ヲ證スル爲メニ之ニ示サ、ル可カラ
(第五百三
 十四條第二項)
 (ロ) 執達吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ルコトヲ要ス(第五百
 四十五條)茲
 ニ所謂各執行行爲トハ例ヘハ差押ヲ爲シタルトキハ差押調書ヲ

作り競賣ヲ爲シタルトキハ競賣調書ヲ作り動産ノ引渡又ハ不動
 産若クハ船舶ノ引渡又ハ明渡ヲ爲シタルトキハ此等ノ引渡又ハ
 明渡ノ調書ヲ作ルカ如キ是ナリ(第五百六
 十六條以下、第
 五百七十三
 條)而シテ此調書ニハ第五百四十四條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記
 載シ其調書ハ執行記録ニ編入ス可キモノトス

(ハ) 執達吏ハ執行行爲ニ屬スル必要ナル催告其他ノ通知ハ口頭ニ
 テ之ヲ爲シ又ハ調書ノ送達ニ依リ之ヲ爲シテ其旨ヲ調書ニ記載
 スルコトヲ要ス(第五百四十四條)催告トハ即チ任意ノ支拂若ク
 ハ任意ノ供給ヲ債務者ニ催告シ又ハ戸扉、倉庫等ヲ開ク可キ旨ヲ
 催告シ又ハ職務上ノ收入高ヲ示ス可キ旨ヲ催告シ或ハ又競賣價
 格ノ申出ヲ催告スルノ類ナリ(第五百七十
 六條第一項第
 六號、第六十
 三條)又通知トハ
 差押ヲ爲シタルコトヲ債務者ニ通知スルカ如キ又ハ配當要求ア
 リタルコトヲ各債權者ニ通知スルカ如キヲ謂フ(第五百六十六條)
 (第五百九十一
 條)
 然レトモ此等ノ通知、催告ハ債務者ノ所在不明ナルトキ又ハ外國
 ニ在ルトキハ之ヲ爲スヲ要セサルナリ

(三) 執達吏ハ執行ノ目的ヲ全部達シタルトキハ執行力アル正本及ヒ債務ノ受取證ヲ債務者ニ交付ス可ク其一部ヲ盡シタルモノナルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ其受取證ノミヲ債務者ニ交付ス可キモノトス(第五百三條)蓋シ執行力アル正本ヲ所持スル目的ハ唯強制シテ債務ヲ完全ニ實行セシムルニ外ナラス故ニ債務者カ全ク其義務ヲ盡シタルトキハ債權者若クハ執達吏ハ其執行力アル正本ヲ所持スルノ必要ナキノミナラス尙ホ之ヲ所持セシムルトキハ他日執行ヲ再始スルカ如キ危険ナキヲ保シ難シ是ヲ以テ法律ハ完全ニ義務ヲ盡シタルトキハ必ス債務者ニ其正本ヲ交付セシメ以テ他日ノ危険ナカラシメンコトヲ期シ且受領書ヲモ交付セシム可キ規定ノ如キモ債務者ヲ保護スル精神ニ出テタルモノナリ

若シ其債務ノ一部ヲ盡シタルモノナルトキハ執行力アル正本ノ欄外又ハ末尾ニ其旨ヲ附記シテ債權者ニ交付シ他日債務者カ其資力ヲ有スルニ至リタル場合ニ強制執行ヲ爲スノ用ニ供セシム

而シテ此等ノ手續ハ債務者カ自ラ甘ンシテ義務ヲ履行シタル場合ナルト第三者カ之ニ代ハリテ其履行ヲ爲セルトキトテ問ハス又強制執行前ニ任意ニ履行シタル場合ナルト強制執行ノ結果其義務ヲ盡シタル場合トテ論セス總テ此手續ヲ踐ム可キモノナリ(ホ)執達吏ハ強制執行ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行為ヲ爲スニ際シ債務者其他家族雇人等ニ出會セサルトキハ近隣ノ者又ハ市町村長若クハ警察吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシメ執行ヲ爲スノ義務アルモノナリ(第五百三條)而シテ此證人ハ所謂立會證人ニシテ夫ノ係争事實ヲ證明ス可キ裁判上ノ證人ト異ナリ將來ノ爲メ證據トナス可キ裁判外ノ證人ノ謂ナリ(第九條第三號)公證人規則第二十八條及ヒ民法第六十九條ノ規定ニ依ル立會證人モ亦此種ニ屬ス此立會證人ヲ要スル所以ハ執達吏ノ專行妄斷ナカラシメンコトヲ期シ債務者ヲ保護スルニ在リ

(ハ) 執達吏ハ強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル各人ノ求メアルト

キハ執行記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ之ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スル義務アリ(第五百三條) 茲ニ所謂利害關係人トハ債權者及ヒ債務者ノミナラス第五百四十九條ノ規定ニ於ケル異議ヲ主張セントスル第三者及ヒ第五百六十五條ノ規定ニ依ル優先權ヲ主張セントスル第三者及ヒ第五百九十四條ノ規定ニ於ケル第三債務者ノ如キヲモ包含ス又執行記録トハ訴訟記録ノ如ク一事件毎ニ執達吏カ書類ヲ編綴シタルモノナリ而シテ執達吏ハ其書類ノ謄本ヲ付與ス可キ義務アリト雖モ之ヲ付與スルニ付テハ執達吏手數料規則ニ從ヒ手數料ヲ受クルコトヲ得

(ト) 執達吏ハ夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行行為ヲ爲サ、ルヲ本則トス若シ此日時ニ執行ヲ爲スノ必要アルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受ケサル可カラス而シテ此許可ノ命令ハ執行行為ノ際總テノ關係人ニ示ス可キ義務アリ(第五百三條) 茲ニ所謂一般ノ祝祭日中ニハ夫ノ三大節大祭ハ勿論一地方ノ祭日ヲモ包含ス

以上説明シタル所ノ債權者ト執達吏トノ間ノ委任ニ基ク民法上ノ關係ニ於テハ執達吏カ其委任ノ趣旨ニ背キタル場合ニハ債權者ニ對シテ民法上ノ責任ヲ負フコト勿論ナリト雖モ公法上ノ關係ニ於テ執行當事者其他ノ關係人ニ對シ執達吏カ不適法ナル行為ノ爲メニ損害ヲ被ムラシメタルトキハ之カ賠償ノ責アリヤ否ヤ抑モ一般ノ官吏公吏カ其資格ニ於テ爲シタル公法上ノ行為ニ付キ賠償ノ責ヲ負フ可キヤ否ヤハ行政法上ノ一大問題ナリト雖モ執達吏ニ付テハ其危險甚タ大ナルヲ以テ法律ハ特ニ其不適法ナル行為ニ因リ損害ヲ生セシメタルトキハ債權者始メ其他責任ヲ負フ可キ者アルトキト雖モ先ツ第一位ニ於テ執達吏カ其責ニ任ス可キモノト規定セリ(第五百三條) 是レ蓋シ執達吏ハ如何ナル高價ノ財産ト雖モ取扱ハサル可カラサル重任ヲ有スルモノナルカ故ニ其危險ヲ保護スル爲メ斯クハ規定シタルモノナリ

第二款 執行裁判所

強制執行ハ前款ニ説明セシカ如ク此法律ニ於テ特ニ裁判所ノ執行行為ニ屬セシメサルモノハ總テ執達吏ノ職務ニ屬スト規定スレトモ法律上別段

ノ規定ヲ以テ裁判所ノ行爲ニ屬セシメタルモノモ亦一二ニ止マラス而シテ裁判所ニ屬スル行爲ニ付テハ裁判所ハ執行機關トシテ執行裁判所ナル名稱ノ下ニ其職務ヲ行フ可キモノトス此裁判所カ執行行爲ヲ爲スニ付テハ多クハ裁判ノ形式ヲ以テシ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ得ヘク其執行裁判所ノ執行行爲トシテ決定ヲ爲シタルトキハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(第五百四十三條第三項、第五百五十八條)而シテ此執行裁判所ニハ通常ノ執行裁判所ナルモノト特別ノ執行裁判所タル受訴裁判所ト別アリ

通常ノ執行裁判所

(第一) 通常ノ執行裁判所

此法律ニ於テ裁判所ニ任セラレタル執行行爲又ハ執行行爲ノ共力ハ特別ノ規定ナキ限りハ請求ノ多寡ニ拘ハラズ事物ノ管轄ニ付テハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬シ土地ノ管轄ニ付テハ各個ノ場合ニ於テ執行行爲ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ノ裁判所ノ管轄ニ屬シ不動産及ヒ船舶ニ付テハ其所在地又ハ船籍地ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(第四百四十三條、第四百六十八條)而シテ此等ノ管轄ハ總テ專屬ナリトス

(第五百六十三條)

執行裁判所ニ屬スル職務ニハ當然執行裁判所ノ職務ニ屬スル執行行爲ト執達吏ノ職務ニ屬スル執行行爲ノ共力トノ別アリ以下之ヲ區別シテ略述ス可シ

(一) 當然執行裁判所ノ職務ニ屬スル執行行爲

- (イ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル債權其他ノ財産權ニ對スル執行(第六編第三章第一節第三款)
- (ロ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中動産ニ對スル執行ノ一部タル配當手續(第六編第二章第一節第四款)此配當手續ノ如キハ敢テ裁判ノ形式ヲ以テ之ヲ實施スルニ非ラサレハ裁判所ニ任スルノ要ナキモノ、如シト雖モ此手續タル權利ノ優劣ト調和セサル配當額ノ當否等ヲ判斷シテ之ヲ爲サ、ルヲ得サルカ故ニ書記若クハ執達吏ニ一任セシメ難シトシテ執行裁判所ノ職務ニ屬セシメタルナリ
- (ハ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中不動産ニ對スル執行(第六編第二章第二節)
- (ニ) 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中船舶ニ對スル執行(第六編第三章第二節)

民事訴訟法正解 強制執行 總則 執行機關

(ホ) 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行中引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキノ執行(第七百三十二條)

(ヘ) 假差押及ヒ假處分ノ命令ノ執行ニシテ執達吏ノ職務ニ屬セサル執行(第七百四十條以下)

(二) 執行裁判所ニ任セラレタル執行行為ノ共力 此共力ヲ爲ス場合ハ元來執達吏ノ職務ニ屬スル執行ナレトモ全然執達吏ニ委シテ實行セシメ難キ事項ナルヲ以テ執行裁判所カ共力ヲ以テ之ヲ補助スルモノトス

(イ) 執達吏カ強制執行ヲ爲スニ際シ兵力ヲ要スル場合ノ援助ノ囑託(第五百三十六條第二項、第五百五十五條)

(ロ) 軍人軍屬ニ對スル強制執行ノ囑託(第五百五十六條)

(ハ) 執達吏カ夜間、日曜日及ヒ祝祭日ニ執行行為ヲ爲ス場合ノ許可ノ命令(第五百三十九條)

(ニ) 有價證券ヲ差押ヘタル執達吏ニ對シ氏名書換、流通回復ノ行為ヲ爲スノ權ヲ付與スル命令(第五百八十二條)

(ホ) 動産ヲ差押ヘタル執達吏ニ對シ特別競賣ノ許可ヲ爲ス命令(第五百八十五條)

(ヘ) 競賣ヲ懈怠シタル執達吏ニ對シ競賣催告ノ命令(第五百八十八條)

(ト) 執達吏カ不動産又ハ船舶ヲ引渡シ若クハ明渡ス可キ場合ニ於テ債務者カ自己ニ屬スル動産ノ受取ヲ怠リタルトキ之ヲ競賣ス可キ許可ノ命令(第七百三十一條)

(チ) 執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テノ裁判(第四百四十四條)

特別ノ執行裁判所

(第二) 特別ノ執行裁判所タル受訴裁判所

強制執行上裁判所ノ爲ス執行行為ニ付テハ通常執行裁判所トシテ區裁判所ノ任トナシタルコト前述ノ如シト雖モ特別ナル場合ニ於テハ其執行ノ基本タル裁判ヲ爲シタル受訴裁判所カ執行行為ヲ行フハ寧ロ便益且適當ナルヲ以テ同裁判所ヲ以テ執行裁判所トナシタリ此場合ニ於テモ亦自ラ執行ヲ爲ス可キ事項ト執行ノ共力ヲ與フルニ過キサルモノト別アリ

(一) 當然受訴裁判所ニ任セラレタル執行行為

(イ) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル權利ニ付テノ強制執行ニシテ債務者ノ行為不行爲ヲ求ムルモノニ係リ債務ノ性質カ強制履行ヲ許サ、ルモノ、執行又ハ之ヲ許スモノニ付キ賠償ニ依ル執行(第三百三十四條)ハ第一審ノ受訴裁判所之ヲ行フモノトス(民法施行法第五十四條)此執行ニ付テハ勿論一般ノ執行上ノ決定ト均シク口頭辯論ヲ經ルコトヲ要セスト雖モ其決定前ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊ス可キモノトス

(ロ) 受訴裁判所カ債權ノ假差押命令ヲ發シタルトキハ第一審ニ於テ之ヲ發シタルト控訴審ニ於テ發シタルトヲ問ハス其命令ヲ發シタル受訴裁判所ハ其命令ノ強制執行タル禁止命令ヲ爲ス可キモノトス(第三百三十九條、第七百五十五條第二項)

(二) 受訴裁判所ニ任セラレタル執行行為ノ共力 外國ニ於テ執行ヲ爲ス可キ場合ニシテ囑託ヲ爲ス可キトキハ其囑託ハ受訴裁判所其任ニ當ル可キモノトス(第五百五十七條)

第三款 強制執行上他ノ機關ノ共助

強制執行ハ常ニ必スシモ執行機關ノミヲ以テ實行セララル、ニ限ラス或場合ニ於テハ他ノ機關ノ共助ヲ要スルコトアリ

(一) 執達吏カ執行實施ノ際ニ於テ抵抗ヲ受ケタルトキハ警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得此援助ハ執達吏カ自ラ之ヲ求ムルコトヲ得(第三百五十六條第二項)

(二) 同上ノ場合ニ於テ兵力ヲ要スルトキハ執行裁判所ニ申出テ同裁判所ハ當該官廳ニ之カ援助ヲ求ムルコトヲ得(第五百三十六條)

(三) 常備現役ノ軍人軍屬ニ對シ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ヨリ管轄軍事裁判所又ハ所屬長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得(第五百五十五條)而シテ當該官廳ハ其囑託ニ因リ差押ヘタル物件ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ交付ス可キモノトス(第五百五十六條)

(四) 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國ノ官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキ又ハ本邦領事ニ依リテ執行ヲ爲ス可

キ場合ニハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ外國官廳又ハ外國駐在ノ本邦領事ニ其執行ヲ囑託ス可キモノナリ而シテ如何ナル場合ニ外國ニ於テ強制執行ヲ爲シ得ヘキヤ及ヒ如何ナル場合ニ外國裁判所カ法律上ノ共助ヲ爲ス可キヤハ國際條約ニ依リテ定マルモノトス(第五十七條)

第五節 強制執行上ノ當事者

強制執行上ノ當事者ナルモノハ敢テ訴訟上ノ原告被告ナルモノト同一ノ意義ヲ有スルモノニ非ラス故ニ先ツ其意義ヲ明カニシ次ニ其變動ヲ説明ス可シ

強制執行上ノ當事者ノ意義

(第一) 強制執行上ノ當事者ノ意義
強制執行上ノ當事者トハ執行ノ基本タル債務名義ニ依リ執行ヲ求ムル權利アル者ト之ヲ受クル地位ニアル者トヲ謂フ前者ハ之ヲ債權者ト稱シ後者ハ之ヲ債務者ト稱ス故ニ訴訟上ノ原告タリシ者ハ必スシモ債權者タルニ非ラス時トシテハ被告ト雖モ債權者ノ地位ニ立ツコトアリ(例)

ハ反訴ノ場又其債權者ト稱スルハ民法上物權ニ對シテ用キラレタル債權ニ於ケル權利者ヲ謂フモノニ非ラス物權ニ基クモノト雖モ執行ヲ求メ得ヘキ權利者ノ地位ニ立ツ者ハ強制執行上廣ク之ヲ債權者ト稱ス故ニ茲ニ所謂債權者債務者トハ廣義ニ執行權利者及ヒ執行義務者ト解釋セサル可カラス而シテ其何人カ債權者タリ又ハ債務者タルヤハ執行名義即チ債務名義ニ於テ權利ヲ有スルヤ將タ義務ヲ負フヤヲ標準トシテ區別ス可キモノトス

當事者ノ變動

(第二) 強制執行上ノ當事者ノ變動

凡ソ權利ナルモノハ縱令係争中ト雖モ又ハ判決ニ依リ確定シタル後ト雖モ一身ニ專屬スルモノニ非ラサル以上ハ承繼ニ依リ移轉シ得ヘキコトハ疑ヲ容レズ其債務モ亦一般ノ承繼ニ依リ之ヲ移轉スルヲ常トス故ニ若シ訴訟中判決ノ言渡ナキ間ハ勿論其言渡後ト雖モ確定前ニ當事者ノ死亡其他ノ原因ニ因リテ承繼アルトキハ訴訟手續ヲ中斷シ其受繼ノ手續ニ依リ其訴訟ヲ承繼ス可ク(第七十八條、第八十六條)又其判決確定後強制執行開始前ニ承繼アリタルトキハ既ニ執行力アル正本ヲ付與シタル

民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行上ノ當事者

後ナルト否トヲ問ハス其承繼人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ執行文ノ付與ヲ受クルニ非ラサレハ執行ヲ爲シ得サルコトハ前ニ述ヘタル所ナリ(第五百九條、第五百二十條)然レトモ此等ハ皆執行開始以前ニ係ルカ故ニ茲ニ所謂執行中ノ執行當事者ノ變動トシテ論スルノ要ナキナリ而シテ今執行當事者ノ變動トシテ説明セントスル所ノモノハ執行開始後ニ當事者カ死亡シ若クハ其地位ヲ變更シタル場合ヲ謂フ抑モ強制執行ハ執行シ得ヘキ債務名義又ハ其執行文ニ表示セラレタル債權者ノ爲メ之ニ表示セラレタル債務者ニ對シテ爲スヲ本則トス(第五百七條)故ニ其當事者ノ一方又ハ雙方カ死亡シ又ハ地位ヲ變更シタルトキハ更ニ執行文ノ付與ヲ求メサルヲ得サルモノ、如シト雖モ法律ハ便宜上變例トシテ執行ノ開始後ニ債務者死亡シ又ハ其戸主タル地位ヲ變更スルコトアルモ尙ホ其執行ヲ進行ス可キモノトセリ而シテ其進行ニ付テハ死亡ノ場合ト戸主タル地位ヲ辭シタル場合トニ依リ區別アルヲ見ル即チ左ノ如シ

(一) 債務者カ執行開始後死亡シタルトキ 此場合ニ於テハ既ニ其承繼人ノ定マリタルト否トヲ問ハス更ニ承繼人ニ對スル執行文ノ付與ヲ

受ケ又ハ債務名義ノ送達ヲ爲スノ要ナク其遺産ニ對シ執行ヲ續行ス可キモノトス然レトモ若シ其執行ニ關シテ債務者ニ之ヲ知ラシムルヲ要スル執行行為(第五百六十六條第三項、第五百九十一條第一項、第五百九十一條)ヲ爲ス可キ場合ニ於テ相續人アラサルカ又ハ之アルモ其所在不分明ナルトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可キモノトス此特別代理人ハ民事訴訟法第四十六條、第四十七條ノ規定ニ依ル者ト同一ニシテ何人ニ之ヲ命ス可キカハ裁判所ノ意見ニ任スルモノナリ(第五百五條)

(二) 戸主タル債務者カ執行開始後其地位ヲ辭シ又ハ其地位ヲ失ヒタルトキ 民法ノ規定ニ依レハ相續ハ死亡ノ外隱居、入夫婚姻等(民法第九條第七百五十條)ニ因リテ開始スルカ故ニ債務者カ戸主タル地位ニ於テ負擔セシ債務ニシテ其地位ヲ辭シ又ハ之ヲ失ヒタルカ爲メ相續ニ依リ承繼ス可キモノハ其變更ニ因リ前債務者ノ債務ハ新戸主ニ移轉ス可キモノトス然レトモ執行開始後ニ其變更アリタルトキハ更ニ承繼人ニ對スル執行文ノ付與ヲ受クルコトヲ要セス其執行ヲ進行スルコ

トヲ得ヘシ又斯ル身分上ノ變更アルモ戸主タル地位ト共ニ移轉セサル債務ニ付テハ勿論承繼アル可キモノニ非ラサルヲ以テ其儘執行ヲ進行ス可キコト言フ俟タス

又民法ノ規定ニ依リ隱居若クハ入夫婚姻ニ依ル相續ニ付テハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテモ請求ヲ爲スノ權アレハ(民法第九百八十八條參看)前段ト同シク承繼人ニ對シテ執行スルノ外ニ前ノ債務名義ニ基キ前戸主ニ對シテモ併セテ執行スルコトヲ得ヘシ蓋シ民法ハ隱居又ハ入夫婚姻ノ場合ニ於テハ全部ノ財産ヲ當然相續セシメス法定ノ方式ニ依リ前戸主ハ其財産ヲ留保スルコトヲ得ルカ故ニ其留保シタル財産ニ對シテモ請求スルコトヲ得ルナリ

以上説明シタル所ハ債務者ノ死亡又ハ戸主タル身分ノ變更シタル場合ナリ然レトモ債權者カ死亡シ又ハ戸主タル地位ニ變更ヲ來シタルカ爲メ承繼アリタル場合ニ付テハ法律上何等ノ規定ナキヲ以テ一般ノ通則ニ從ヒ更ニ執行文ノ付與ヲ受クルニ非ラサレハ執行ヲ繼續スルヲ得サルモノト云ハサルヲ得ス

第六節 強制執行ノ進行及ヒ其遮斷

強制執行ノ進行ハ各種ノ執行ニ依リ同一ナラスト雖モ一般ニ通シテ適用ス可キ法則ヲ左ニ説述ス可シ

(第一) 執行ノ進行

強制執行ハ執行裁判所ノ行爲ニ屬スルト執達吏ノ行爲ニ屬スルトヲ問ハス債權者カ執行力アル正本ニ基キ執行着手ノ要件ヲ具ヘテ執行機關ニ強制執行ノ申立ヲ爲シ執行機關カ之ニ基キ執行ニ着手スルニ因リテ始マルモノナリ而シテ其執行開始後ハ執行機關ハ法律ノ規定ニ從ヒテ其執行ヲ進行ス可ク當事者カ合意ノ申出ヲ爲シタルトキハ格別然ラサルニ於テハ縱令債務者カ異議ノ訴ヲ起シ又ハ第三者カ異議ノ訴ヲ提起スルモ之カ爲メ執行ノ進行ヲ停止セサルヲ本則トス(第五百四十七條第一項)然レトモ強制執行ハ債權者ノ申出ニ因リテ之ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ其債權者ノ申出ニ因リテ執行ヲ停止スルコトハ固ヨリ妨ケナキ所ナリ又執行中債務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ獨立シテ強制

執行ノ停止及
ヒ制限

執行ヲ爲シ得サルカ故ニ(舊商法第九百八十七條參看)其執行ノ目的タル財産ハ破産財團ニ編入セラレ債權者ハ破産債權者トシテ其配當ヲ請求シ得ヘキニ止マリ其執行ハ全然終了ス可キモノトス

(第二) 強制執行ノ停止及ヒ制限

強制執行ハ債權者ノ申出アルカ又ハ破産宣告アル場合ノ外ハ其進行ヲ遮斷セサルヲ本則トスト雖モ債務者又ハ第三者カ次ニ說示スルカ如キ書面ヲ提出シタルトキハ執行機關ハ其強制執行ヲ停止若クハ制限スルノ義務アリ而シテ所謂停止トハ執行ノ全部ヲ停止スルヲ謂ヒ制限トハ其一部分ヲ停止スルヲ謂フ又其停止ニハ一時停止スルニ過キササルモノアリ終局的ニ停止スルモノアリ

(一) 執行ス可キ判決若クハ假執行ヲ取消ス可キ旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ終局的ニ停止ス可キモノトス(第五百五十一條第一號)而シテ本號ノ各種ノ裁判ヲ細別スレハ左ノ如シ

(甲) 執行ス可キ判決ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判 執行ス可キ判決

トハ確定判決若クハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ナリ確定判決ヲ取消ス裁判ハ再審ノ場合ニ生スルモノニシテ(第四百六十條以下)假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ノ取消サルハ故障又ハ上訴審ニ於ケル判決ヨリ生ス

(乙) 假執行ノ宣言ヲ取消ス旨ヲ記載シタル裁判 是レ本案ニ付テハ前判決ヲ廢棄セス故障又ハ上訴ノ結果單ニ假執行ノ宣言ノミヲ取消シタル場合ニシテ上訴審ニ於テ先ツ假執行ノ點ノミニ付キ其當否ヲ裁判スル場合ニ生スルモノトス(第五百一十條第一項 第五百一十一條第一項 第五百一十二條第一項)

(丙) 強制執行ヲ許サスト宣言シ若クハ強制執行ノ停止ヲ命スル旨ヲ記載シタル裁判 強制執行ノ異議ニ付テノ裁判ハ其執行ヲ許サスト宣言シ若クハ其執行ヲ停止スル旨ヲ宣言ス可キモノナレハ此種ニ屬スル裁判ハ各種ノ強制執行ニ關スル異議ノ申立又ハ異議ノ訴ノ場合ニ生ス可キモノナリ(第五百二十二條第一項 第五百二十四條 第五百二十五條 第五百四十九條 第五百五十四條)以上ノ裁判アルトキハ執行機關ニ向ヒテ執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シテ其執行ヲ停止ス可キコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ茲ニ所謂執行

力アル裁判ノ正本トハ敢テ執行文ヲ付與シタル正本タルヲ要セス執行シ得ヘキ裁判タルヲ以テ足レリトス蓋シ是レ唯執行シタル行為ヲ遮斷スルノ證據トナスニ過キスシテ執行ヲ爲サントスルノ裁判ニ非ラサルカ故ナリ

(二) 執行又ハ執行處分ノ一時停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキハ執行ヲ一時停止ス可キモノトス此停止ハ單一
一時ノモノニ過キスシテ終局的ニ停止ス可キモノニ非ラス(第五百五
號)而シテ此執行又ハ執行處分ノ一時停止ヲ命スル裁判ヲ爲ス場合ハ
左ノ如シ

(甲) 確定判決ニ對シ再審ヲ求ムル訴アリテ其確定判決ニ基キテ爲ス
強制執行ノ停止申請アリタルトキ(第五
百條五)

(乙) 假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ故障若クハ上訴ヲ爲シ其假
執行ニ基キ爲ス強制執行ノ停止ノ申請アリタルトキ(第五
百條十二條)

(丙) 執行文ノ付與ニ對スル異議ノ申立ヲ爲シ其執行文ニ依ル強制執
行ノ停止申請ヲ爲シタルトキ(第五
百條二)

(丁) 執行ニ關スル形式上ノ異議ノ申立ヲ爲シ強制執行停止ノ申請ヲ
爲シタルトキ(第五
百條四)

(戊) 執行ニ付キ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シ強制執行停止ノ申請
ヲ爲シタルトキ(第五
百條四)

(己) 執行ニ付キ第三者カ異議ノ訴ヲ爲シ強制執行停止ノ申請ヲ爲シ
タルトキ(第五
百條四)

此等ノ場合ニ於テハ前號ニ説明シタル所ト異ナリ裁判ノ正本ヲ以テ
足レリトシ執行力アル裁判ノ正本タルコトヲ必要トセス蓋シ此裁判
ハ判決ニ非ラス決定若シハ命令ニシテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル
裁判(第五百條第三項)又ハ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得
ヘキ裁判ニシテ執行停止ノ特定ナキ(第四百六
條)カ故ニ裁判ノ正本ノミ
ヲ以テ足レリトスルニ在リ

(三) 執行ヲ免カル、爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタ
ル公正ノ證明書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ終局的ニ停止ス可キ
モノトス(第五
百條三號)

是レ即チ保證ヲ立テ、執行ヲ免カル、コトヲ得ヘキ條件附ノ假執行
 宣言アリタル場合ニ於テ其執行中債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲
 シタル場合ヲ謂フ(第五百五條第二項)而シテ茲ニ所謂證明書ナルモノハ裁判所
 書記ノ證明書(第五百十三條第二項)又ハ供託法ニ依ル供託證書ヲ指ス
 (四) 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ク又ハ義務履行ノ猶豫ヲ
 承諾シタル旨ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ一時
 停止ス可キモノトス(第四百五十條第四號)
 債權者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ更ニ執行ヲ爲スノ必要ナキヲ以テ之
 カ證明書ヲ提出シタルトキハ其執行ヲ停止ス可キハ疑ヲ容レス既ニ
 其辨濟アレハ管ニ一時ノ停止ニ止マラス終局的ニ停止ス可キモノ、
 加クナレトモ執行機關カ唯一片ノ證明書ノミニ依リ全然執行ヲ解ク
 ハ誤ナキヲ保シ難シ是ヲ以テ法律ハ單ニ一時ノ停止ニ止メ債權者ノ
 申出ヲ待テ全然其執行ヲ解ク可キモノトナシタルモノナリ而シテ若
 シ債權者カ其執行ヲ解カサルニ於テハ債務者ハ辨濟ヲ原因トシテ執
 行ニ對シ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ起シ終局的ノ停止ヲ求ムルコトヲ

得ヘキモノトス
 又履行ノ猶豫ニ付テハ其期間内ノミ執行ヲ停止シ無期ノ猶豫ナルト
 キハ更ニ債權者ヨリ執行進行ノ申出アルマテ之ヲ停止ス可キモノト
 ス
 此等ノ辨濟若クハ猶豫ノ證明書ハ共ニ私署證書ヲ以テ足レリトス
 (第三) 強制執行ノ停止及ヒ制限ノ效果
 前段ニ述ヘタル強制執行ノ停止若クハ制限ニハ一時的ノモノト終局的
 ニ出ツルモノトアルカ故ニ之ニ依リ其停止及ヒ制限ノ限度ヲ異ニスル
 モノアリ(第五百五條第十一條)
 (一) 前段一號、三號ノ場合ニ於テハ終局的ニ執行ヲ停止スルカ故ニ爾後
 ノ執行行為ヲ止ム可キハ勿論既ニ爲シタル執行處分マテヲモ總テ之
 ヲ取消サ、ル可カラス例ヘハ目的物ヲ差押へ保管シ若クハ供託シタ
 ルトキハ其差押、保管及ヒ供託等ノ行為ヲモ總テ取消シ舊ニ回復セシ
 メサル可カラス
 (二) 前段四號ニ說明セシ場合ニ於テハ一時ノ執行停止ナルカ故ニ爾後

ノ執行行為ノミヲ止メ債權者ヨリ申出アルマテハ既ニ爲シタル執行處分ハ其儘保持ス可キモノトス

(三) 前段二號ニ説明セシ場合ニ於テモ一時ノ停止ナルカ故ニ爾後ノ執行行為ヲ止メ其訴訟ノ結果ニ依ル裁判アルマテハ既ニ爲シタル執行處分ハ其儘ニ保持ス可キモノトス尤モ此場合ニハ裁判所ノ執行停止命令ニ特別ノ裁判アルトキハ之ニ從ヒ既ニ爲シタル執行處分マテモ取消ス可キコトアル可シ

第七節 強制執行ノ費用

強制執行ノ費用ハ夫ノ訴訟費用トハ全ク分別セラレ其取立ノ方法ヲモ異ニスルモノニシテ其費用ハ強制執行準備ノ爲メ及ヒ其實施ニ要セシ必要ナル費用ヲ指ス之ニ包含スルモノハ即チ執行力アル正本ヲ求ムル費用、執達吏ノ手数料、立替金債權者ノ旅費、日當其他執行上ノ保管ノ費用等ニシテ殊ニ其必要ナリシモノ、ミニ限ラル(執達吏手数料規則民事訴訟費用法第六十條參看)此費用ハ債務名義ノ何タルヲ問ハス總テ債務者ノ負擔ニ歸セシメ之ニ

強制執行ノ費用

付テハ別ニ債務名義ヲ要セス又費用額確定決定ヲ要セス本案ノ債務名義ニ基キ執行ト同時ニ之ヲ取立ツルコトヲ得ヘキモノナリ(第五百七條)而シテ其費用カ果シテ必要ナルモノナリヤ否ヤニ付テ爭ヲ生シタルトキハ執行裁判所ノ裁判ヲ受ケサル可カラス
其執行ノ基本タル債務名義カ假執行ノ宣言ヲ付シタルモノニ係リ後日故障若クハ上訴ニ依リ取消サレタルトキ又ハ其債務名義カ確定判決ニシテ再審ノ訴ニ依リ取消サレタルトキハ債務者ハ既ニ取立テラレタル執行費用ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五百五條)

第八節 強制執行ニ關スル異議

強制執行ニ付テハ當事者又ハ第三者ヨリ其實行ニ對シ異議ヲ主張スルコトアリ此異議ニハ一般ノ執行ニ通シテ適用ス可キモノ四種アリ(イ)執行文付與ニ關スル異議(ロ)執行實施ニ關スル異議(ハ)確定シタル請求ニ關スル異議及ヒ(ニ)第三者ノ異議是ナリ又此四種中ニハ形式上ノ異議ト實體上ノ異議トノ別アルヲ見ル即チ執行文付與ニ關スル異議中申立ヲ以テス可キモ

強制執行ニ關スル異議ノ種類

ノ及ヒ執行實施ニ關スル異議ノ如キハ形式上ノ異議ニシテ其他ハ實體上ノ異議タルナリ

形式上ノ異議ハ裁判所書記、公證人又ハ執行機關ノ職務ニ對シ不當ヲ唱フルモノニシテ抗告ト同様ノ性質ヲ有シ其不服ハ申請ノ形式ヲ以テ之ヲ申立ツ可キモノトス又實體上ノ異議ハ相手方ニ對シ權利ノ主張ヲ爲スモノニシテ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノナリ
以上一般ニ通シテ適用ス可キ異議ノ外ニ特種ノ執行ニ付テノミ爲ス可キモノアリ即チ配當表ニ對スル異議競落許否ニ對スル異議強制管理ノ計算ニ對スル異議等ノ如キ類是ナリ此等ハ各種ノ執行ニ付キ説明スル場合ニ讓リ茲ニハ一般ノ執行ニ通ス可キ四種ノ異議ニ付キ欸ヲ分チテ説明ス可シ

第一款 執行文付與ニ關スル異議

執行文付與ニ關スル異議ハ既ニ執行文ヲ付與セラレタル後之ニ對シテ債務者ヨリ異議ヲ主張スルモノナリ而シテ執行文付與ノ申請ヲ却下セラレタル裁判ニ對スル債權者ヨリ不服ヲ主張セントスルトキハ抗告ノ方法ニ

執行文付與ニ關スル異議ノ申立

依ル可キモノニシテ(第四百五十五條、第四百六十四條、第五百五十八條、明治十九年司法省令第三號登記法公證人規則ニ對スル抗告手續)此異議ヲ爲ス可キモノニ非ラス執行文付與ニ關スル異議ニハ形式上ノ原因ヲ主張シ申立ニ因リ之ヲ爲ス可キモノト實體上ノ爭ヲ生シ訴ヲ以テ之ヲ主張ス可キモノト別アリ

(第一) 執行文付與ニ關スル異議ノ申立

此異議ハ裁判所書記若クハ公證人カ不適式ナル執行文ヲ付與シタル場合ニ不服ヲ主張スル方法ナリ

(一) 此異議ノ原因ハ裁判所書記又ハ公證人カ債務名義タル可キモノニ非ラサルモノニ執行文ヲ付與シタルトキ例ハ確定セサル判決ニ對シ執行文ヲ付與シタルカ如キ又ハ裁判官ノ命令ヲ受ケテ之ヲ付與ス可キモノナルニ專斷ニテ執行文ヲ付與シタルトキ若クハ其執行文ノ方式ニ欠缺アルトキ又ハ其執行文記載ノ趣旨ニ不當ナル點アルカ如キ場合是ナリ斯ル場合ニハ此申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

(二) 債務者カ此申立ヲ爲スニ付テハ法律上其時期ヲ制限セサルカ故ニ執行文付與ノ後ハ執行着手前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

(三) 此申立ニ付テノ管轄裁判所ハ裁判所書記カ執行文ヲ付與シタルト
キト公證人カ之ヲ付與ス可キトキトニ因リ同一ナラス

(イ) 裁判所書記カ付與シタル執行文ニ對スル異議ノ申立ハ其書記ノ
屬スル裁判所ニ之ヲ爲ス可キモノトス而シテ此管轄ハ執行文付與
カ書記ノ專行シタル場合ナルト裁判長ノ命令ニ因リテ付與シタル
場合ナルトヲ問ハサルナリ(第五百二條)

(ロ) 公證人ノ付與シタル執行文ニ對スル異議ノ申立ハ公證人カ職務
上ノ住所ヲ有スル地ノ區裁判所ニ之ヲ爲ス可キモノトス(第五百六
條)
此等ノ異議ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經ルヲ要セス決定ヲ以テ爲ス
可キモノトス

(四) 此異議ノ申立アルモ其執行文ニ基キ既ニ着手シタル強制執行ノ進
行ヲ停止セス然レトモ裁判長ハ其裁判前ニ假ノ處分トシテ保證ヲ立
テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ
立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キ命令ヲ爲スコトヲ得(第五百二十
條第二項)
(第二) 執行文付與ニ關スル異議ノ訴

關スル異議ノ
訴

此異議モ亦執行文付與ノ後ニ於テ債務者ヨリ主張ス可キモノナレトモ
是レ執行カ條件ニ繋ル場合又ハ承繼アル場合ニ於テ執行文ノ付與アリ
タルトキニノミ爲ス可キ實體上ノ異議ナリ

(一) 此異議ハ次ノ場合ニ生スルモノトス即チ強制執行カ條件ノ到來ニ
繋ル場合又ハ執行當事者ニ承繼アル場合ニ於テハ裁判所書記又ハ公
證人ハ債務者ヨリ證明書ヲ以テ條件ノ到來又ハ承繼ノ事實ヲ證明シ
タルトキニ限り執行文ヲ付與ス可キモノナリ(第五百十八條) 然レトモ
第五百十九條
債務者カ其證明セラレタル條件ノ到來ヲ爭ヒ又ハ承繼ノ事實ヲ爭ヒ
實體上債權者カ執行ス可キ權利ナキコトヲ主張スルトキハ請求ニ關
スル異議ト等シク債務者ニ對シ訴ヲ提起シテ執行文付與ノ不當ヲ主
張スルコトヲ得ヘシ

此異議ノ訴ヲ爲シ得ルカ爲メニ前ニ説明シタル形式上ノ異議ノ原因
アルニ於テハ之カ申立ヲ爲スコトヲ妨ケラル、モノニ非ラス(第四百
六條)

(二) 此訴ノ管轄裁判所ハ債務名義ノ種類ニ依リ同一ナラス然レトモ其
民事訴訟法正解 強制執行 總則 強制執行ニ關スル異議 一一一

管轄ハ請求ニ關スル異議ノ訴ト全然同一ナルカ故ニ後ニ請求ニ關スル異議ノ訴ニ付テノ説明ヲ爲ストキ併セテ詳論ス可シ

(三) 此異議ノ訴ハ強制執行ニ相關聯シ特定ノ目的タル訴ノ爲メ特別ナル裁判管轄ヲ定ムト雖モ其訴訟ハ特別訴訟ニ非ラス故ニ此訴ヲ起スニ付テモ普通ノ訴ト同一ノ手續ニ從ヒ又其口頭辯論モ一般ノ手續ニ依リ判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲ス可キモノトス

(四) 此異議ノ訴アリタルトキモ亦當然執行ヲ停止ス可キモノニ非ラサルコトハ他ノ異議ノ場合ト同一ナリ然レトモ裁判所ハ申立ニ因リ執行停止ノ命令ヲ爲スコトアル可シ而シテ此事項ニ付テモ請求ニ關スル異議ノ場合ト同一ナルカ故ニ其説明ノ下ニ讓ル可シ(第五百四條 第十七條)

第二款 強制執行實施ニ關スル異議

強制執行實施ニ關スル異議ハ執行ノ方法ニ對シ不服ヲ申立テ其不適式ナル執行ノ除却ヲ目的トスルニ在リ而シテ此異議ハ總テ形式上ノ異議ニシテ其申立ハ申請ノ形式ヲ以テ爲ス可キモノトス(第五百四條 第十四條)
(一) 強制執行ノ方式又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關シ意見

アリ又ハ不服アル者ハ之ニ對シ申立ヲ爲シ若クハ異議ヲ主張スルコトヲ得

此執行實施ニ關スル異議ハ主トシテ執達吏ノ執行行為ニ對シテ生ス可キモノナリ執行裁判所ノ執行行為ハ多クハ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ之ヲ爲スカ故ニ其執行行為ニシテ形式上ノ不當アレハ抗告ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立ツ可キモノナレハ常ニ異議ヲ主張スル場合ナシ然レトモ裁判ノ形式ヲ以テ爲サルモノハ裁判所ノ執行行為ニ付テノ異議ヲ主張シ得ヘキモノト云ハサルヲ得ス要スルニ茲ニ説明スル所ノモノハ執達吏ノ執行行為ニ對スルヲ常トス

此執行實施ノ申立若クハ異議ヲ主張スル場合ハ甚タ多シト雖モ今其二三ノ例ヲ摘示スレハ執達吏カ競賣ヲ懈怠スルニ因リ債權者ヨリ爲ス催告ノ申立(第五百八條)又ハ執行力アル正本ノ趣旨ニ反シテ執行シ差押フ可カラサルモノヲ差押ヘ其他執行ノ規定ニ背馳シタル行為ニ對シ債務者ヨリ其不當ヲ主張スルカ如キ(第五百二十九條 第五十八條 第五十三條 第五百六十四條 第五百七十四條 第五百七十九條 第六百十條)又ハ執達吏カ第三者ノ占有中ニアリテ提出ヲ拒ミタル物ヲ差押

ヘタルカ爲メ第三者ヨリ異議ヲ主張スルカ如キ場合はナリ(第五百六條)
 (二) 此異議ノ申立ハ其執行實施ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ債務者ハ勿論債權者又ハ第三者モ之ヲ主張スルコトヲ得第三者ニシテ實體上ノ第三者ノ異議ノ訴ヲ爲シ得ヘキ場合ト雖モ此形式上ノ異議ヲ主張スルヲ妨ケス

(三) 此申立ヲ爲ス時期ニ付テハ法律上何等ノ規定ナシト雖モ其目的ハ不適式ナル執行ヲ除却セントスルニ在ルカ故ニ執行開始後其完結ニ至ルマテノ時間ニ於テ之ヲ爲ス可ク若シ此申立ヲ爲サスシテ執行ヲ完結シタル後ハ債權者若クハ執達吏ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトアル可キモ執行ニ關スル異議トシテハ之ヲ主張スルコトヲ得ス

(四) 此異議ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬シ其裁判ハ口頭辯論ヲ經ルヲ要セス決定ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス

(五) 此異議モ亦執行ヲ停止ス可キモノニ非ラス然レトモ執行裁判所ハ執行文付與ノ異議ノ場合ニ於テ裁判長カ爲スト同一ニ假ノ處分トシテ一時執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

執行實施ニ關スル異議ト其趣ヲ異ニスレトモ執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミ又ハ執達吏カ計算セシ手数料等ニ付キ異議ヲ主張スル者モ亦此手續ニ準シ執行裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得而シテ其如何ナル場合ニ執達吏カ委任ヲ拒ミ得可キモノナリヤハ裁判所構成法及ヒ執達吏規則等ニ付テ研究ス可キモノナリ(裁判所構成法第九十七條 執達吏規則第八條參看)

第三款 債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議

此請求ニ關スル債務者ノ異議ハ債務名義ニ依リ確定シタル請求ニ對シ其債務名義成立以外ノ事由ニ因リ實體上其執行ヲ受ク可カラサルモノナルトキ其執行ヲ除却スル爲メ債務者ヨリ債權者ニ對シ訴ヲ以テ異議ヲ主張スルモノナリ(第五百四條)

(二) 此異議ノ原因ハ判決後ニ債務ノ辨濟ヲ爲シ又ハ相殺拋棄和解延期ノ承諾アル場合等ニシテ此原因ハ専ラ民法上ニ於テ決ス可キ問題ナリ然レトモ此原因ニ因リ異議ヲ主張スルニハ一ノ制限アリテ其制限ハ債務

名義ノ種類ニ因リテ同一ナラス

(イ) 判決ニ依リ確定シタル請求ニ付テハ其原因カ遅クトモ異議ヲ主張シ得ヘカリシ口頭辯論ノ終結後ニ生シ且故障ヲ以テ其原因ヲ主張スルコトヲ得サリシトキニ限ル是レ本款ノ異議ハ訴訟中ニ主張スルコトヲ得ヘキ防禦方法ヲ再ヒ提出スルヲ許スモノニ非ラスシテ債務名義ノ成立後其以外ノ原因ニ出ツルトモ之ヲ許ス可キモノナルカ故ナリ而シテ茲ニ所謂異議ヲ主張シ得ヘキ口頭辯論ノ終結トハ第二百九條ノ規定ニ於ケル判決ニ接着スル口頭辯論ノ終リヲ意味ス故ニ其債務名義タル判決ノ言渡ニ接着シタル辯論後ニ原因ノ發生シタルモノナラサル可カラス

若シ判決カ闕席判決タル場合ニハ故障申立ヲ許サ、ルトキニ限ル故ニ判決後辯論ヲ爲シタルニ尙ホ執行ヲ爲ストキハ故障ヲ爲シ得ヘキ期間内ナルトキハ故障ノ方法ニ依リ之ヲ主張ス可ク直チニ此異議ノ訴ヲ爲スヲ得ス

對席判決ニ在リテハ縱令上訴期間内ニアルモ上訴ヲ以テ之ニ對抗セ

スシテ此執行ニ關スル異議ノ訴ヲ爲スヲ妨クサルナリ

(ロ) 執行命令ニ依リ確定シタル請求ニ付テハ其命令ノ送達後ニ原因ノ生シタルコトヲ要ス(第二百五十六條第一項第三項)

(ハ) 公正證書ニ依リ確定シタル請求ニ付テハ右ノ如キ制限ナキカ故ニ其證書成立ノ原因ニ付テモ亦如何ナル時期ニ於テ生シタルヲ問ハス此訴ヲ爲スコトヲ得

總テ此等ノ異議ノ原因數個アルトキハ同時ニ之ヲ併セテ主張スルコトヲ要ス

(二) 此異議ノ訴ヲ爲ス時期ハ其訴ノ性質上執行ヲ除却セシムルヲ目的トナスモノナレハ強制執行ノ開始ヨリ其完結ニ至ルマテノ時期ニ限リ之ヲ許ス可キモノナリ然レトモ此時期ニ訴ヲ起サ、ルカ爲メ債務者ニ於テ其權利ヲ絶對ニ失フ可キ限リニ非ラス後日損害賠償又ハ不當利得返還ノ請求ヲ爲スヲ妨クサルモ異議ノ訴トシテハ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ損害賠償等ノ請求ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ民法ニ依リテ決ス可キモノナリ

(三) 此異議ノ訴ノ管轄裁判所モ亦其債務名義ノ種類ノ異ナルニ依リテ同一ナラス左ニ之ヲ區別シテ説明ス可シ

(イ) 判決及ヒ其規定ヲ準用スル債務名義ニ付テノ訴ハ第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬ス(第五百四十一項)

(ロ) 執行命令タル債務名義ニ付テノ訴ハ其命令ヲ發シタル區裁判所若クハ其價額カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス(第五百六十項)

(ハ) 公證人ノ作リタル證書ニ付テノ訴ハ債務者ノ普通裁判籍アル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ其普通裁判籍ナキトキハ第七條ノ規定ニ從フ(第五百六十項)
以上ノ管轄ハ執行文付與ニ付テノ異議ノ訴ニモ之ヲ適用ス可キモノトス

(四) 此異議ノ訴ハ執行ニ相牽聯シ特別ノ裁判管轄ヲ定ムルモ其訴訟手續ハ通常ノ訴訟ニ屬シ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲ス可キモノトス

(五) 此等ノ異議ノ訴ノ提起アルモ其開始シタル執行ヲ當然停止ス可キモノニ非ラス

然レトモ受訴裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ異議カ法律上理由アリト見ヘ且其事實ニ付テモ説明アリタルトキハ其異議ニ付テノ判決ヲ爲スニ至ルマテ執行ノ停止ヲ命シ又ハ債權者ニ保證ヲ立ツルノ條件ヲ以テ執行ノ續行ヲ許ス命令ヲ爲スコトヲ得

其停止ノ命令ハ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ執行ヲ停止シ又ハ必ス保證ヲ供託セシメ其既ニ爲シタル執行處分マテヲモ取消ス可キ命令ヲ爲スコトヲ得ヘシ此等ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

斯ル處分ハ急迫ナル場合ニ限り裁判長モ亦之ヲ爲スコトヲ得
又執行裁判所モ此等ノ權利ヲ行フコトヲ得ヘシ然レトモ執行裁判所カ斯ル命令ヲ爲ストキハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムルカ爲メ相當ノ期間ヲ定メ其期間内效力ヲ有スルニ過キス若シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ其停止ノ命令ハ效力ヲ失フ可キモノニシテ從

テ執行ヲ續行スルコトヲ得ヘシ(第五百四十七條)
 右ノ如キ執行停止ノ命令條件附執行續行ノ命令ヲ爲シタル後受訴裁判所ニ於テ異議ノ訴ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ其命令ノ取消變更若クハ認可ヲ宣言スルトキハ此宣言ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キモノトス(第五百四十八條)
 前陳ノ執行停止及ヒ其取消變更若クハ認可ニ付テノ規定ハ前ニ論述シタル執行文付與ニ付テノ異議ノ訴及ヒ次ニ說述セントスル第三者ノ異議ノ訴ニモ之ヲ準用ス可キモノトス但第三者ノ異議ノ訴ニ於テ少シク差異アル所ハ保證ヲ立テシメスシテ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲモ命スルコトヲ得ルニ在リ(第五百四十九條第一項)

第四款 第三者ノ異議

抑モ判決ノ效力ハ當事者間ニ於テノミ其效力ヲ有ス可キモノニシテ強制執行ハ其基本タル債務名義ニ表示シタル債務者ニ對シテノミ之ヲ行フコトヲ得ヘキモノナリ然レトモ時トシテハ債務者ノ故意ニ出テ若クハ執行機關カ事實ヲ誤リ債務者ノ占有ニ係ルカ爲メ第三者ノ所有ノ財産ヲ債務

者ノ財産ト認メテ之ヲ差押ヘ又ハ第三者カ物權ヲ有スル財産ニ對シテ強制執行ヲ爲スコトアリ斯ル場合ニ於テ第三者カ其強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張セン

ト欲スルトキハ其執行ニ對シテ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ
 此異議ハ固ヨリ實體上ノ原因ニ基ツクモノナレハ實體上ノ異議ノ一種ニシテ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ主張ス可キモノナリ而シテ此第三者ノ異議ノ訴ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ場合ハ勿論金錢以外ノ債權ニ付テノ強制執行即チ動産、不動産ノ引渡若クハ明渡ヲ目的トスル強制執行ニ對シテモ亦之ヲ主張スルコトヲ得(第五百四十九條)

(二) 第三者ノ異議ノ原因ハ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他執行ノ目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ニ基クコトヲ要ス 故ニ此異議ハ常ニ第三者カ物權ヲ主張スル場合ニ限ルモノトス然レトモ物權ヲ有スル第三者ハ常ニ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利アルモノニ非ラズ如何ナル場合ニ於テ之ヲ妨クルコトヲ得ヘキヤハ各個ノ關係ニ依リ實體法ニ從テ決ス可キモノナリ而シテ其物權中ニ在リテモ其物上ニ付

キ優先ノ辨濟ヲ受クル權利アルニ過キスシテ之カ占有ヲ爲サ、ル先取特權及ヒ抵當權ノ如キハ其讓渡若クハ引渡ヲ妨クルコトヲ得サルヤ勿論ナリ故ニ此等ノ場合ハ性質上前陳ノ原因ニ基ツキ異議ヲ主張シ得ヘキモノト云フヲ得ス

然レトモ法律ハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ爲メ此等ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其優先權アル第三者ハ差押債權者ヲシテ其優先權ヲ認メシメ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クルカ爲メ此異議ノ手續ニ依リ一種ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトセリ(第五百六條)

(二) 此異議ヲ主張スル場合ニ於テ債務者カ第三者ノ異議ヲ正當トスルトキハ債權者ノミニ對シテ訴ヲ提起ス可ク若シ債務者カ反對ノ意思ヲ有スルトキ即チ執行ノ目的物ハ債務者カ完全ナル所有權ヲ有スルモノニテ第三者ノ主張ヲ不當ナリトスルトキハ債權者及ヒ其債務者ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起ス可キモノトス 此場合ニ於テハ債權者ニ對シテハ執行ヲ除却セシムルコトヲ求メ債務者ニ對シテハ第三者ノ物上權ヲ認メシムルコトヲ求ムルヲ目的トス而シテ此場合ニ於ケル共同被告ハ夫ノ

主參加ノ場合ト等シク(第五十條)必要的共同訴訟ニ屬ス然レトモ其權利關係カ合一ニ確定ス可キモノナリヤ否ヤハ其主張スル權利ニ依リテ常ニ一定スルモノニ非ラサルナリ

(三) 第三者ノ異議モ亦請求ニ關スル債務者ノ異議ト等シク執行ヲ除却セシムル目的ニ出ツルモノナレハ強制執行ノ開始ヨリ其完結ニ至ルマテノ期間内ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ 尤モ此期間内ニ於テ訴ヲ起サ、ルモ唯強制執行ニ對スル異議トシテ訴ヲ爲スノ權利ヲ失フニ止マリ損害賠償ノ請求ヲ爲スノ妨トナルモノニ非ラス若シ此異議ノ訴ヲ提起シタル後其執行ヲ停止セサリシカ爲メ訴訟中ニ執行ヲ完結シタルトキハ更ニ損害賠償ノ請求ニ改ムルコトヲ得ヘシ(第九十六條第三號)

(四) 此異議ノ訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス然レトモ若シ訴訟物ノ價額カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ其執行裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス 斯ノ如ク執行ニ關スル異議ニ付テハ特種ノ管轄ヲ定ムト雖モ之カ爲メニ其訴訟ハ特別訴訟手續ニ屬スルモノニ非ラス故ニ訴ノ提起、口頭辯論判決及ヒ上訴等總テ通常ノ訴訟手

續ニ從フ可キモノトス

(五) 第三者カ異議ノ訴ヲ提起スルモ既ニ開始シタル執行ハ當然停止ス可キモノニ非ラス即チ請求ニ關スル異議ノ場合ト異ナルコトナシ然レトモ請求ニ關スル異議ノ場合ニ述ヘタル所ト同一ノ申立ニ因リ停止ヲ命スルコトアリ此事タル前ニ請求ニ關スル異議ノ場合ニ詳説シタルヲ以テ茲ニ再ヒセス

以上講述セル所ヲ以テ強制執行ノ總則ニ付テ説明シ了レリ故ニ之ヨリ各種ノ強制執行ニ付キ順序ヲ逐フテ攻究セン抑モ強制執行ナルモノハ其基本タル債務名義ノ趣旨ニ從ヒ公ノ威力ヲ以テ強制的ニ權利ノ實行ヲ爲サシムルコトヲ目的トスルモノナレハ其債務名義ノ趣旨ヲ異ニスルニ依リ其實行方法モ亦同一ナルコト能ハス其執行ノ基本タル債務名義ハ判決ナルト其他ノ債務名義ナルトヲ問ハス其目的ハ區々ニシテ或ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ナルコトアリ或ハ特定物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスルコトアリ然レトモ我民事訴訟法ハ其執行

ハ方法ヲ債務名義ハ趣旨ニ依リテ之ヲ區別シ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行及ヒ金錢以外ノ債權ニ付テノ強制執行ノ二トナシタルカ故ニ此區別ニ從ヒテ其執行方法ヲ論究ス可シ

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行トハ債務名義ノ趣旨カ金錢ノ支拂ヲ受クルコトヲ目的トスル請求ニ付キ其確定シタル權利ノ強制執行ヲ謂フナリ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ内國通貨ヲ以テ支拂ヲ受クル債權タルヲ本則トシ内國通貨ハ如何ナル種類ヲ以テ其辨濟ニ充ツルモ可ナリ唯十圓以上ノ補助貨ヲ以テ辨濟セントスル者アルトキハ債權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ル(明治三十年法律第六號貨幣法參看)金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ性質ハ上述ノ如クナルカ故ニ若シ特種ノ通貨ノ給付ヲ目的トスル債權ナルトキハ茲ニ所謂金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權中ニ包含スルモノト看做スコトヲ得ス斯ル債權ハ代替物ノ一定ノ數量ノ引渡ヲ目的トスルモノト看做シ其執行方法ニ依ラサル可カラス(第七

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ意義

第四百三十二條民法 又外國ノ通貨ヲ以テ支拂ノ目的トナシタル場合ニ於テ特
 算シテ辨濟セシム可キモノニシテ民法第四百三十二條參看之ヲ金錢ノ支拂ヲ目的
 トスル債權ト看做シ本章ノ規定ニ從ヒ執行ス可キモノナリ
 若シ其債權ニシテ金錢ノ支拂ト他ノ物件ノ給付ノ一ヲ履行ス可キ場合ニ
 於テハ如何ナル債權ト看做ス可キヤ斯ル選擇義務ノ場合ニハ其選擇權カ
 何レニ屬ス可キヤヲ定メサル可カラシテ之ニ付テハ民法ノ規定ニ從フ
 可キコト勿論ナリ民法ノ規定ニ依レハ此權利ハ債務者ニ屬スルヲ一般ト
 シ相手方ハ相當ノ期間ヲ定メ其權利ノ行使ヲ催告ス可キモノナリ而シテ
 若シ選擇權ヲ有スル者カ其權利ヲ行使セサルトキハ其權利ハ相手方ニ屬
 ス民法第四百三十一條參看乃至
 故ニ斯ノ如キ手續ニ依リ選擇權カ債權者ニ移リタルトキハ之ヲ金錢ノ債
 權トシテ執行スルモ又ハ物件給付ノ債權トシテ執行スルモ一ニ債權者ノ
 任意ナリトス

第一節 通則

金錢債權ハ金錢ノ支拂ヲ受クルコトヲ目的トスルモノナレハ債務者ノ有
 スル金錢ニ對シ執行ヲ爲スヲ以テ最モ適切ナル方法トス然レトモ金錢ノ
 債權ニ付テモ債務者ノ總財產ハ債權者ノ共同擔保タル可キモノナレハ其
 執行ハ金錢ニ對スルノミナラス債務者ノ總財產ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ
 得ヘシ故ニ性質上又ハ法律上不可押物タルモノ、外ハ動産ナルト不動産
 ナルトヲ問ハス又有體財產ナルト無形ノ權利ナルトヲ論セス同時ニ之ヲ
 差押フルト順次ニ之ヲ差押フルトニ拘ハラズ債權ノ限度ヲ超過セサル限
 リハ此等ノ財産ニ對シテ強制執行ヲ爲シ得ルヲ本則トス而シテ其執行ハ
 債務者ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ換價シテ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ一般ノ通則ト
 ス

執行ノ目的物

(第一) 金錢ノ債權ニ付テノ執行ノ目的物

金錢債權ノ強制執行ハ債務者ノ財産ヲ差押ヘ換價ノ方法ヲ以テ金錢ニ
 換ヘ以テ債權ノ辨濟ニ充ツ可キモノナレハ債務者ノ財産ニ屬セサルモ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 通則

ノ又ハ讓渡ヲ爲ス能ハサルモノ若クハ特ニ法律ニ於テ差押ヲ禁シタルモノ、如キハ其執行ノ目的物トナスコトヲ得スト雖トモ其他ノ債務者ノ財産ハ總テ其目的物トナスコトヲ得ヘシ

(二) 金錢債權ノ執行ニ付テノ目的物タル能ハサルモノ

(甲) 債務者ノ財産ニ屬セサル權利 債務者ノ有スル權利ト雖モ夫ノ戶主權、親權、扶養ヲ受クル權利等ノ如キ身分上ノ權利ハ縱令財産上ノ利益ヲ享有スルモノ之ヲ財産上ノ權利トシテ差押フルコトヲ得サルナリ

(乙) 讓渡ヲ爲ス能ハサル權利 民法上ノ財産ヲ組成スル權利ト雖モ法律上、合意上又ハ性質上讓渡ヲ爲ス能ハサルモノアリ次ニ摘示スルモノ、如キハ差押フルコトヲ得サルモノニ屬ス

(イ) 法律上讓渡ヲ爲ス能ハサルモノ 例ヘハ華族ノ世襲財産ノ如キ是ナリ(明治三十九年四月敕令第三十四號參看)

(ロ) 合意上讓渡ヲ爲ス能ハサルモノ 例ヘハ設定行爲ヲ以テ讓渡ヲ禁シタル物權又ハ契約ヲ以テ讓渡ヲ禁シタル債權ノ如シ(民法第二

百七十二條第四百六十六條參看)

(ハ) 性質上讓渡ヲ爲ス能ハサルモノ 性質上讓渡スルヲ得サル權利トハ債務者ノ一身ニ屬ス可キ權利ナリ例ヘハ債務者カ第一債務者ニ對シテ詐害行爲ノ取消ヲ求ムル權利ノ如キハ其一身ニ專屬スル權利ニシテ之ヲ分離シテ他人ニ移付スルコトヲ得サルモノトス(民法第四百二

不可押物

(A) 債務者ニ屬スル有體動産ニシテ法律カ差押ヲ禁シタルモノハ次ノ如シ(第七百七十五條)

(イ) 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル 蓋シ此等ノ物ハ日用必要ナル器具ニシテ普通生活ニ缺ク可カラサルモノナルカ故ニ其差押ヲ禁スルニ在リ而シテ茲ニ家族トアルハ戶主カ債務者タル場合ヲ意味スルモノニシテ戶主ニ非ラサル者カ債務者タルトキハ其一人ノ財産ノミテ差押フ可キモノナルカ故ニ家族ノ爲メニ云々ナル規定

ヲ適用ス可キモノニ非ラサルヤ明カナリ又「缺ク可カラサル」トハ債務者ノ生活ノ程度及ヒ身分ノ輕重又ハ營業ノ種類等ニ依リ常ニ同一ナルコト能ハサルモノナレハ其執行ノ任ニ當ル執達吏ハ實際ニ付キ之ヲ鑑別セサル可カラス

(ロ) 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一个月間ノ食料及ヒ薪炭 是レ現時ノ生活ニ缺ク可カラサルモノナルカ故ニ其差押ヲ禁シタルモノナリ

(ハ) 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆(即チ產婆)ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物 此等ノ者ハ各其營業ニ必要ナル器械ヲ所持ス可キ者ナルカ故ニ其器械ノ如キハ之カ差押ヲ禁スルモノナリ

(三) 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物 茲ニ所謂次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物トハ種物、苗類及ヒ蠶卵種等ヲ指スモノトス

(ホ) 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證

人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

以上(ハ)ヨリ(ホ)ニ至ル三者ハ債務者カ其業務ヲ行フニ必要ナルモノナレハ差押ノ爲メ其業務ヲ害スルコトナカラシメンカ爲メ其差押ヲ禁スルモノナリ

(ヘ) 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス 是レ第六百十八條第一項第五號ノ規定ト相對スルモノニシテ同條ハ職務上ノ收入又ハ恩給ニ付キ未タ債務者ノ手ニ領收セス債權トシテ存スル場合ニ適用スヘキモノナレトモ茲ニ規定スル所ノ財産ハ其職務上ノ收入又ハ恩給ニシテ既ニ債務者カ領收シテ其手中ニ存スル金額ニ對スル場合ヲ意味スルモノニシテ其職務上ヨリ受ケタル金額ナルコト明カナル場合ニノミ此規定ヲ適用ス可キモノトス若シ果シテ其金額ヲ所持スル者ナルトキハ第六

百十八條第二項ノ規定ニ從ヒ一个年三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ差押ノ日ヨリ次期ノ收入日マテノ計算ヲ遂ケテ之ヲ差押ヘ其他ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス若シ三百圓ニ滿タサル收入又ハ恩給ナルトキハ絶對的ニ之ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス

(ト) 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品茲ニ所謂藥舖トハ通常ノ藥種店トハ異ナリ内務省ノ許可ヲ受ケタル藥舖ニ限ルモノニシテ是レ亦差押ノ爲メ其營業ヲ害セザランカ爲メナリ

(チ) 勳章及ヒ名譽ノ證標 勳章ハ内國ノ勳章タルト外國ノ勳章タルトヲ問ハス又名譽ノ證標中ニハ各種ノ褒證賞杯等ヲモ包含スルモノナリ蓋シ此等ハ名譽ノ徽章ナルカ故ニ差押ノ爲メ其名譽ヲ害スルコトナカラシメンカ爲メナリ

(リ) 實印其他職業ニ必要ナル印 印類ノ如キハ縦令差押ヲ受クル地位ニ立ツモ尙ホ必要缺ク可カラサルモノナルカ故ニ之カ差

押ヲ禁スルニ在リ而シテ茲ニ所謂職業ニ必要ナル印中ニハ商業上ノ店判官吏公吏其他銀行會社ノ役員等ノ認印ノ如キモ包含ス(ヌ) 神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物 是レ神聖ナル信仰心ヲ傷クルノ恐アルカ故ニ其差押ヲ禁スルモノナリ故ニ如何ニ高價ナル佛檀若クハ位牌等ノ如キ又ハ之ニ類スル物ハ總テ差押フルコトヲ得サルモノトス

(ル) 系譜 差押フルコトヲ得サル系譜ハ債務者一家ノモノニ限ル蓋シ系譜ハ其家ニ傳ハリ祖先ノ祭祀ヲ施スカ爲メニ尊重ス可キモノナレハ之カ差押ヲ禁スル所以ナリ然レトモ他ノ家ニ屬スル名家ノ系圖ニシテ債務者ノ有スルモノ、如キハ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

(ヲ) 債務者又ハ其家族ノ未ダ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未ダ公ニセサル著述ノ稿本 是レ世ニ裨益ヲ與フ可キ發明又ハ著述ヲ妨クルコトナカラシムルカ爲メナリ

(ワ) 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍 書籍ノ

如キハ文化ノ發達教育ノ進歩ニ缺ク可カラサルモノナルカ故ニ
之カ妨害ヲ爲サ、ルカ爲メ斯ル規定ヲ設ケタルモノナリ

以上ノ有體動産ハ不可押物ナリト雖モ其之ヲ禁スル公法上ノ理由
ニ至リテハ自ラ輕重ノ別アリ而シテ(ハ)乃至(キ)ニ至ルモノヲ除クノ
外ハ專ラ債務者ヲ保護スル目的ニ出テタルモノナレハ其債務者カ
自ラ權利ヲ拋棄シテ承諾スルニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ
(B) 債務者ノ有スル債權ニシテ法律上其差押ヲ禁スルモノハ左ノ
如シ(第六百十八條)

(イ) 法律上ノ養料(即チ扶養) 法律上ノ養料ハ主トシテ身分上ノ
關係ニ基クモノナレハ(民法第九百五十條以下參看)斯ル權利ハ眞ノ財産トシ
テ差押ヲ許ス可キモノニ非ラストスルニ在リ

(ロ) 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル繼
續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル
此種ノ債權ハ生活ノ困難ナル者ヲ救助スルカ爲メニ第三者ノ
慈惠ニ出ツル恩惠的ノ債權ナルカ故ニ之ヲ差押フルコト、セハ

義捐者ノ慈善ノ目的ヲ達スルコト能ハスシテ遂ニ其善良ナル公
共心ヲ害スルニ至ルヲ以テ之カ差押ヲ禁スルニ在リ

(ハ) 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料 下士以下ノ
軍人ノ如キハ僅少ナル給料、恩給、扶助料等ニテ生活ヲ爲スモノナ
ルカ故ニ此等ノ債權ヲ差押フルハ妥當ナラストナスニ在リ

(ニ) 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル軍人
軍屬ノ職務上ノ收入 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦トハ
宣戰ノ布告ヲ發シタルト否トヲ問ハス動員令ヲ發シタル後ノ軍
隊又ハ非常ノ爲メ艤裝ヲ爲シタル以後ノ軍艦ヲ謂フナリ此等ノ
軍人、軍屬ハ生死ノ境ニモ入ル可キ職ニ從役スルモノナルカ故ニ
其者ノ債權ヲ差押フルハ事情ニ於テ正當ナラストナスニ在リ
(ホ) 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ノ職務上ノ
收入、恩給及ヒ遺族ノ扶助料

(ヘ) 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲メニ受クル報酬
以上ノ債權中(イ)(ホ)(ヘ)ノ三者ハ絶對的ニ之カ差押ヲ禁セラル、モノ

ニ非ラス一个年ノ收入三百圓ヲ超過スルトキハ其超過額ノ半額ヲ
差押フルコトヲ得ヘシ然レトモ特別ノ法律ヲ以テ此等ノ債權ニ付
キ絶對ニ其差押ヲ禁シタルトキハ勿論一切之ヲ差押フルコトヲ得
ス恩給扶助料ノ如キハ概シテ之カ差押ヲ禁止セラル(官吏恩給法第
十條、恩給條例第十一條、官吏遺族扶助料法第十三條、府縣立公立學校
員退隱料及遺族扶助料法第十一條、市町村立小學校教員退隱料法第
十條、扶助料法第(一)條)故ニ恩給扶助料等ニ付キ本法ニ於テハ三百圓ヲ超過
スルトキハ差押ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定スルモ實際ニ於テハ之カ適
用甚タ稀少ナリ

右ノ如キ差押ノ目的トナラサル物件ヲ差押ヘタルトキハ債務者ハ之
ニ對シテ異議若クハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

目的物タルモ

(二) 金錢債權ノ執行ニ付テノ目的物タルモノ
前ニ説明シタル不融通物不可押物又ハ性質上差押ノ目的物トナラサル
モノ、外ハ債務者ノ財産ハ總テ執行ノ目的物タルコトヲ得而シテ其
財産中ニハ動産アリ不動産アリ又物權アリ債權其他ノ財産權アリ其
種類ノ異ナルニ從ヒテ其執行方法ヲ異ニスルカ故ニ左ニ其權利ノ種

別ヲ示ス可シ

(甲) 有體動産ノ所有權 之ヲ細別スルトキハ左ノ如シ

(イ) 金錢

(ロ) 物品

(ハ) 有價證券 有價證券トハ其證券自體カ價格ヲ有シ一定ノ市價
アルモノヲ謂フ即チ取引所ニ於テ公ノ相場ヲ以テ取引ヲ爲ス可
キ株券、公債證書ノ類ノ如キハ之ニ屬ス

(ニ) 未タ土地ヨリ離レサル成熟時期一个月ニ近ツキタル果實 民
法ノ規定ニ依レハ果實ニシテ成熟スルモ土地ヨリ離レサル間ハ
未タ之ヲ動産ト謂フ可カラス然レトモ強制執行上ニ於テハ既ニ
成熟シ其時期一个月ニ近ツキタル果實ハ到底土地ト分離セサル
ヲ得サル性質ノモノナルカ故ニ動産ニ準シテ執行シ得ヘキモノ
トナシタルナリ(第五百六十八條第一項)

(ホ) 揚リ蠶トナリタル蠶 蠶ハ其揚リ蠶トナル以前ハ之ヲ財産視
スルコトヲ得サルモノニシテ縱令財産視スルヲ得ヘキモノトシ

テ差押フルコト、スルモ非常ノ手数ト費用トヲ要シ差押ノ目的物トナスニ適セサルナリ故ニ法律ハ揚リ蠶トナリタル蠶ノミヲ財産視シ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ揚リ蠶ハ既ニ非常ノ手数ヲ要セスシテ繭ヲ差押フルト殆ト均シキヲ以テナリ

(第五百六十八條第二項)

(乙) 債權其他ノ財産權 之ヲ分テハ左ノ如シ

- (イ) 債務者カ第三者ニ對シテ有スル金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權
- (ロ) 債務者カ第三者ニ對シ有スル金錢以外ノ有體物又ハ有價證券ノ引渡若クハ其給付ヲ目的トスル債權
- (ハ) (イ)號(ロ)號以外ノ債務者ノ有スル財産權

(丙) 不動産ノ所有權

(丁) 船舶ノ所有權 船舶ハ固ヨリ一種ノ動産ナリト雖モ其處分ノ方法ニ至リテハ不動産ニ準ス可キ特別ノ手續ニ從フ可キモノナルヲ以テ執行上ニ於テモ亦特別ノ方法ヲ採リ他ノ動産ト之ヲ區別セリ執行方法ノ異ナル點ヨリシテ金錢債權ノ執行ノ目的物ヲ分テハ前陳

ノ如シ其目的物中動産、不動産ノ區別ノ如キハ一般ニ民法ノ規定ニ從フ可キモノナレトモ或種ノ物權ニ付テハ民法上不動産ニ屬ス可キ物モ動産トシテ執行セシムルコトアリ例ヘハ前述シタル土地ヨリ離レサル果實ノ如キ之ニ屬ス又民法ニ於テハ動産、不動産ノ區別ハ主トシテ物權ニ關スル區別ナレトモ強制執行法ニ於テハ債權及ヒ其他ノ財産權ニシテ而カモ不動産ニ關スル權利例ヘハ地上權、永小作權ノ如キモノニ對スル執行モ動産ニ對スル執行ノ章中ニ於テ之ヲ規定セリ故ニ斯ル場合ニ於テハ民法上ノ動産、不動産ノ區別ノ標準ヲ以テ之ヲ分別スルコトヲ得ス

(第二) 金錢債權ノ執行ノ順序

此執行ハ一般ニ左ノ三種ノ手續ヲ經ヘキモノトス

- (一) 差押 差押トハ債務者ノ財産ヲ拘束シ強制ノ執行ニ從ハシムルニ在リ故ニ之カ爲メニ債務者ノ財産處分權ノ幾分ヲ制限スルモ絶對的ニ處分權ヲ禁止スルモノニ非ラス而シテ此金錢債權ノ執行ハ總テ差押ヲ以テ之ヲ爲スヲ本則トス(第五百六十四條、第六百四十四條)

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 通則

(甲) 差押ノ方法 差押ノ方法ハ目的トスル財産ノ異ナルニ從ヒテ同一ナラス即チ有體動産ノ差押ハ其執行機關タル執達吏カ其物ヲ占有シテ之ヲ爲シ(第五百六十條第一項)債權其他ノ財産權ニ付テハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス(第五百九條)又不動産及ヒ船舶ニ對シテハ競賣開始決定又ハ強制管理開始決定ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス(第四百四條第十條第六百四十四條第七百七條)

(乙) 差押ノ制限 金錢債權ノ強制執行ハ其基本タル債務名義ニ基ク請求金額及ヒ其執行費用ヲ償フニ必要ナルモノ、外ニ及ホスコトヲ得ス(第五百五條)而シテ此規定ハ動産ニ對スル執行ノ通則トシテ掲ケタルカ故ニ不動産ニ對スル執行ニハ直接ニ之ヲ適用スルコトヲ得ス蓋シ債務者ノ所有スル財産ニシテ不動産ノミナルトキハ縱令其價格ハ債務名義ノ請求金額ヨリ非常ニ超過スルカ如キ場合ニ於テモ之ヲ分割シ得サルトキハ其差押ヲ許サ、ルヲ得サルヲ以テナリ而シテ法律ノ精神斯ノ如クナルヲ以テ一個ノ不動産ニシテ其債權ノ辨濟ニ足ル可キ場合ニ於テハ他ノ不動産ヲ差押フルカ如キハ

不必要ナル執行ナルヲ以テ法律ノ明文ナキモ斯ル不當ノ執行ニ對シテハ債務者ヨリ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキヤ勿論ナリ又差押フ可キ物ヲ換價スルモ到底強制執行ノ費用ヲ償フテ餘剩ヲ得ルノ見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス(第五百四條)是レ舊商法即チ破産法第九百八十二條ニ破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ其手續ヲ停止スト規定セルト同一法意ニシテ債權者カ執行ヲ求ムル目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス國家ノ經濟上ニ於テモ誠ニ實益ナキコトナレハナリ而シテ此規定モ亦動産ニ對スル執行ノ通則トシテ設ケラレタルニ過キスト雖モ其性質上不動産ニ對スル執行ニモ同様ニ論シ金錢債權ノ執行ニ關スル通則ト看做ス可キモノナリ

(丙) 差押ノ效力 差押ノ效力ハ敢テ債務者ノ權利ヲ直チニ離脱セシムルモノニ非ラス唯其結果トシテ目的物ヲ拘束シ執行ニ服從セシムルニ在リ故ニ換價以前ニ於ケル天災其他差押物上ニ及ホス危険ハ總テ債務者ノ負擔ニ屬ス其保存中ノ費用モ差押物賣却代金ヨリ

支出シ結局債務者ノ負擔ニ歸ス可キモノタリ
 斯ノ如ク差押ニ依リ直チニ債務者ノ權利ヲ離脱セシムルモノニ非
 ラスト雖モ其權利ハ多少ノ制限ヲ受クルニ至ルモノニシテ其制限
 ノ程度ニ付テハ目的物ニ依リ同一ナラス(イ)動産ノ差押ニ付テハ其
 占有ヲ執達吏ニ移ス可キモノニシテ(第六百六十條第一項)民法ノ規定ニ從ヒ
 占有ヲ移シ完全ニ之カ讓渡ヲ爲ス權利ヲ制限セラレ(第七十八條)又之
 ヲ使用スルノ途ヲ失フニ至ル(ロ)債權其他ノ財産ニ至リテモ差押命
 令ヲ以テ其處分ヲ禁止セラレ可ク(第五百九條)ハ(不動産ニ至リテハ其
 占有ヲ移スコトナク其利用及ヒ管理モ債務者ノ爲ス所ニ任スルモ
 ノトシ(第六百四十四條)又其處分ニ付テモ禁止スル所ナシ故ニ債務者ハ差
 押ニ因リ執行ニ服従スルノミニシテ之ヲ處分スルコトヲ妨ケスト
 雖モ差押後ニ其不動産上ノ權利ヲ取得シタル者ハ其差押ノ效力ニ
 對抗スルコトヲ得サルカ故ニ其執行ヲ甘受セサル可カラス(第六百五十條)
 差押ニ因リ債務者ノ權利ニ付テ受クル所ノ差押ノ效力ハ上述ノ如
 シト雖モ債權者ニ對スル效力ニ付テハ立法例二個ニ分レタリ(イ)差

差押ト物上ノ
 優先權トノ關
 係

押ニ因リテ債權者ノ爲メニ質權ヲ付與スル主義ト(ロ)單ニ差押ノ賣
 却代金ニ付キ平等ノ割合ヲ以テ辨濟ヲ受ケシムルニ過キサル主義
 是ナリ獨逸民事訴訟法ハ前者ヲ採リ佛蘭西民事訴訟法ハ後者ニ據
 ル而シテ我民法及ヒ民事訴訟法ハ債務者ノ總財産ハ各債權者ノ共
 同擔保ナリト看做ス可キヲ原則トシ特ニ優先權アルモノ、外ハ差
 押ノ爲メニ優先ノ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ付與セス唯差押物ヲ換價
 シ其代金ヨリ辨濟ヲ受ケシムルニ過キサルカ故ニ法律ノ規定ニ從
 ヒ適式ニ配當要求ヲ爲ス者アルトキハ平等ノ配當ヲ爲サ、ル可カ
 ラサルナリ

(丁) 差押ト物上ノ優先權トノ關係 債權者カ差押ヲ爲シ得ヘキモノ
 タル以上ハ債務者ノ財産中如何ナルモノニ對シテモ差押ヲ爲シ得
 可キコトハ前ニ説明セシ所ニシテ縱令其債權者カ或財産ニ對シテ
 特別ノ物上擔保權ヲ有スルトキト雖モ他ノ財産ヲ差押フルモ敢テ
 違法タルニ非ラス然レトモ其擔保物ニシテ辨濟ニ充分ナルトキハ
 實際ハ先ツ之ヲ差押フルヲ至當トス然ラサレハ他ノ債權者ハ測ラ

民事訴訟法正解 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行 通則

サル不便不利ヲ被ムルコトアル可シ尤モ此點ニ付テハ法律ノ命スル所ニ非ラスシテ唯抵當權、不動産質權ヲ有スル債權者ニ在リテハ民法ノ規定ニ依リ其不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得可キモノトナスカ故ニ(民法第三百九十四條)先ツ其不動産ニ付キ差押ヲ爲サ、ル可カラス其他倉庫證券ノ質入ニ因リ物品ヲ質入シタル場合ニ於テハ商法ノ規定ニ依リ先ツ其物品ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス(商法第三百七十二條參看)故ニ此場合ニ於テモ先ツ其寄託物品ヲ差押ヘサル可カラス前述シタル所ニ反シ債權者ノ爲メニ差押ヲ受ク可キ物上ニ第三者カ優先權ヲ有スル場合ニ於テハ之カ差押ヲ妨クルコトヲ得ス(第五條十五)然レトモ第三者カ優先權ヲ有スル物件ヲ差押フルニ付テハ動産ト不動産トニ依リ法律ノ規定同一ナラス左ニ之ヲ區別シテ説明ス可シ

(イ) 差押ヲ受ク可キ動産ニ付キ第三者カ物上ノ優先權ヲ有スルトキ 此場合ニ於テハ其占有ノ有無ニ依リ其結果同シカラス即チ

第三者カ物ヲ占有ス可キ留置權、質權ノ如キ占有權ヲ有スル場合(民法第二百九十五條以下)ニ於テ第三者カ其提出ヲ拒ムトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス故ニ之ヲ拒マサリシ場合ニ限リ差押ヲ爲スコトヲ得(第五百六)又第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ占有ヲ爲サスシテ優先權即チ先取特權ヲ有スルトキハ(民法第三百三條以下)直チニ之ヲ差押フルコトヲ得斯ノ如ク第三者カ優先權ヲ有スル動産ヲ差押フルモ之カ爲メニ其賣得金ニ付テ優先ノ辨濟ヲ受ケシムルノ權ヲ奪フモノニ非ラス而シテ其優先ノ辨濟ヲ受ケントスル第三者ハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ於ケル第三者ノ異議ノ訴ノ形式ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノニシテ債權ノ期限ノ到來セサルトキト雖モ尙ホ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

優先權者カ此訴ヲ提起シ其主張カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ點ニ於テモ疏明アリタルトキハ其訴ヲ受理シタル裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可キモノトス法文ニハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シトアルカ故ニ競賣等ノ換價處分ハ必ス之ヲ續行ス可キモノ

ノ如シト雖モ時トシテハ差押物ノ競賣ヲ爲スモ優先権者ニ對スル辨濟ニモ足ラスシテ差押債權者ニ配當ス可キ剩餘ナシト認ムル場合ニ於テハ第五百四十七條第五百四十八條ノ規定ヲ準用シ申立ニ因リ其判決ニ至ルマテ強制執行ヲ停止シ又ハ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコトヲ得(第五百六條)

(ロ) 差押ヲ受ク可キ不動産ニ付キ第三者カ物上ノ優先権ヲ有スルトキ 此場合ニ於テハ第三者カ不動産ヲ占有スルト否トニ區別ナク競賣開始ノ決定ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其賣却代金ニ付テハ動産ノ場合ト異ナリ前ニ述ヘタルカ如キ訴ノ提起ヲ待タスシテ民法ノ規定ニ從ヒ優先ノ順序ニ依リテ之カ配當ヲ爲ス可キモノトス(第六百九條)

(二) 換價 差押物カ金錢ニ係ルトキハ別ニ價ニ換フルノ必要ナシト雖モ其他ノ物件ニ付テハ執達吏カ實施スル動産ノ差押ナルト執行裁判所ノ爲ス不動産債權其他ノ財産權ニ對スル差押ナルトヲ問ハス之カ換價ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其方法ニ付テハ競賣ノ手續ニ依ルモノ

アリ其他特別ナル方法ニ依ルモノアリテ差押物ノ種類ノ異ナルニ從ヒ其手續ヲ異ニスルカ故ニ後ニ詳論ス可シ

(三) 辨濟ニ充ツル方法 債權ヲ有スル者カ差押債權者一人ノミナルトキハ換價シタル金額全部ヲ以テ其辨濟ニ充ツルコトヲ得ヘシト雖モ債權者數人アリ配當ノ要求アリタルトキハ之カ配當ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス是レ又各差押ニ依リ規定ヲ異ニスルモノアルカ故ニ後ニ詳説ス可シ

以上金錢債權ノ強制執行ニ關スル一般ノ通則ヲ説明シタルカ故ニ之ヨリ動産ニ對シテ爲ス所ノ強制執行ニ付テ説明ス可シ

第二節 動産ニ對スル強制執行

第一款 有體動産ニ對スル強制執行

金錢ノ債權ノ爲メニ債務者ノ有體動産ニ對シテ爲ス強制執行ハ執達吏ノ專行ス可キ執行行為ニ屬ス(第五百三條)故ニ債權者カ斯ル財産ニ對シテ強制執行ヲ爲サント欲セハ其執行力アル正本ヲ執達吏ニ交付シ以テ之カ委任

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一四七

ヲ爲ス可キモノニシテ(第五百三條)此委任ヲ受ケタル執達吏ハ遲延ナク其執行ニ着手ス可キモノトス其執行着手ニ付テハ嘗テ總則ニ於テ説明シタルカ如ク執行着手ノ要件トシテハ債權者債務者ノ氏名ヲ其正本ニ表示シ且其執行ノ基本タル債務名義ヲ執行前又ハ其着手ト同時ニ債務者ニ送達シタルコトヲ要ス(第五百二條)

以上ノ要件ヲ具備シテ執行ニ着手スルニ於テハ執達吏ハ債務者ノ有體動産中前ニ述ヘタル差押ノ目的物タラサル物ノ外ハ債權額及ヒ執行費用ノ限度ニ充ツルマテハ如何ナル財産ヲ差押フルモ其自由ナリトス然レトモ強制執行ハ敢テ債務者ヲ困難ナラシムル手段ニ非ラサルカ故ニ執達吏職務細則中ニハ債務者ニ對シテ一應任意ノ辨濟ヲ催告シ之ヲ爲サ、ルトキ始メテ差押ニ着手ス可ク其差押フ可キ物件ニ付テモ殊更ニ債務者ニ損害ヲ生スルコトナカラシムル注意ヲ爲スコトヲ要スト規定セリ去レハ債務者ノ指示スル物件ヲ第一着ニ差押フルヲ妥當トス

(第一) 差押

執達吏カ有體動産ノ差押ヲ爲スニハ左ノ手續ニ從フ

(一) 差押ノ實施ハ執達吏カ差押フ可キ物ヲ占有シテ爲スヲ本則トス

其差押ノ場所ニハ債務者ヲ立會ハシムルヲ常トシ若シ立會ヲ爲サ、ルトキハ其差押ヲ債務者ニ通知スルコトヲ要ス(第五百六條)而シテ其差押ハ物件ノ占有者ノ異ナルニ從テ其手續ヲ異ニス

(甲) 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産

(乙) 債權者ノ占有中ニ在ル有體動産

(丙) 第三者ノ占有中ニ在リテ其提出ヲ拒マレサル有體動産

右(甲)ノ場合ニ於テハ債務者ヨリ執達吏ニ其占有ヲ移サシム可ク(乙)ノ場合ニ於テハ債權者ヨリ執達吏ニ其占有ヲ移サシム可ク(丙)ノ場合ニ於テハ第三者ノ占有中ニ在ル債務者ノ有體動産ハ第三者カ其提出ヲ拒マサルトキニ限り之ヲ受領シテ執達吏ノ占有ニ移シ其差押ヲ爲ス可キモノトス(第五百六條)若シ第三者カ提出ヲ拒ムトキハ有體物給付ノ債權ニ對スル執行トシテ執行裁判所ノ執行ヲ受クルコトヲ得ヘキモ(第六百十五條)執達吏ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

以上ノ手續ニ依リ執達吏カ差押ヲ爲シ其占有ニ歸シタル物件ハ執達

吏之ヲ保管ス可キヲ本則トス

(二) 右規定ノ例外トシテ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其差押物ノ運搬ニ付キ重大ナル困難アルカ如キ二個ノ事由中ノ一ノ存スルトキニ限り執達吏ハ一度自己ノ占有ニ歸シテ差押ヘタル物件ヲ債務者ノ保管ニ任スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ執達吏ハ唯其保管ニ任スルノミヲ以テ足レリトセス外形上差押物タルコトヲ何人ニモ知リ得ヘキ爲メニ差押物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ又ハ差押物タル目標ヲ附シ若クハ執達吏ノ署名シタル告示ヲ貼付シテ以テ差押ヲ明白ニスル方法ヲ施サ、ル可カラス(第五百六十六條第二項)

(三) 差押物ノ保存ハ執達吏ノ職務ニ屬シ殊ニ特種ノ差押物ニ付キ特別ナル處分ヲ要スルトキハ適宜ノ方法ヲ施スコトヲ得ヘシ例ヘハ家畜ヲ差押ヘタルトキ又ハ腐敗シ易キ物又ハ損傷物ヲ差押ヘタルトキハ此等ノ物ニ付テ損害ヲ生セシメサル方法ヲ探ル可キカ如キ是ナリ而シテ此等ノ處分方法ニ付キ費用ヲ要スルトキハ執達吏ハ相當ナル費用額

有體動產差押ノ特別ノ效力

ヲ定メ差押債權者ヨリ一時之ヲ豫納セシム可キモノトス若シ數名ノ差押債權者アルトキハ其權利ノ割合ニ應シテ之ヲ豫納セシムルヲ相當トス此場合ニ於テ債權者カ豫納ヲ爲サ、ルトキハ執達吏ハ差押ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債權者ハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス(第五百七十一條)

(四) 有體動產ノ差押中特別ナル效力ヲ生スルモノアリ其一般ノ差押ノ效力如何ハ前ニ論述シタル所ニシテ再ヒ贅スルノ必要ナシト雖モ有體動產ノ差押ニ付キ特別ナル效力ヲ生スル場合アルヲ以テ之ヲ區別シテ説明セン

(甲) 天然ノ果實ヲ生ス可キ有體動產ヲ差押ヘタルトキハ差押後ノ果實ニモ當然其效力ヲ及ホス可キモノトス(第五百六十九條)蓋シ有體動產ニシテ天然果實ヲ產出スル物ノ如キハ極メテ少ナシト雖モ家畜ノ類ヲ差押ヘタルニ其畜類カ子ヲ生ミ又ハ卵ヲ產シタルトキノ如キ其適用アル可シ而シテ斯ノ如キ天然ノ果實ニ當然差押ノ效力ヲ及ホスコトハ有體動產ニ限ル不動産ニ付テハ斯ル規定ヲ設ケス

(乙) 金錢ヲ差押ヘタルトキハ他ノ有體動産ノ場合ノ如ク換價手續ヲ要セス故ニ之ヲ債務者ヨリ取立テ其差押ヲ爲スト同時ニ債務者ヨリ債權者ニ對シテ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス可ク從テ其以後ニ於テハ該金錢ニ付テノ危險ハ債權者ノ負擔ニ歸シ他ノ債權者ハ之ニ對シテハ配當要求ヲ爲スノ機會ナク全然差押債權ニ對スル辨濟トナル可キモノトス然レトモ或場合ニ於テハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カル、コトヲ債務者ニ許容スルコトアリ即チ民事訴訟法第五百五條第二項ノ規定ニ於ケル條件附ノ假執行ノ宣言ニ基ク執行ノ場合ニ於テハ直チニ辨濟マテヲモ實行セシムル效力ナク唯之ヲ差押ヘ置クニ過キササルヲ以テ配當ヲ要求スルコトヲ得ヘシ

右變例ノ場合ノ外執達吏ハ金錢ヲ差押ヘタルトキハ速ニ之ヲ債權者ニ引渡ス可キヲ本則トス(第五百七十四條)

(第二) 換價

執達吏ハ差押ヲ實施スルニ付キ差押物ヲ換價シ金錢ヲ得ヘキモノニシ

換價

テ差押後ハ其結果トシテ特別ニ差押債權者ヨリ委任ヲ受クルコトヲ要セス又特別ニ執行裁判所ノ命令ヲ要セス執行委任ノ範圍内ニ於テ法律上之カ換價手續ヲ爲ス可キモノトス而シテ此換價ニ付テハ何人カ賣主ナリヤハ一個ノ問題ニシテ(イ)或ハ債權者ノ委任ニ依リテ賣却スルモノナルカ故ニ債權者カ賣主ナリト言フ者アリ(ロ)又執行機關カ其職權ニ依リテ賣却スルモノナルカ故ニ執行機關カ賣主ナリト解スル者アリ(ハ)又其物ハ債務者ノ財産ニ係ルカ故ニ賣主ハ債務者ナリト論スル者アリ顧フニ差押物ト雖モ其換價ヲ爲スニ至ルマテハ債務者ノ所有ヲ離レス其危險モ亦債務者ノ負擔ニ歸ス可キモノナレハ其賣主ハ債務者ナリト解スルコト最モ穩當ナル見解ニシテ唯民法上ノ任意ノ賣買ト異ナリ其所_{有者}タル債務者カ賣却ノ意思表示ヲ爲サス公ノ機關カ強制的ニ其賣買ヲ爲サシムル一種ノ賣買タルナリ(第五百七十二條)而シテ其換價方法ニハ種々ノ別アルヲ見ル

(二) 通常ノ換價方法 通例差押物ノ換價ハ公ノ競賣方法ヲ以テス

(甲) 競賣ノ日時及ヒ場所 競賣ハ差押ヲ爲セル市町村ニ於テ之ヲ爲

スヲ通例トシ其差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ
期間ヲ存スルコトヲ要ス是レ蓋シ其競賣期日場所及ヒ競賣物ヲ公
告シテ衆人ニ之ヲ知ラシメ且其差押ニ對シテ異議アル第三者ニ競
賣前執行ノ停止若クハ其除却ヲ求ムルノ機會ヲ與フルニ在リ然レ
トモ債務者差押債權者及ヒ配當要求債權者等ノ同意アルトキ又ハ
貯藏ニ不相應ノ費用ヲ要シ若クハ價格ノ減少スル虞アルトキハ其
期間ヲ短縮スルコトヲ得ヘシ又差押ノ場所ニ付テモ右等ノ者ノ同
意アルトキハ其場所以外ノ地ニ於テ競賣スルコトヲ得(第五百七十七條、第五百七十八條)

執達吏ハ其期間後適當ナル時期ニ於テ競賣ヲ實施ス可ク若シ故ナ
クシテ其競賣ヲ爲サ、ルトキハ差押債權者又ハ執行力アル正本ニ
依ル配當要求債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ實施ス可キコトヲ催
告スルコトヲ得ヘク執達吏カ其催告ニ應セサルトキハ相當ノ命令
ヲ與フ可キコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得(第五百八條)
(乙) 競賣準備 競賣ノ準備トシテ左ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス

(イ) 執達吏ハ前號ニ説明セシ所ニ基キ競賣期日及ヒ其場所ヲ定メ
サル可カラス

(ロ) 其競賣期日及ヒ場所ハ之ヲ公告ス可ク其公告ニハ競賣物ヲ表
示スルモノトス其公告ノ方法ニ付テハ別ニ法文ナシト雖モ所役
場ノ揭示板ニ之ヲ揭示シ必要ト認ムルトキハ新聞紙ニモ公告ス
ルコトヲ得(第五百七十條、第六條)

(ハ) 競賣ス可キ物件中高價物アルトキハ執達吏ハ豫メ適當ナル鑑
定人ヲシテ之カ評價ヲ爲サシメサル可カラス(第五百七條、第十三條)

(二) 競賣ノ實施 競賣期日ニ至レハ執達吏ハ自ラ其期日ヲ開キ賣却條
件ヲ告知シ競買ノ申出ヲ催告シテ競賣ニ着手ス可キモノトス而シテ
有體動産ノ賣却ニ付テノ法律上ノ賣却條件ハ左ノ如シ

(甲) 競落ハ最高價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス可キモノトス 競
落人カ最高價額ノ申出ヲ爲スモ執達吏ハ必ス三回之カ呼上ヲ爲シ
タル上ニ非ラサレハ競落ヲ告グルコトヲ得ス是レ蓋シ輕忽ニ競落
ヲ爲サス努メテ高價ニ賣却セシメンコトヲ期スルニ在リ又競賣ハ

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一五五

最高價ノ申出アル者ニ賣却セントスルモノナルカ故ニ各競買人カ
唯競買價額ノ申出ヲ爲シタルノミニテハ賣買成立セス執達吏カ其
以上ノ競買人ナキコトヲ認メテ競落ヲ決シ之ヲ告知シテ始メテ其
價額ニ依リ賣買契約成立スルモノトス

(乙) 競落物ノ引渡ハ其代金ト引換ニ之ヲ爲ス可キモノトス 競賣ハ
前號ニ説明セシ如ク競落ヲ告知スルニ因リテ成立スト雖モ競落人
ハ代金ヲ支拂フニ非ラサレハ其競落物ノ引渡ヲ受クルコトヲ得ス

(丙) 金錢ノ支拂ハ特別ノ定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ之ヲ爲シ
若シ合意上ノ賣却條件ニ於テ特ニ支拂期日ヲ定メタルトキハ其期
日ニ於テ支拂ヲ爲ス可キモノトス 競落人カ右等ノ期日ニ支拂ヲ
爲サ、ルトキハ賣買ヲ解除シ競買人ノ責任ヲ以テ更ニ競賣ヲ爲ス
可キモノトス而シテ此賣買ノ解除ハ民法上ノ債務不履行ニ因ル賣
買ノ解除ト異ナリ特別ノ意思表示ヲ要セス適當ノ時期ニ代金支拂
ヲ爲サ、ルニ因リ法律上當然解除ノ結果ヲ生スルモノトス(民法第
四百七十一條、第五百七
十條參看)

(イ) 當然解除ノ結果ヲ生スルカ故ニ競買人ニ恩惠上ノ猶豫期間ヲ
與フルコトナシ

(ロ) 解除ノ後再競賣ヲ爲ス可キモノトス

(ハ) 再競賣ヲ爲スニ付キ前ノ競買人ハ更ニ競買ヲ爲スコトヲ得ス

(三) 再競賣ノ結果其競落代金カ前ノ競落代金ヨリ低價ナルトキハ
前競落人ハ其不足額ヲ負擔ス可ク若シ高價ナルコトアルモ前競
落人ハ其剩餘額ヲ請求スルコトヲ得ス是レ前競落人ニ對スル一
種ノ責罰タルナリ

執達吏ハ前ニ説明セシ如ク賣却條件ヲ告知シ競買申出ヲ催告シ競買
人ヲシテ價額ノ申出ヲ爲サシメ各個ノ差押物ニ付キ順次三回ツ、最
高價ノ呼上ヲ爲シ以テ其競落ヲ爲スコク其競落價額ニシテ債務者ニ
辨濟ヲ爲シ且執行費用ヲ償フニ足ル可キ賣却金ヲ得ルニ至ルトキハ
尙ホ他ニ差押物ヲ餘スモ競賣ヲ止メ其剩餘ノ差押物件ハ差押ヲ解キ
テ直チニ之ヲ債務者ニ還附ス可キモノトス(第五百七
十八條)
競賣期日ニ於テ爲ス可キ競落ヲ終了シタルトキハ代金支拂ニ付キ特

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行、一五七

定期日ノ定ナキ以上ハ執達吏ハ前陳ノ賣却條件ニ從ヒ期日終結前競
落人ヲシテ其代金ヲ支拂ハシメ若シ其支拂ナキトキハ直チニ再競賣
ヲ爲ス可キモノトス

執達吏ハ競賣實施ニ付テハ之カ調書ヲ作ラサル可カラス(第四百四十九條)此調
書ハ之ヲ競賣調書ト云フ

執達吏カ競賣ノ實施ニ因リ競落人ヨリ其代金ヲ領收シタルトキハ金
錢ヲ差押ヘタルトキト同シク保證又ハ供託ニ依リテ執行ヲ免カル、
コトヲ許サレタル場合ノ外ハ債務者ヨリ直チニ債務ノ辨濟ヲ爲シタ
ルモノト看做ス(第五百七十九條)

(三) 例外ノ換價方法 差押物ノ性質ニ依リ又ハ特種ノ場合ニ於テハ通
常ノ換價方法ヲ用キス特別ノ方法ニ依ルコトアリ

(甲) 金銀物ノ換價 執達吏カ金銀物例ヘハ古金銀又ハ金銀ヲ以テ製
造シタル器具若クハ時計ノ如キ物件ヲ差押ヘタルトキハ其競賣ヲ
爲ス前豫メ鑑定人ノ評價ヲ爲サシム可キモノニシテ其評價シタル
實價マテ競買ヲ爲ス者ナキトキハ競落ヲ許サス當時競買申出人ノ

爲シタル最高價ヲ競賣調書ニ附記シテ競賣ヲ停止シ其實價ニ達ス
ル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却ス可キモノトス(第五百八十條)

(乙) 有價證券ノ換價 執達吏カ有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場ア
ルモノト然ラサルモノトニ依リテ換價方法ヲ異ニス抑モ有價證券
ナルモノハ公定ノ相場アルヲ常トスレトモ其賣却ノ當時ニ於ケル
公定ノ相場ナキコトアリ故ニ其相場アルトキハ競賣ノ方法ニ依ル
コトヲ要セスシテ賣却日ニ於ケル一定ノ相場ヲ以テ適宜ニ賣却ス
ルコトヲ得ルモ其相場ノ立タサルモノナルトキハ他ノ有體動産ト
同一ノ方法ヲ以テ之カ賣却ヲ爲サ、ル可カラス(第五百八十一條)

右ノ如ク適宜ノ賣却方法ニ依ルモ競賣ノ手續ニ依ルモ有價證券ノ
賣買ハ當事者間ノ賣買ノミニテハ未タ以テ第三者ニ對シテ完全ナ
ル權利ヲ移轉スル效力ヲ生スルニ至ラス(商法第五百五十一條參看)殊ニ記名ノ有
價證券ノ如キハ其名義ノ書換ヲ爲スニ非ラサレハ完全ニ其權利ヲ
取得スルコトヲ得ス斯ル場合ニ於テ債務者カ任意ニ其書換等ノ手
續ヲ盡ストキハ何等ノ處分ヲモ要セスト雖モ若シ之ヲ拒ムトキハ

之カ書換等ヲ爲ス手續ヲ爲サ、ル可カラス此場合ニ在リテハ執行
裁判所ハ債務者ニ代リテ書換ヲ爲サシメ又當事者ノ陳述ヲ必要ト
スルトキハ債務者ニ代リテ其陳述ヲ爲スノ權利ヲ執達吏ニ付與ス
可キモノトス(第二百五八條)

若シ有價證券ニシテ流通ヲ禁シタルモノナルトキハ其流通回復ヲ
爲シ又ハ無記名證券ヲ記名ニ換ヘ之カ爲メニ必要ナル陳述ヲ債務
者ニ代リテ爲スノ權利ヲ執達吏ニ付與スルコトヲ得(第二百五八條)

(丙) 果實ノ換價 果實ハ未タ土地ヨリ離レサル以前ト雖モ成熟時期
一个月以内ニ至ルモノハ動産トシテ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキハ
前ニ説述セシ所ナリ(第二百五六條)然レトモ其競賣ニ至リテハ成熟ノ後
ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ許サ、ルカ故ニ一般ノ規定ニ從ヒ差
押後單ニ七日ノ期間ヲ以テ直チニ競賣ニ付スルコトヲ得ス是レ蓋
シ成熟時期ニ至ラサル果實ヲ賣却スルトキハ相當ノ價額ヲ得ルコ
ト能ハサレハナリ故ニ斯ル場合ニ於テハ其成熟後始メテ競賣ヲ爲
サシム(第二百五八條第一項)

(丁) 蠶ノ換價 蠶ハ揚リ蠶トナリタルトキハ未タ繭トナラサル以前
ニ於テモ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシト雖モ其競賣ハ全ク繭トナリ
タル後ニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第二百五八條第二項)

(戊) 執行裁判所ノ命令ニ依ル特別ノ換價 執行裁判所ハ關係債權者
又ハ債務者ノ申立アルトキハ前ニ説明シタル換價方法ノ外他ノ方
法ヲ用キ又ハ差押ノ場所以外ノ地ニ於テ差押物ヲ賣却セシメ又ハ
執達吏以外ノ者ヲシテ賣却ヲ爲サシムルコトヲ得(第二百五八條)但此方
法ニ依ルモ唯其換價ノ方法ニ付テノ特別手續ナレハ縱令執達吏以
外ノ者ニ賣却ヲ爲サシムルモ其賣却代金ノ支拂等ニ關シテハ執達
吏ニ之ヲ爲ス可ク且爾後執行上ノ手續ハ執達吏力之ヲ盡サ、ル可
カラス

(第三) 數名ノ債權者ノ執行及ヒ配當要求
同一ノ債務者ニ對シ債權者數名アリテ何レモ執行力アル正本ヲ有シ同
時ニ同一ノ執行機關ニ對シ同一ノ執行ヲ求メタルトキハ其數名ノ債權
者ノ爲メ同時ニ普通ノ手續ニ從ヒ差押ヲ爲スタ得ヘク又全ク異ナル目

數名ノ債權者
ノ執行及ヒ配
當要求

的物例へハ一人ハ有體動産ニ對シ他ノ一人ハ不動産ニ對シ執行ヲ求ムルカ如キ場合ニモ其間ニ手續上ノ關係ナキカ故ニ普通ノ手續ニ從ヒ執行ヲ爲スヲ得ヘク敢テ困難ナル問題ヲ生セス然レトモ一人ノ債權者カ先ツ債務者ノ或財産ニ對シテ差押ヲ爲シタル後第二ノ債權者カ執行力アル正本ヲ以テ其目的物ニ付キ執行セントスルトキ又ハ單純ニ之カ配當ヲ受クントスルトキハ此等數名ノ者ノ間ノ關係ヲ定ムルコトヲ要ス而シテ此點ニ付テハ法制ノ主義ノ異ナルニ從ヒテ其趣旨ヲ異ニス前述ノ如ク差押ノ效力トシテ質權ヲ生セシメ優先權ヲ得セシムル法制タル獨逸法ノ如キハ配當加入ノ手續ヲ定メス差押ハ順次ニ之ヲ爲サシメ唯其間ニ差押ノ效力ニ付テ順位ヲ定ムルニ過キス然レトモ差押ノ效力トシテ質權ヲ生セシメス債權者ノ總財産ハ各債權者ノ共同擔保ト看做シ債權ノ種類日附ノ前後執行力アル正本ノ有無ニ拘ハラズ平等分配主義ヲ採用スル我法制ノ如キニ至テハ差押債權者以外ノ債權者ニ配當要求ヲ爲スコトヲ得セシメサル可カラサルヲ以テ之ニ關スル手續アルコトヲ必要トス即チ我民事訴訟法ノ如キ差押ニ因リ質權ヲ生セシメサ

ル法制ニ在リテハ差押ノ效力ハ單ニ債務者ノ財産ヲ拘束シ執行ニ服從セシムルニ外ナラサルヲ以テ既ニ第一ノ債權者カ差押ヲ爲シタル後他ニ執行力アル正本ヲ有スル債權者アルモ之カ爲メニ更ニ差押ヲ許スハ無益ノ手續ニ屬ス是ヲ以テ本法ニ於テハ執行ノ手續上前差押ノ有無ヲ明カニシ得ヘキ場合ニ於テハ總テ二重ノ差押ヲ行ハシメサルヲ本則トス但債權ノ差押ハ之カ例外タリ然レトモ執行力アル正本ヲ有スル債權者ハ既ニ差押ニ係ルモノ、外尙ホ他ノ財産ニ對シテ執行ヲ爲シ得ヘキモノアレハ債權者相互ノ利益ヨリ謂ヘハ其差押物ニ付キ配當加入ヲ爲サシヨリハ別個ノ財産ヲ差押フルノ利ナルニ如カス法律ハ他ノ財産ノ差押ヲ強制シ他ニ財産アルトキハ配當ノ加入ヲ許サ、ルモノニ非ラス故ニ執行力アル正本ヲ有スル債權者ハ他ノ財産アルトキト雖モ既ニ差押ヘタル有體動産ノ執行ニ付キ配當ノ加入ヲ爲スコトヲ得然リト雖モ元來我民事訴訟法ハ有體動産全體ヲ一括シテ一ノ執行方法ヲ採ラシムルモノナルニ第一ノ差押ハ差押ノ通則ニ依リ執行力アル正本ニ掲ケタル債權額及ヒ執行費用ヲ辨濟ス

ルニ足ル可キ限度トナスモノナレハ債務者ノ有體動産中尙ホ殘餘ノ物件アルコトアルヘシ故ニ有體動産ノ執行ニ付キ執行力アル正本ニ基ク配當加入ノ手續ニ付テハ照査手續ナル方法ヲ規定シ此殘餘ノ物件ニ付キ差押ヲ盡シ一括シテ執行ヲ爲シ以テ數名ノ債權者間ニ配當ス可キモノトス

而シテ執行力アル正本ニ依ル債權ニ至リテハ單純ナル配當要求ヲ爲スモ其手續ハ同一ナラス(第五百八十六條)

(二) 執行力アル正本ニ依ル債權者ノ照査手續及ヒ配當要求 本法ニ於テハ特別ノ例外ヲ除ク外一度差押ヲ爲シタルモノニ對シテハ再度ノ差押ヲ爲スヲ許サ、ルヲ以テ本則トス故ニ執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ債權者ノ委任ヲ受クルモ既ニ差押ヘタル有體動産ニ對シテニ重ノ差押ヲ爲スコトヲ得ス唯此場合ニハ他ニ尙ホ差押フ可キ有體動産アルヤ否ヤニ付テ照査手續ヲ盡シ此方法ヲ以テ配當加入ノ手續トナスニ在リ故ニ執行力アル正本ニ依ル債權者ハ此手續ニ依ラサレハ執行力アル正本ニ基キ配當加入ヲ爲シタル效果ヲ得ルコト能ハス

此照査手續ハ第二ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏カ第一ノ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ニ對シテ既ニ差押ヲ爲シタル差押調書ノ閱覽ヲ求メ未タ差押ニ係ラサル財産アルヤ否ヤヲ對照シテ差押ニ係ラサル財産アルトキハ之ヲ差押ヘ照査調書ヲ作りテ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付シ併セテ之ヲ換價スルコトヲ求メ若シ他ニ差押フ可キ財産アラサルトキハ其旨ノ調書ヲ作り同前執達吏ニ交付ス可キモノトス而シテ此手續ハ競賣手續ノ終了ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百八十六條)

此手續ヲ盡シタルトキハ第二ノ債權者ノ執行委任ハ前差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上當然移轉ス可キモノトス

右ハ第一ノ差押ヲ爲シタル執達吏ト第二ノ執達吏ト異ナル場合ニシテ前後同一ノ執達吏カ委任ヲ受ケタル場合ニ付テハ法律ノ規定明確ヲ缺クト雖モ之ヲ準用シテ照査手續ヲ盡ス可キヲ相當トス
前述ノ如ク二重ノ差押ヲ禁シ照査手續ヲ爲ス規定ハ假差押ニ係ル物件ニ付テハ之ヲ適用セサルモノトス即チ假差押ノ物件ニ對シテハ更

ニ之ヲ差押ヘ之カ換價ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ然レトモ此場合ニハ其占有ハ債務者ノ手中ニ在ラサルカ故ニ第三者ノ手中ニ在ルモノトシテ差押ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス其差押ヲ爲シタル以上ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ヘシト雖モ假差押ニ係ル物件ナル以上ハ假差押債權者ハ其物件カ代金ニ代ハルモ之ニ付テ執行保全ヲ受クル權利ヲ有スルモノニシテ數多ノ債權者ノ爲メニ差押ヘタルモノナレハ本差押ヲ爲シタル者ノミニ其金額ヲ交付スルコトヲ得ス然レトモ之カ配當ヲ爲スニハ假差押債權者ノ權利ハ未タ確定セサルモノナレハ到底配當ノ協議ヲ盡スコト能ハス配當ノ協議調ハサルトキハ總テ執行裁判所ノ配當手續ニ依ラサル可カラス(第五百九十三條)而シテ執行裁判ハ斯ノ如キ未確定ノ債權ニ付テノ配當額ハ之ヲ供託ス可キモノトス(第六百三十七條)

右ニ述ヘタルカ如キ照査手續ヲ爲シタルトキハ左ノ效果ヲ生ス(第五十七條)

(イ) 照査調書ヲ前執達吏ニ交付スルニ因リ配當要求ノ效力生ス

(ロ) 第一ノ差押カ取消トナリタルトキハ次ノ照査手續ハ差押ノ效力生ス

(二) 執行力アル正本ニ依ラサル配當要求 本法及ヒ民法ハ平等分配主義ヲ採用シタルカ故ニ執行力アル正本ヲ有セサル債權者ト雖モ他人カ差押ヲ爲シタル有體動産ノ賣得金ニ付テ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ舊民法債權擔保編第一條ニ於テハ斯ノ如キ債權者カ配當要求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明示セリ現行民法ニ於テハ斯ル規定ナシト雖モ其精神ニ至リテハ異ナルコトナシト信ス(第五百八十九條)執行力アル正本ニ依ラサル配當要求ノ手續ハ其債權原因ヲ開示シ執達吏ニ向テ之ヲ爲ス可キモノトス而シテ其配當要求者カ裁判所所在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其要求ト共ニ假住所ヲ設定シ之カ申出ヲ爲ス可キモノトス蓋シ配當手續ハ各債權者間ノ協議調ヒタル場合ノ外ハ一般ニ執行裁判所ノ執行行為ニ屬ス可キモノナレハ其要求ハ此配當機關ニ申出ツ可キモノナレトモ其當時ニ於テハ執達吏ハ執行手續ノ實施中ニ在ルヲ以テ之ニ提出セシムルモノトスルニ在リ(第五百九十九條)此配當

要求モ亦競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得故ニ配當期日終
リタル後ハ縱令未タ配當セサル前ト雖モ此配當要求ヲ許サス(第九十二
條)

以上説明シタル二個ノ配當要求アリタルトキハ執達吏ハ其配當要求ア
リタルコトヲ各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可キモノトス而シテ執行力
アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達
吏ノ右通知アリタルトキヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤ
ヲ執達吏ニ申立テサル可カラス若シ債務者カ之ヲ認諾セサル旨ヲ申立
テタルトキハ執達吏ハ之ヲ債權者ニ通知ス可ク然ルトキハ債權者ハ其
通知アリタルトキヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ其債
權ヲ確定スルニ非ラサレハ配當ヲ受クルコトヲ得サルナリ(第一百五九
條)

辨濟ノ手續

(第四) 辨濟ノ手續
金錢ニ付テノ債權ノ強制執行ハ差押ヘタル金錢又ハ差押物ノ賣得金ヲ
以テ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ目的トスルモノナレハ之カ辨濟ノ手續アル
ヲ要ス

**(一) 金錢其モノヲ差押ヘタルトキハ他ノ債權者ハ殆ト配當要求ヲ爲ス
ノ時期ナシ故ニ其金錢ハ總テ差押債權者ノ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ通
例トス可キモノニシテ執達吏カ之ヲ差押フルニ依リテ辨濟アリタル
モノト看做ス(第四百七十一
條第二項)**

**(二) 金錢以外ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ他ニ配當要求者ナキ
カ又ハ之アルモ其賣得金ヲ以テ各債權者ノ債權ヲ満足セシムルニ充
分ナルトキハ別段ノ手續ヲ要セスシテ執達吏カ其賣得金ヲ領收シタ
ルトキ債權ノ辨濟アリタルモノト看做ス(第四百七
九條)**

**(三) 金錢以外ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ數名ノ差押債權者若クハ
配當要求者アリ而モ其賣得金ヲ以テ各債權者ノ債權ヲ満足セシムル
ニ足ラサルトキハ之カ配當ノ手續ヲ盡サ、ル可カラス而シテ其配當
ニ關シ各債權者間ニ配當ノ協議調ヒタルトキハ其協議ニ因リ債權ノ
辨濟ヲ爲シタルモノトシテ其協議ニ基キ執達吏自ラ其賣得金ヲ分配
スルコトヲ得ヘシ**

競賣期日又ハ金錢取立ノ期日ヨリ十四日内ニ其協議調ハサルトキハ
民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一六九

執達吏自ラ其債權ノ性質等ヲ判斷シテ之カ配當ヲ爲スノ權ヲ有セス
 此場合ニハ必ス執行裁判所ノ配當手續ニ移シ同裁判所ニ於テ之カ配
 當ヲ實施ス可キモノトス故ニ此場合ニハ執達吏ハ其賣得金ヲ供託シ
 テ執行書類ヲ添ヘ事情ノ届出ヲ執行裁判所ニ爲サ、ル可カラス(第五
 百二十六條第六
 十三條第六)
 而シテ茲ニ一ノ注意ス可キ事項ハ假差押ニ係ル物件ハ更ニ他ノ債權
 者ヨリ之ヲ差押フルコトヲ妨クサルコトハ前ニ説明セシ所ナリ然レ
 トモ之カ爲メ執行保全タル假差押ノ利益ヲ消却セシム可キニ非ラス
 故ニ其債權額ノ割合ニ應シテ賣得金ニ付キ執行ノ保全ヲ受クル權利
 ナ保存セサル可カラス是ヲ以テ此場合ニハ差押債權者中假差押債權
 者ト本差押債權者ノ兩者ヨリ其假差押債權者ノ債權未タ確定セサル
 モノナレハ直チニ配當ノ協議ヲ爲シ能ハサルハ當然ナリ故ニ執達吏
 ハ此場合ニハ協議調ハサルモノトシ賣得金ヲ供託シ事情ノ届出ヲ爲
 サ、ル可カラス又配當要求債權者中債務者ヨリ異議ノ申立ヲ受ケタ
 ル者モ(第五
 百二十九條
 第十項)未タ債權確定セサルモノナレハ協議ヲ盡スコト能

ハサルモノトシテ前同様ノ手續ニ從ハサル可カラス

右事情届出ノ後ニ於ケル執行裁判所ノ配當手續ハ債權ニ對スル執行
 フ配當手續ト共ニ後款ニ規定アルカ故ニ後ノ説明ニ讓ル可シ(第六百
 二十六條
 以下)

辨濟ノ手續ニシテ執行裁判所ノ配當手續ヲ要セス執達吏カ金錢ヲ差
 押ヘ又ハ賣得金ヲ領收シ若クハ協議ニ基キ配當ヲ爲ストキハ遲延ナ
 ク之ヲ債權者ニ交付シ(第五百七十
 四條第二項)全部ノ辨濟アリタルトキハ執達吏
 ハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ債務者ニ交付シ其一部辨濟ニ過
 キサルトキハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ニ其旨ヲ記入シテ債權
 者ニ還附ス可キモノトス(第五百三
 十五條)

第二款 債權及ヒ其他ノ財産權ニ對スル強制執行

民事訴訟法ニ於テハ金錢ノ債權ノ爲メニスル強制執行中動産ニ對スル強
 制執行ヲ有體動産ニ對スル執行ト債權其他ノ財産權ニ對スル執行トニ區
 別セラレタリ蓋シ民法ニ所謂動産、不動産ノ區別ハ有體物ニ對スル區別ニ
 シテ債權ノ如キ無形ノ權利ヲ動産ト稱スルハ民法ニ適合セス故ニ此強制

執行法ニ所謂動産、不動産ノ意義ハ直チニ民法ニ從フ能ハサルコトハ嘗テ一言セシ所ナリ特ニ本款中其他ノ財産權ニ至リテハ不動産上ノ權利ヲモ包含スルコトアリ故ニ本法中ノ動産、不動産ノ區別ハ此規定ノ趣旨ニ從テ分タサル可カラス

而シテ本款ニ所謂債權中ニハ金錢ノ支拂又ハ物ノ給付ノ債權及ヒ公法上ヨリ生スル財産ノ一種ノ權利ニシテ差押ヲ爲シ得ヘキモノモ包含ス其他ノ財産權中ニハ前款ニ依ル有體動産ノ所有權、後款ニ規定スル不動産又ハ船舶及ヒ右ニ述ヘタル債權ニ屬セサル權利ハ總テ之ニ包含スルモノトス此債權及ヒ其他ノ財産權中如何ナル權利ハ差押フルコトヲ得如何ナル權利ハ差押フルコトヲ許サ、ルヤハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ通則トシテ前ニ説明シタル所ナレハ茲ニ再說セス

金錢債權ノ爲メニ債務者ノ有スル債權又ハ其他ノ財産權ニ對シテ爲ス強制執行ハ執達吏ノ職務ニ屬セス總テ執行裁判所ノ執行行爲ニ屬スルモノトス(第五百九十四條)故ニ債權者カ此等ノ財産權ニ對シ強制執行ヲ爲サント欲セハ執行裁判所ニ之カ申立ヲ爲サ、ル可カラス而シテ其執行裁判所

差押

トシテ之カ執行行爲ヲ爲ス可キ裁判所ハ其差押ヲ爲サントスル債權ノ種類ニ依リ同一ナラス故ニ以下順次ニ之ヲ説明セン

其差押ヲ爲ス可キ債權ノ種類ノ如何ト之カ執行ヲ爲ス裁判所ノ如何ニ拘ハラズ本款ノ執行ヲ爲スニ付テモ強制執行ニ關スル一般ノ通則ニ從ヒ執行力アル正本ヲ執行機關ニ提出シ且執行着手ノ要件トシテ債權者、債務者ノ氏名ヲ其正本ニ表示シアリ且債務名義ハ執行前又ハ其着手ト同時ニ債務者ニ送達シアルヲ要ス(第五百二十八條)

此執行ノ方法ニ至リテハ前ニ述フル如ク債權ノ種類ニ依リ同一ナラサレハ先ツ最モ普通ナル金錢ノ債權ニ對スル執行ヲ論シ其他ノ債權又ハ他ノ財産權ニ對スルモノハ此規定ヲ準用シ其準用ヲ爲シ能ハサル場合ニ限リ特別ノ規定ヲ爲セルモノナレハ後段ニ之ヲ説明セントス

(第一) 差押

金錢債權ノ爲メ債務者ノ有スル金錢ノ債權ニ對シテ強制執行ヲ爲スモ先ツ之カ差押ノ手續ヲ爲サ、ル可カラス而シテ其差押ニ付テハ左ノ規定ニ從フモノナリ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一七三

(三) 管轄執行裁判所 金錢債權ニ對スル強制執行ハ執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所若シ其區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ依リ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ其管轄トナス(第五百九十四條、第五百九十五條)

(二) 差押ノ申請 債權者カ此執行ノ申請ヲ爲スニハ強制執行ノ通則ニ從フノ外尙ホ其差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ示シ書面又ハ口頭ヲ以テ差押命令ノ申請ヲ執行裁判所ニ爲ス可キモノトス(第五百九十六條) 茲ニ債權ノ種類トハ債務者カ第三債務者ニ對スル債權即チ貸金ナリヤ預金ナリヤ將又賣懸金ナリヤヲ示スカ如キヲ謂フ 又抵當權アル金錢ノ債權ヲ差押フルトキハ債權者ハ其差押ヲ爲シタルコトヲ登記簿ニ記入セシムル權利ヲ有ス故ニ差押ノ申請ト共ニ其記入ノ申請ヲモ併セテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百九十九條) 又債權者ハ第三債務者ヲシテ一定ノ期間内ニ書面ヲ以テ債權ノ認否請求ノ有無差押ノ存否ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得(第六百條)

(三) 差押ノ實施 金錢ノ債權ノ差押ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス(第六百條) 其命令ニハ左ノ二個ノ禁止ヲ明示スル裁判ヲ以テセサル可カラス(第五百九十八條)

(甲) 第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スヲ禁スルコト

(乙) 債務者ニ對シテ債權ノ處分ヲ一切禁スルコト 此命令ハ債權者ノ申請ニ因リ豫メ第三債務者及ヒ債務者ヲ審訊スルコトナクシテ之ヲ發ス可キモノナリ故ニ此命令ハ必スシモ債權カ現實ニ存在スルヤ否ヤヲ確定シテ之カ裁判ヲ爲ス可キモノニ非ラス唯債權者ノ申請ニ因リ差押フ可キ性質ノ債權ナリヤ否ヤヲ調査シテ之ヲ差押ヘ得ヘキモノト認ムルトキハ差押命令ヲ發シ然ラサルトキハ其申請ヲ却下ス可キモノトス(第五百九十七條) 而シテ却下ノ裁判ニ對シテハ債權者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク又差押ノ命令ニ對シテハ債務者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(第五百九十八條)

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ債權者ニ對シテハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知ス可キモノトス而シテ此命令ヲ第三債務者ニ對シテ送達シタルトキハ以テ差押ノ效力ヲ生ス(第五百九十條第三項)差押ヘタル債權カ抵當權ノ設定アルモノニシテ債權者ヨリ前述セシ如ク差押登記ノ申請アリタルトキハ差押命令ヲ第三債務者ニ送達シタル後其差押ノ記入ヲ登記官吏ニ囑託ス可ク若シ抵當物ノ所有者カ第三債務者以外ノ第三取得者ナルトキハ其者ニモ亦差押命令ヲ送達シ其後ニ登記ノ囑託ヲ爲ス可キモノトス(第五百九十條第三項)又差押債權者ヨリ第三債務者ニ陳述ヲ爲サシメシメコトノ申立アリタルトキハ裁判所ハ差押命令送達ヨリ七日ノ期間内ニ第三債務者ヲシテ左ノ陳述ヲ爲ス可キコトヲ催告ス

(甲) 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス可キ意思ノ有無及ヒ其限度

(乙) 債權ニ付キ他人ヨリ請求ノ有無及ヒ其種類

(丙) 債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其種類

類

此等ノ催告ハ送達證書ニ記載ス可ク第三債務者カ其期間内ニ陳述ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ之ニ因リテ生スル損害ヲ賠償スルノ責任ス可キモノトス(第六百九條)

斯ノ如ク規定スル所以ノモノハ元來債權ノ差押ハ第三債務者ヲ審訊シテ其債權ノ存在ヲ調査セス單ニ差押債權者ノ申立ニ因リ差押命令ヲ發ス可キモノナレハ其債權ノ存否ハ勿論他人ヨリ請求アリシヤ否ヤモ知ル可カラス從テ全ク差押ノ實效ナキモノヲ差押フルカ如キコトナキヲ保シ難キカ故ニ債權者ヲシテ之ヲ知ルノ機會ヲ得セシムルモノナリ

(四) 金錢債權ノ差押ニ付テノ特別ナル效力 差押ノ一般ノ效力ハ通則ニ於テ説明セシ所ナレトモ債權ノ差押ニ付テハ特別ナル效力ヲ生スル場合アルヲ以テ之ヲ摘示セン

(甲) 此差押ハ差押命令ノ趣旨ニ從ヒ債務者ニ對シ其債權ノ處分ヲ禁止スルモノナリ蓋シ差押ノ一般ノ效力ハ必スシモ其權利ノ處分ヲ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一七七

絶對ニ禁止スルモノニ非ラスト雖モ債權ノ差押ニ限リ一ノ特例ナ
リトス又其差押命令ニ因リ第三債務者ハ債務者ニ對シ其債務ノ辨
濟ヲ爲スコトヲ得ス若シ之ニ違背スルトキハ第三債務者ハ民法ノ
規定ニ依リ(民法第四百八十一條參看)更ニ辨濟ヲ爲サ、ルヲ得サルノ責任アル
モノトス(第五百九十八條)

(乙) 俸給又ハ之ニ類スル繼續收入ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ其差押
債權額ヲ限度トシテ差押後ニ收入ス可キ金額ニモ其效力ヲ及ホス
可キモノトス(第四百六條)

(丙) 職務上ノ收入ヲ差押ヘタルトキハ其差押後債務者カ轉職若シハ
兼任又ハ増俸ニ因リ收入ヲ増加シタル場合ニ於テモ其増加額ニマ
テ差押ノ效力ヲ及ホス可キモノトス(第五百五條)

(丁) 債務者ハ差押ニ因リ所持ノ債權證書ヲ差押債權者ニ引渡ス可キ
義務ヲ生ス其引渡ヲ爲サ、ルトキハ債權者ハ差押命令ニ基キ物品
給付ニ關スル強制執行ノ方法ヲ以テ債務者ヨリ之カ取上ヲ爲スコ
トヲ得然レトモ第三者ノ占有中ニアルモノハ直チニ之ヲ強制スル

差押債權ノ移
付及ヒ特別ノ
換價

(第二)

差押債權ノ移付及ヒ特別ノ換價

コトヲ得サルモノナリ(第六百六條)

以上ノ差押手續ニ依リ債務者ノ有スル金錢ノ債權ヲ差押フルモ未タ第
三債務者ヨリ差押債權者ニ債務ヲ支拂フ義務ヲ生セス亦差押債權者モ
第三債務者ニ對シ支拂ヲ促カス權利ヲ生スルモノニ非ラスト故ニ其差押
債權ハ未タ現實ニ金錢ニ代ヘ差押債權ノ辨濟ニ充ツルノ域ニ達セス是
ヲ以テ其差押後ニ於テ其債權ヲ金錢ニ代フルノ途ナカラサル可カラズ
一般ノ差押ニ付テハ換價ノ方法アリテ其差押物ヲ賣却シ金錢ヲ得ルモ
ノナリト雖モ茲ニ説明セントスル金錢債權ノ差押ニ付テハ換價ノ方法
ニ依ラス差押債權者ニ權利移付ノ手續ヲ爲シ以テ金錢ニ代ヘ辨濟ニ充
ツルノ手續トナスニ在リ

其權利移付ノ手續ハ差押債權者ノ申請ニ因リ差押債權者ニ取立ノ爲メ
ノ移付ノ命令ヲ爲シ若シハ轉付ノ爲メノ移付ノ命令ヲ爲スニ在リ差押
債權者ハ此二個ノ方法中其一ヲ選擇シテ之カ申請ヲ爲スコトヲ得然レ
トモ第五百五條第二項ノ規定ニ從ヒ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託

ヲ爲サシメテ執行ヲ免カル、コトヲ許ス即チ條件附ノ假執行ノ宣言ニ基ク執行ハ單ニ取立命令ヲ求メ得ヘキノミニシテ其取立命令モ之ニ從ヒ第三債務者ヲシテ差押債權者ノ取立ニ依ル支拂トシテ債務額ヲ供託セシムル效アル命令ヲ爲スニ過キス(第六百七條)

右ノ特別ノ場合ノ外ハ差押債權者ハ債權移付ノ爲メ取立命令轉付命令申其孰レヲ申請スルモ妨ケナシ而シテ其申請ハ差押命令ヲ申請スル際同時ニ併セテ申請スルコトヲ得ヘシト雖モ最初同時ニ其申請ヲ爲サ、ルトキハ裁判所ハ單ニ差押命令ノミヲ發ス可キヲ以テ更ニ其移付ノ命令ヲ申請セサル可カラス裁判所カ其移付ノ命令ヲ更ニ發スルトキハ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ債權者ニハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知ス可ク且此命令ノ效力ハ第三債務者ニ對スル送達ニ因リテ發生スルモノナルコトハ差押命令ト同一ナリトス(第六百六條)

以下取立命令及ヒ轉付命令ノ性質及ヒ效力ニ付テ詳論セン

(一) 取立ノ爲メノ移付ノ命令

取立命令

(甲) 取立命令ノ性質 取立命令ノ性質ハ敢テ債權ヲ全然差押債權者

ニ移轉セシムルモノニ非ラス其債權ハ依然トシテ債務者ノ權利ニ屬シ唯差押債權者ハ裁判上ノ認許ニ依リ債務者ニ代リテ第三債務者ニ辨濟ヲ求ムル權利ヲ得ルニ過キス而シテ其取立權ノ行使ニ付テハ民法ノ規定スル代位ノ手續ヲ要スルコトナク(民法第四百二條)其命令ニ依リテ當然之カ取立ノ權利ヲ有スルモノトス

斯ノ如ク差押債權者ハ之カ取立權ヲ有スト雖モ其債權ハ尙ホ債務者ノ有スルモノナルカ故ニ債權上ノ危險ハ差押債權者ノ懈怠ニ基因スルモノ、外ハ債務者ノ負擔ニ屬シ又第三債務者モ債務者ニ對シテ有スル債權ト相殺スルコトヲ妨ケス

(乙) 取立權ノ行用 此取立權ハ執行ノ目的ヲ達スルカ爲メニ付與スルモノナルハ差押債權者ハ相當ノ時期ニ於テ其取立ヲ爲シ之ヲ取立テタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可キ義務アルモノトス(第六百八條)是レ獨リ差押債權者ノ義務タルノミナラス取立ノ届出アルマテハ他ノ債權者ヨリ配當要求ヲ爲シ得ヘキモノナレハ債權ノ性質上爲シ得ル限リハ速カニ取立權ヲ行用シ其旨ヲ届出ツル

ハ差押債権者ノ利益ナリ而シテ其届出アルマテニ配當ノ要求ナキト
キハ其取立金ノ全部ニ付キ差押債権者ハ自己ノ債権ノ辨濟ヲ受ク
ルコトヲ得

差押債権者カ取立權ノ行用ヲ怠リタルトキハ之カ爲メニ債務者ニ
生シタル損害ヲ賠償セサル可カラス是レ蓋シ債務者ハ差押命令ニ
依リ自ラ取立ヲ爲スノ權利ヲ妨ケラレ其取立權ハ差押債権者ノ有
スル所ナルニ拘ハラス相當ノ時期ニ請求スレハ債権ノ辨濟ヲ受ク
ルコトヲ得ヘカリシニ其期ヲ失シタルカ爲メ第三債務者ノ資力ニ
異動ヲ生シ完全ナル辨濟ヲ得ルコト能ハサルニ至ルコト往々之ア
リ斯ル場合ヲ生スルハ畢竟差押債権者カ取立ノ手續ヲ怠リタル結
果ナルカ故ニ法律ハ之ニ責任ヲ負ハシムルモノナリ(第六百一十一條)又其取
立權ノ行用ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ依リ配當ノ要求ヲ
爲ス債権者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ差押債権者ニ
催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ配當要
求者自ラ之ヲ取立ルコトヲ得ルモノトス(第六百一十二條)

然レトモ差押債権者カ取立命令ニ依リ得タル權利ヲ行用スルコト
ヲ欲セサルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ而シテ其拋棄ノ
爲メ自己ノ主タル請求權ヲ害スルコトナシト雖モ其拋棄ハ執行裁
判所ニ届出テ之ヲ爲スニ非ラサレハ其效ナシ其届出ヲ爲サンニハ
第三債務者及ヒ債務者ニ送達ス可キ必要ナル謄本ヲ提出ス可キモ
ノトス(第四百一十二條)

(丙) 取立ノ範圍 取立命令ノ效力ハ特別ナル制限ナキ以上ハ差押債
權全額ニ及フ本則トス是レ支拂ニ代ヘテ券面額ニテ轉付スル命
令ヲ受クルト大ナル差異アル點ナリ然レトモ其差押債權額カ差押
債権者ノ請求額ヨリ非常ニ超過スル場合ニ在テ之カ爲メニ債務者
カ其債權全額ノ處分ヲ禁セラレ其取立權ノ全部ヲ停止セラルハニ
至ルハ債務者ノ困難尠ナカラス故ニ斯ル場合ニハ執行裁判所ハ債
務者ノ申立ニ因リ差押債権者ヲ審訊シタル後差押債権者ノ請求額
マテニ其取立ヲ制限シ其超過額ニ付テハ債務者ニ取立ヲ許シ若ク
ハ其他ノ處分ヲ許スコトヲ得ヘシ是レ債務者保護ノ精神ニ出テタ